茨城県行方郡麻生町

ワラビ台遺跡

調査報告書

1996年6月

ワラビ台遺跡調査会

序

茨城県の東南に位置し、縄文海進期には大きな入り江であったと考えられる霞ヶ浦と北浦のふたつの大きな湖が西と東によこたわる麻生町、人が生活するに極めて良好な自然環境であったことは先人の残した多くの遺跡が物語っています。

町ではこれらの埋蔵文化財を保護し後世に継承することの重要性を踏まえ、その対応に努力しているところではありますが、近年の産業構造や生活様式の変化に伴う開発や造成が増加する中での遺跡の現状維持保存は年々難しくなってきております。

この度、麻生町外２ヶ町村環境美化組合の生活廃棄物処理施設建設予定地が埋蔵文化財包蔵地であることに伴い、文化財保護の立場から種々協議を重ねましたが、現在稼働している処理施設の処理能力が限界に近いこと、施設の性格から別の場所へ移転するのが困難であることなどの理由からやむを得ず発掘調査を実施して記録保存をすることになりました。

本調査を実施するにあたっては、寒風吹きすさぶ厳しい時節に発掘作業に従事された作業員の皆さん、表土除去の作業の都合により重機の取り替えに協力してくれた㈱根本工務店、そして不慣れで不手際が多い私どもに指導、助言をしてくださった県教育庁文化課、鹿行教育事務所の諸氏には大変お世話になりました。特に多忙な中、調査主任の職を引き受けてくださった鹿行文化研究所 汀　安衛氏は、他の発掘調査の休日をあてての確認調査、安全確保のため作業員が休みの雨天の日の表土除去作業の立ち会いなど、一方ならぬお骨折りをお掛けいたしました。

また、文化財保護に対する深いご理解のもと、発掘調査に係る一切の経費負担に理解下された麻生町外２ヶ町村環境美化組合関係各位に対しまして深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

最後に、本書が幅広く活用され貴重な文化資料となることを期待申し上げあいさつと致します。

平成８年６月

ワラビ台遺跡発掘調査会
会長　根　本　宗　一
（麻生町教育長）

例　　言

1．本報告書は、茨城県行方郡麻生町大字麻生3268－14番地の発掘調査報告書である。

1．本遺跡の調査は、生活廃棄物処理施設建設工事に先行する埋蔵文化財の調査である。

1．本遺跡の現地調査は、平成７年11月16日～12月６日まで行ない、整理作業は平成７年12月17日～平成８年５月25日まで行った。

1．本遺跡の調査は、汀安衛が担当し、麻生町外２ヶ町村環境美化組合の生活廃棄物処理施設拡張工事の為の発掘である。整理作業は、図面の原図は汀、トレースは、戸島和子、拓本は佐々木トミ子、水洗注記は汀昌子、遺物実測は汀、戸島、版組を戸島と佐々木、表は佐々木がそれぞれ行ない、汀が執筆及び、総括して行なった。

1．本報告の縮尺は、遺構は1／20、水糸レベルは図中に表示した。遺物も1／20とした。

1．本調査は麻生町外２ヶ町村環境美化組合からの委託事業である。

1．本調査にあたり、次の方々の御協力を得た。

高須松男	菅谷益尚	根本武雄	大川善久
小林政子	大川すい	宮内春江	宮内兵助
箕輪　功	横田泰隆	宮内志づゑ	石神とみ子
清宮　久	山野たけ	大崎千代子	永沢すて
本沢フク	鬼沢カツ	箕輪孝子	羽生勝美
前田京子	戸島和子	佐々木トミ子	

県文化課、鹿行教育事務所、麻生町教育委員会、箕輪商事、麻生町外２ヶ町村環境美化組合職員の協力を得た。記して感謝を表したい。

目　　次

序
Ⅰ　位置と環境 …… 1
Ⅱ　調査経過と調査日誌 …… 1
Ⅲ　調査概要 …… 4
Ⅳ　遺構と遺物
1．土坑
第1・2・3号土坑 …… 7
第4・5・6・7号土坑 …… 10
第8・9・10・11号土坑 …… 13
第12・13・14号土坑 …… 14
第15・16・17・19・20号土坑 …… 17
第21・22・23・24号土坑 …… 21
第25・26号土坑 …… 22
第27・28・29・30・31号土坑 …… 23
第32・33・34・35・36号土坑 …… 27
第37・38・39・40号土坑 …… 28
第41号土坑 …… 30
第41′・42・43・44号土坑 …… 33
第45・46・47・48号土坑 …… 34
第49号土坑 …… 35
第50・51・52・53号土坑 …… 37
第54・55・56・57・58号土坑 …… 38
第59・60・62・63・61号土坑 …… 42
第64・65・66・67号土坑 …… 44
第68・69・70・71号土坑 …… 48

第72号土坑 …… 49
第73・74・75・76号土坑 …… 52
第77・78・79・80号土坑 …… 54
第81・82・83号土坑 …… 56
第84・85・86号土坑 …… 58
第87・88・91・92号土坑 …… 60
その他の遺物 …… 63
V 総　　括 …… 70

挿　図　目　次

第１図　遺跡周辺地形及び位置図 …… 2
第２図　遺構・全測図 …… 6
第３図　ＳＫ－１・２土坑実測図 …… 8
第４図　ＳＫ－2～22号出土遺物拓影・実測図 …… 9
第５図　ＳＫ－３・４・５号実測図 …… 11
第６図　ＳＫ－６・７・８号実測図 …… 12
第７図　ＳＫ－９・10号実測図 …… 15
第８図　ＳＫ－11・12号実測図 …… 16
第９図　ＳＫ－13・14・15号実測図 …… 18
第10図　ＳＫ－16・17号実測図 …… 19
第11図　ＳＫ－19・20号実測図 …… 20
第12図　ＳＫ－21・22号実測図 …… 22
第13図　ＳＫ－23・24・25・26号実測図 …… 24
第14図　ＳＫ－27・28・29・30号実測図 …… 25
第15図　ＳＫ－26～65号出土遺物拓影・実測図 …… 26
第16図　ＳＫ－31・32・33・34号実測図 …… 29
第17図　ＳＫ－35・36・37号実測図 …… 30
第18図　ＳＫ－38・40・41・41′号実測図 …… 31
第19図　ＳＫ－39号実測図 …… 32
第20図　ＳＫ－42・43・44号実測図 …… 35
第21図　ＳＫ－45・46・47・48号実測図 …… 36
第22図　ＳＫ－49・50・51号実測図 …… 39
第23図　ＳＫ－52・53・54・55号実測図 …… 40
第24図　ＳＫ－56・57・58号実測図 …… 41
第25図　ＳＫ－59・60・62・63号実測図 …… 43
第26図　ＳＫ－61・64号実測図 …… 45
第27図　ＳＫ－65・66号実測図 …… 46
第28図　ＳＫ－67・68・69・72・73号実測図 …… 47
第29図　ＳＫ－71号実測図 …… 49

第30図　ＳＫ－70～ＳＫ－81 号出土遺物拓影・実測図 …… 50
第31図　ＳＫ－ 71 出土石器実測図 …… 51
第32図　ＳＫ－74・75 号実測図 …… 53
第33図　ＳＫ－76・77・78 号実測図 …… 55
第34図　ＳＫ－79・80・81 号実測図 …… 57
第35図　ＳＫ－83・83′・84・85・86 号実測図 …… 59
第36図　ＳＫ－63～ＳＫ－91 号出土遺物拓影・実測図 …… 61
第37図　ＳＫ－87・88・91・92 号実測図 …… 62
第38図　表採遺物拓影図 …… 64
第39図　表採遺物拓影図 …… 65
第40図　表採遺物実測図 …… 66
第41図　表採遺物実測図 …… 67

図　版　目　次

ＰＬ－１　６号トレンチ、焼却場を望む。５号トレンチ遺構確認状態。トレンチ全景。４号トレンチ。遺跡全景とトレンチ

ＰＬ－２　ＳＫ－２完掘状態　ＳＫ－３完掘状態　ＳＫ－４完掘状態　ＳＫ－５完掘状態

ＰＬ－３　ＳＫ－６完掘状態　ＳＫ－７完掘状態　ＳＫ－８完掘状態　ＳＫ－９完掘状態

ＰＬ－４　ＳＫ－10遺物出土状態　ＳＫ－11完掘状態　ＳＫ－12実掘状態

ＰＬ－５　ＳＫ－13完掘状態　ＳＫ－14（上）ＳＫ－15（下）遺物出土状態　ＳＫ－16完掘状態

ＰＬ－６　ＳＫ－17完掘状態　ＳＫ－18土層と遺物　ＳＫ－19完掘状態

ＰＬ－７　ＳＫ－20完掘状態　ＳＫ－21完掘状態　ＳＫ－22遺物出土状態　ＳＫ－23完掘状態

ＰＬ－８　ＳＫ－24完掘状態　ＳＫ－25完掘状態　ＳＫ－26完掘状態　ＳＫ－27完掘状態

ＰＬ－９　ＳＫ－28完掘状態　ＳＫ－29完掘状態　ＳＫ－30完掘状態　ＳＫ－31完掘状態　ＳＫ－32完掘状態　ＳＫ－33遺物出土状態

ＰＬ－10　ＳＫ－34完掘状態　ＳＫ－35完掘状態　ＳＫ－36完掘状態　ＳＫ－37完掘状態　ＳＫ－38完掘状態　ＳＫ－39完掘状態

ＰＬ－11　ＳＫ－40完掘状態　ＳＫ－41遺物出土状態　ＳＫ－42完掘状態　ＳＫ－43完掘状態　ＳＫ－44完掘状態　ＳＫ－46完掘状態

ＰＬ－12　ＳＫ－47完掘状態　ＳＫ－48完掘状態　ＳＫ－49完掘状態　ＳＫ－50遺物出土状態　ＳＫ－53遺物出土状態

ＰＬ－13　ＳＫ－54(上)　ＳＫ－55(下)　完掘状態　ＳＫ－56遺物出土状態　ＳＫ－57完掘状態　ＳＫ－59完掘状態　ＳＫ－60遺物出土状態　ＳＫ－62完掘状態

ＰＬ－14　ＳＫ－63完掘状態　ＳＫ－65遺物出土状態　ＳＫ－66完掘状態　ＳＫ－67完掘状態　ＳＫ－69完掘状態

ＰＬ－15　ＳＫ－70完掘状態　ＳＫ－71遺物出土状態　ＳＫ－72完掘状態　ＳＫ－73完掘状態

ＰＬ－16　ＳＫ－74遺物出土状態　ＳＫ－77完掘状態　ＳＫ－82完掘状態

ＰＬ－17　ＳＫ－83遺物出土状態　ＳＫ－84完掘状態　ＳＫ－85完掘状態　ＳＫ－87完掘状態

ＰＬ－18　ＳＫ－88完掘状態　ＳＫ－91遺物出土状態　ＳＫ－92土層　ＳＫ－１調査状態

ＰＬ－19　ＳＫ－52完掘状態　ＳＫ－58完掘状態　ＳＫ－１～25出土遺物　ＳＫ－26～48出土遺物　ＳＫ－70～81出土遺物　ＳＫ－71出土遺物

ＰＬ－20　ＳＫ－83～91出土遺物　その他の出土遺物　その他の出土遺物　その他の出土遺物　その他の出土遺物

ＰＬ－21　遺構確認作業　調査終了後の全景

Ⅰ．遺跡の位置と環境

ワラビ台遺跡は麻生町大字麻生字ワラビ台3268－14番地の標高35ｍ程の台地上に位置し、町役場の北側1.5kmに位置する。遺跡は、麻生市街から入り込む解析谷、谷津のかなり奥まった地区に占地し最近まで遺跡としては知られていなかった。近年の分布調査に依り確認された遺跡で、遺物の散布は疎で表面観察では数片の縄文土器が認められるだけであった。

周辺には大麻貝塚、二本木要害、小屋下要害、麻生要害、島並要害、島並貝塚[注1]などが位置し史的環境に恵まれた地区に位置している。西側に以前ゴルフ場が造成され遺跡の存在は不明である。

前述のように調査区は半島状台地の奥部に位置し周辺は畑地と生活廃棄物処理場として利用され今回の調査は本施設の拡張に伴ない、これに先行する埋蔵文化財の調査であった。

遺物は縄文早期の土器が出土し遺跡は早期田戸式三戸式を主体とした遺跡であることが判明した。大部分畑として利用され調査前まで煙草畑として耕作されていた。

Ⅱ．１　発掘に至る経過

平成７年７月26日　麻生町外２ヶ町村環境美化組合から「埋蔵文化財の所在の有無およびその取り扱いについて」（照会）
平成３年度から５年度にかけて茨城大学茂木雅博教授に依頼した麻生町埋蔵文化財分布調査で発見された（仮称）ワラビ台南遺跡が照会地内に所在すると考えられることを伝える

同日　分布調査による発見をふまえ鹿行教育事務所埋蔵文化財指導員大沼信夫氏と教育委員会事務局職員が現地踏査

28日　回答　周知の埋蔵文化財あり

８月　麻生町外２ヶ町村環境美化組合と協議を重ねた結果、現在の生活廃棄物の処理能力が限界に近いこと、また施設の性格から別の場所へ移転するのは困難であることから発掘による記録保存を図りたいが、発掘調査を実施するに当たって８年度の建設計画を９年度に延期するとの申し入れがあった。

９月４日　文化財保護審議会に諮問
発掘による記録保存もやむを得ないとの答申

第１図　遺跡周辺地形及び位置図

7日　ワラビ台遺跡確認（試掘）調査会を発足
調査主任を鹿行文化研究所　汀安衛氏に依頼

9日　トレンチを設定しての試掘調査開始

24日　試掘調査終了

10月9日　確認調査会を開催　試掘調査結果報告

11月14日　ワラビ台遺跡発掘調査会およびワラビ台遺跡発掘調査団発足

20日　発掘調査開始

別紙2

ワラビ台遺跡発掘調査会		
会長	根本宗一	麻生町教育委員会教育長
副会長	藤崎謙一	麻生町文化財保護審議会会長
理事	茂木岩夫	麻生町文化財保護審議会副会長
	羽生　均	麻生町文化財保護審議会委員
	平輪一郎	麻生町文化財保護審議会専門調査員
	植田敏雄	麻生町文化財保護審議会専門調査員
	汀　安衛	調査主任
	小島邦男	麻生町外2ケ町村環境美化組合所長
	茂木　敏	麻生町教育委員会事務局長
監事	貝塚俊洋	麻生町出納室長
	斉藤誠一	麻生町外2ケ町村環境美化組合係長
幹事	額賀修一	麻生町教育員会　社会教育係長
	箕輪克弥	麻生町教育員会　社会教育主事
	貝塚浩美	麻生町教育員会　主事補

別紙３

ワラビ台遺跡発掘調査団		
団　　長	根本　宗一	麻生町教育委員会教育長
副団長	茂木　　敏	麻生町教育委員会事務局長
調査主任	汀　　安衛	鹿行文化研究所
作業員	約　20　名	地元協力者
事務員	額賀　修一	麻生町教育委員会　社会教育係長
	箕輪　克弥	麻生町教育委員会　社会教育主事
	貝塚　浩美	麻生町教育委員会　主事補

2　調査の経過

11月20日～25日	表土除去	重機により畑地部分の耕作土を除去。面積約5,000㎡
28日～29日	遺構確認	重機の後の遺構確認作業 一部遺構調査
30日～12月６日	遺構発掘	遺構調査、遺物は少ない 天候には恵まれたが日差しが弱い
７日～11日	補足調査	遺構の測量が残りこれらの残務作業４人

Ⅲ　調査の概要

本遺跡は、茨城県行方郡麻生町麻生字ワラビ台3268－14番地に所在する。遺跡は霞が浦から入り込む谷が西側、東側に解析され言わば馬の背状台地に占地し標高35ｍ程を測る。

以前は、すべて山林で昭和20年前後から畑として利用されてきた。遺跡としては良好であり馬の背状部分に土坑87基、ファイヤーピット４基、落とし穴状土坑１基が確認された。遺物の全体の２割は石、石器が占める。残りは全て土器でいずれも細片化し器形の窺えるものは少ない。破

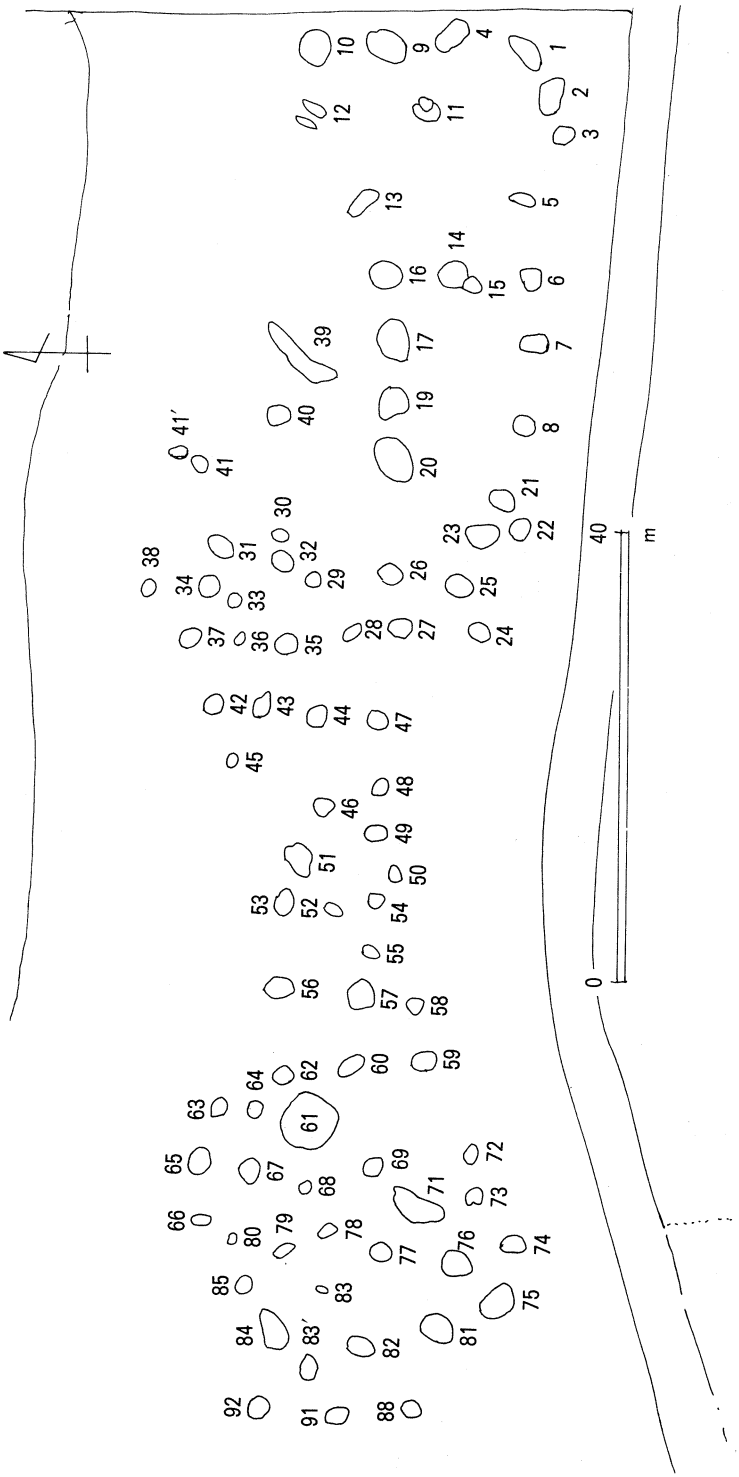
片から分類すれば草創期の井草式、早期後半の田戸下層式、前期の芽山式、関山式などが見られた。遺物の圧倒的多数を占めるものは田戸下層式で全体の70%を占める。

遺構はいずれも50cm～１ｍ前後の小規模な円形状プランを呈していた。

遺物は、天箱で３箱程で少ないが早期前半の井草式のやや新しい時期から三戸式、田戸下層式、末葉の茅山式が見られた。その外加曾利Ｅ式、加曾利Ｂ式などが３片程出土している。遺跡の主体を占めるものは三戸式と田戸下層式であり、これが本遺跡の時代と推定される。

本地域でこの時期の遺構、遺物がさほど攪乱を受けず残されていたことは縄文時代前半を研究する上で貴重な遺跡であり今後の整理分析が重要でる。

注１　本来要害の呼称が当時の言葉で、今日ではすべて城の言葉を用いてるので、文章では要害とし位置図では現在の登録名を用いた。



第２図　遺構・全測図

Ⅳ. 遺構と遺物

1．本遺跡からは前述のとおり検出された遺構は全て土坑で溝、住居跡は認められず僅かに落とし穴状遺構が一基、ファイヤーピットが4基認められた。土坑は総数87基でありその大部分は径1m、深さ10～50cm前後が大半を占めた。1m以上のものは5基前後である。遺物は、早期前半の井草式から加曾利B式迄認められたが大半は三戸式と田戸式が主体であり遺構もほぼこれらの時期に該当すると理解される。

以下、各遺構と遺物について述べる。

第1号土坑（第3図）

本遺構は調査区の東南側、道路添いに位置して検出された長円形形態で長径1.37m、短径1.7mを測る。深さは中央部で20cm前後でほぼ平坦で締まりはあまり無い。ローム層に到達する。

覆土の1層はにぶい黄橙色を呈し2層は黄褐色を呈し、ともにローム粒子を多量に含む。粘性、締まりはややある。覆土は全体的に黄橙色が多い。

遺物は皆無で図示出来ない為遺構の年代については断定は出来ない。隣の2号土坑からは井草式のやや古手の口縁部が出土している。時期的には大差がないと推定する。

第2号土坑（第3図、第4図）

本遺構は調査区の東南側、道路添いに位置して検出され1号土坑の南側に位置し検出された。土坑形態は東西に長い長円形で長径1.2m、短径80cmを測る。深さは中央部で45cm前後で中心部が深い。

土層は4層に分類され1層は橙色、2層は黄褐色、3層は黄褐色、4層はにぶい橙色。粘性、締まりはややある。覆土は全体的に黄橙色が多い。層序からは埋められた可能性が強い。いずれもローム粒子を多量に含む。

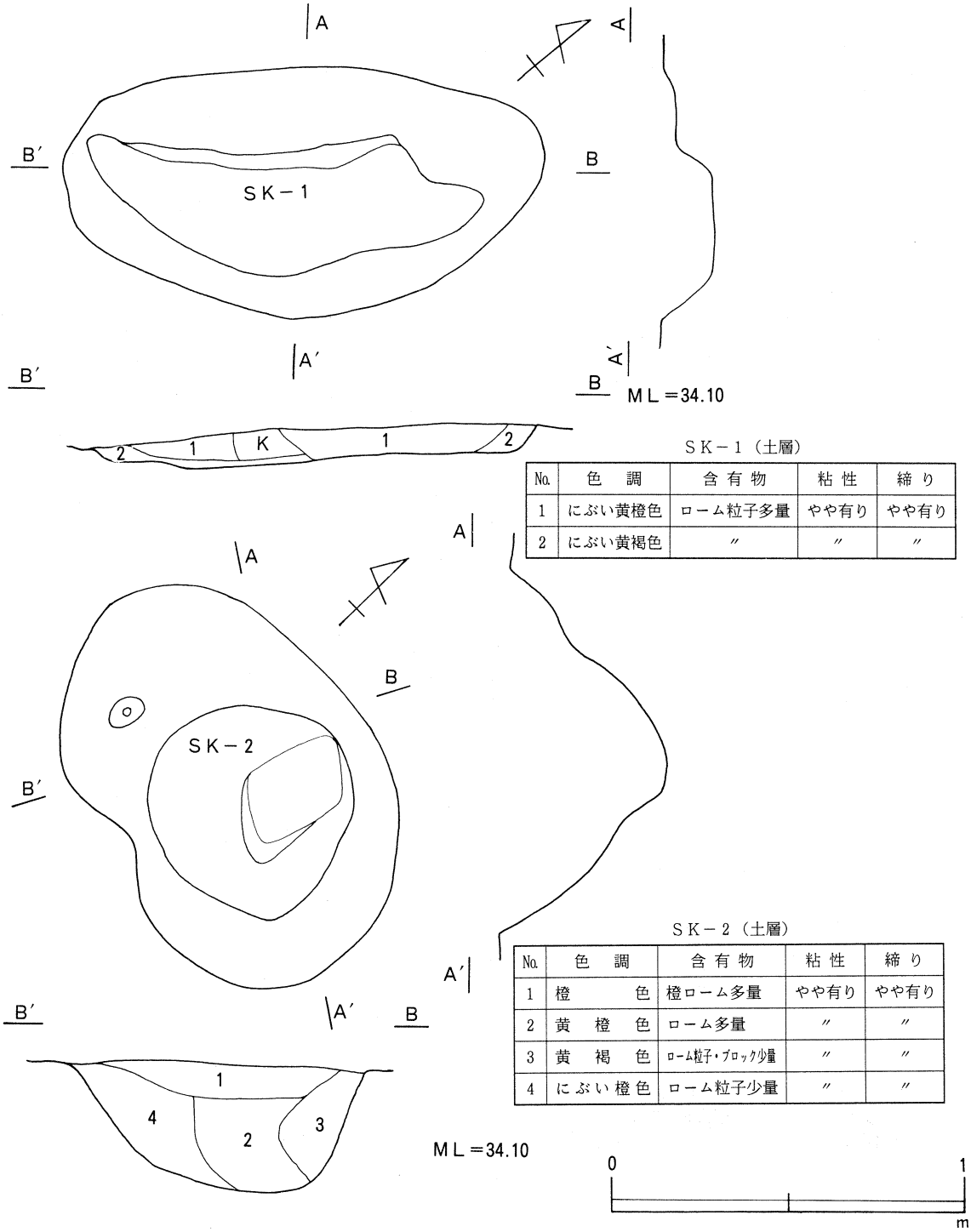
遺物は第4図1．2で共に撚糸を施文している。2は井草式の1の口縁部である。1は胴部破片で深鉢形態の土器と推定される。撚り糸はややこまかく細い。早期前半の遺構である。

第3号土坑（第5図、第4図）

本遺構は調査区の東南側、道路添いに位置し2号土坑の南側に検出された。土坑形態は東西に長い長円形で長径80cm、短径65cmを測る。深さは中央部で15cm前後で中心部がやや深いほかは10cm程の平坦である。

土層は2層に分類され1層は鈍い赤褐色、焼土粒子を少量含む。2層は黄褐色でローム多量、締まりはややある。覆土は全体的に黄橙色が多い。層序からは自然堆積の可能性が強い。

遺物は図示出来るものは無い。したがって時期は特定出来ない。



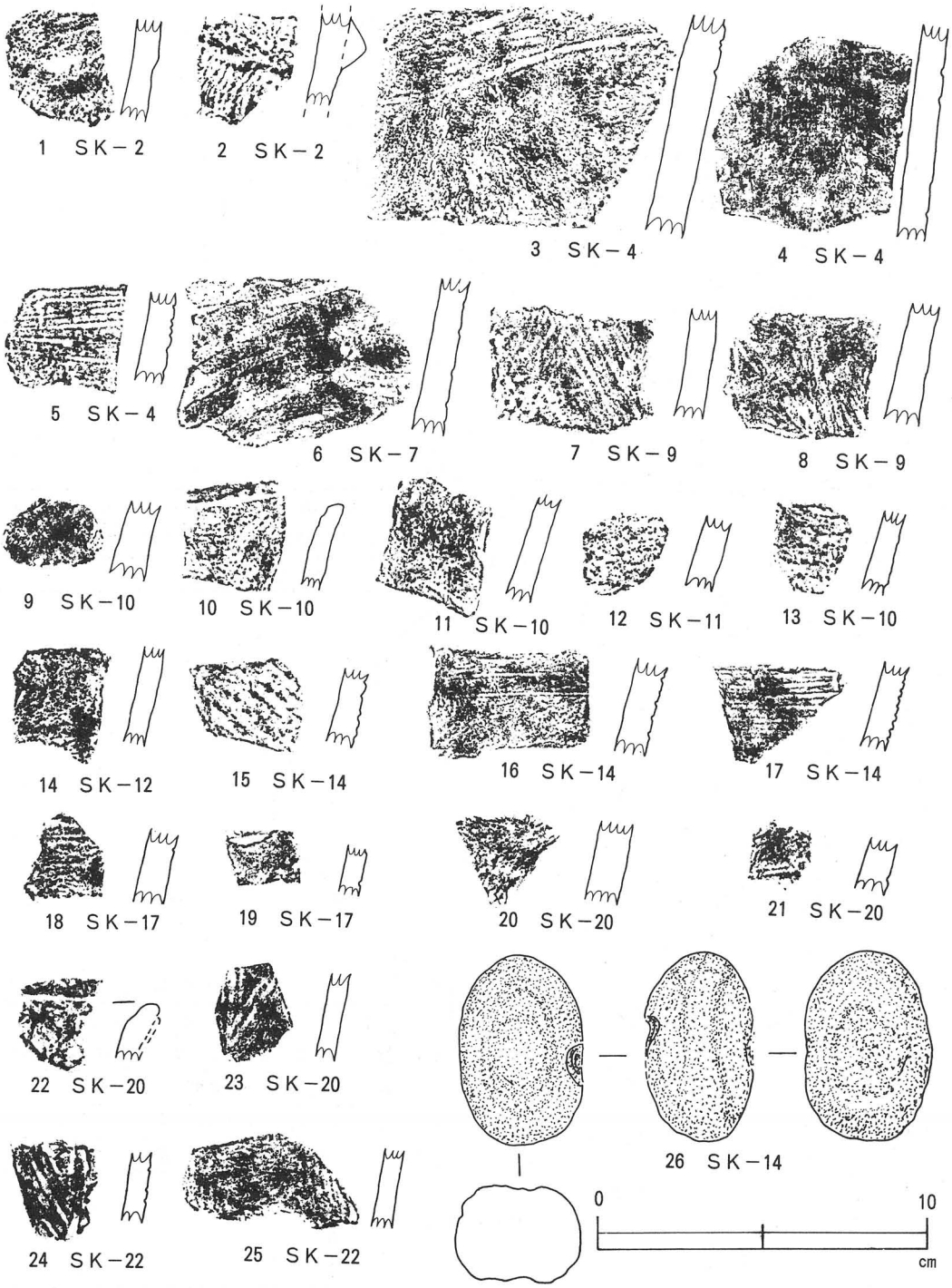
SK－1（土層）

No.	色　調	含有物	粘性	締り
1	にぶい黄橙色	ローム粒子多量	やや有り	やや有り
2	にぶい黄褐色	〃	〃	〃

SK－2（土層）

No.	色　調	含有物	粘性	締り
1	橙　色	橙ローム多量	やや有り	やや有り
2	黄橙色	ローム多量	〃	〃
3	黄褐色	ローム粒子・ブロック少量	〃	〃
4	にぶい橙色	ローム粒子少量	〃	〃

第3図　SK－1.2　土坑実測図



第４図　ＳＫ－２～22号出土遺物拓影・実測図

第４号土坑（第５図、第４図）

本遺構は調査区の東北側、隣地添いに位置して検出され１号土坑の北側に７ｍに所在する。土坑形態は東西に長い長円形で長径1.35ｍ、短径80㎝を測る。深さは中央部で20㎝前後で中心部がやや深いほかは15㎝程の平坦部をもつ。

土層は２層に分類され１層は鈍い黄橙色、２層は黄褐色でローム多量、締まりはややある。覆土は全体的に黄橙色が多く層序はレンズ状の自然堆積である。

遺物は、図示した平行沈線とアナダラ属の貝殻文をもつ大型の深鉢型土器と推定される遺物が見られる４図３と無文の４がある。いずれも焼成は良好で長石を含む。遺物からは田戸下層式である。これらの遺物から縄文時代早期後半の遺構と推定される。

第５号土坑（第５図）

本遺構は調査区の東南側道路添いに占地して検出され、２号土坑の西側に位置している。土坑形態は東西に長い長円形で長径89㎝、短径50㎝を測る。深さは中央部北側に寄った部分で24㎝前後と深いほかは10㎝程の平坦部をもつ。

土層は１層で鈍い橙色、ローム粒子を少量含む。

遺物は、図示出来るものは出土しなかった。したがって時期を特定出来るものは無い。

第６号土坑（第６図）

本遺構は調査区の東南側道路添いに検出され、５号土坑の西側に位置している。土坑形態は東西に長い長円形で長径89㎝、短径72㎝を測る。深さは中央部南側に寄った部分で14㎝前後とやや深いほかは10㎝程の平坦部面をもつ。浅い。

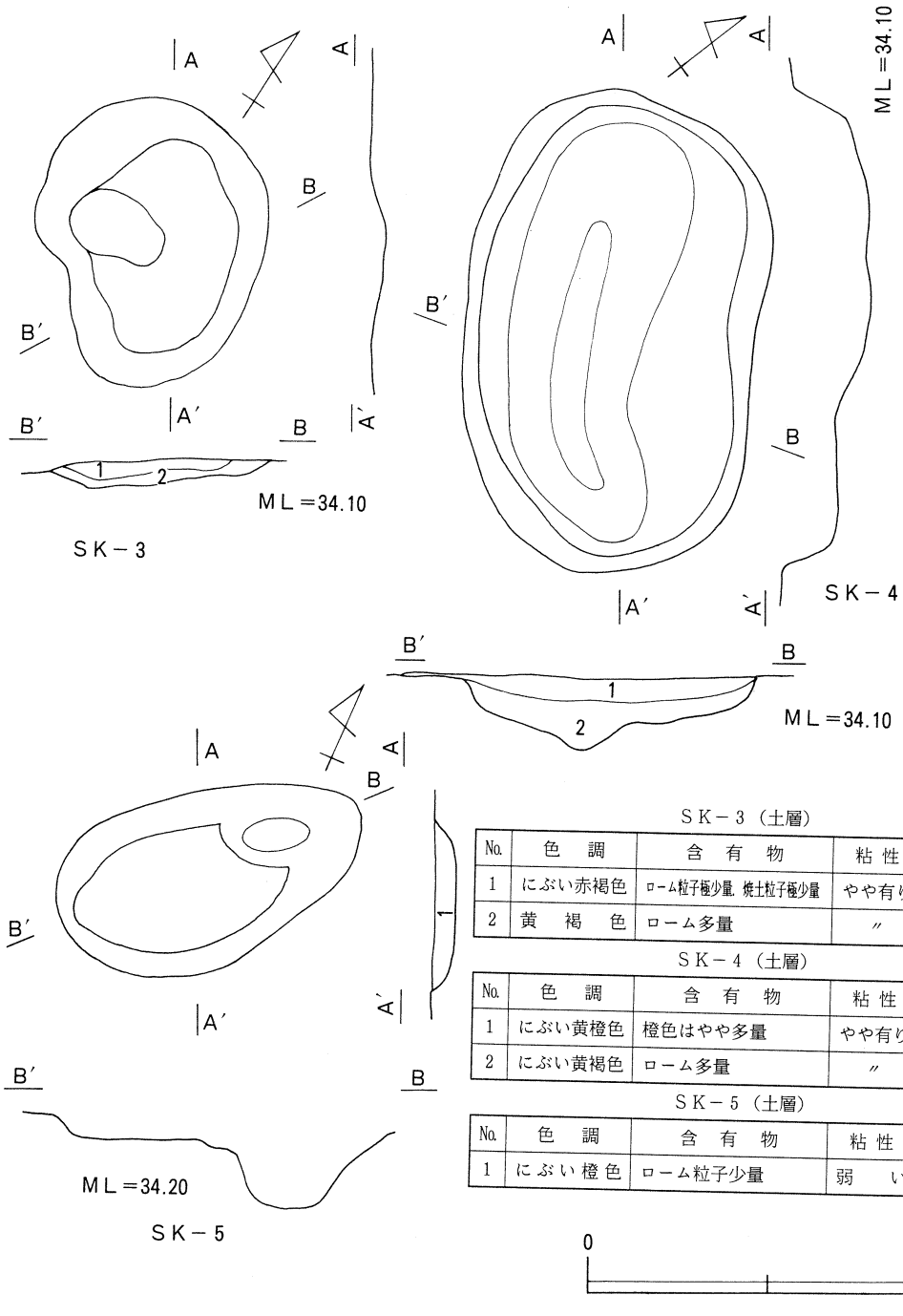
土層は２層で黄橙色、ローム粒子を少量含み２層は黄褐色ロームを多量に含む。粘性、締まりはややある。

遺物は、図示出来るものは出土しなかった。したがって時期を特定出来るものは無い。遺物からは時期を特定出来ないが縄文早期及び前期の遺構と推察されよう。

第７号土坑（第６図、第４図）

本遺構は調査区の東南側道路添いに占地して検出され、５号土坑の西側に位置している。土坑形態は東西に長い長円形で長径1.50ｍ、短径70㎝を測る。深さは中央部で20㎝とやや浅い。レンズ状に中央部に向かって深くなる。

土層は２層に分けられ１層は鈍い橙色、ローム粒子を多量に含み２層は黄褐色で同様。遺物は、第４図６が出土している。アナダラ属の貝殻背面を利用した平行沈線が見られる。これらの遺物から本遺構は縄文時代早期の田戸下層式が推定出来る。遺物は長石を含み淡い赤褐色。



SK－3（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	にぶい赤褐色	ローム粒子極少量，焼土粒子極少量	やや有り	やや有り
2	黄　褐　色	ローム多量	〃	〃

SK－4（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	にぶい黄橙色	橙色はやや多量	やや有り	やや有り
2	にぶい黄褐色	ローム多量	〃	〃

SK－5（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	にぶい橙色	ローム粒子少量	弱　い	やや有り

第5図　SK－3・4・5号実測図

SK－6（土層）

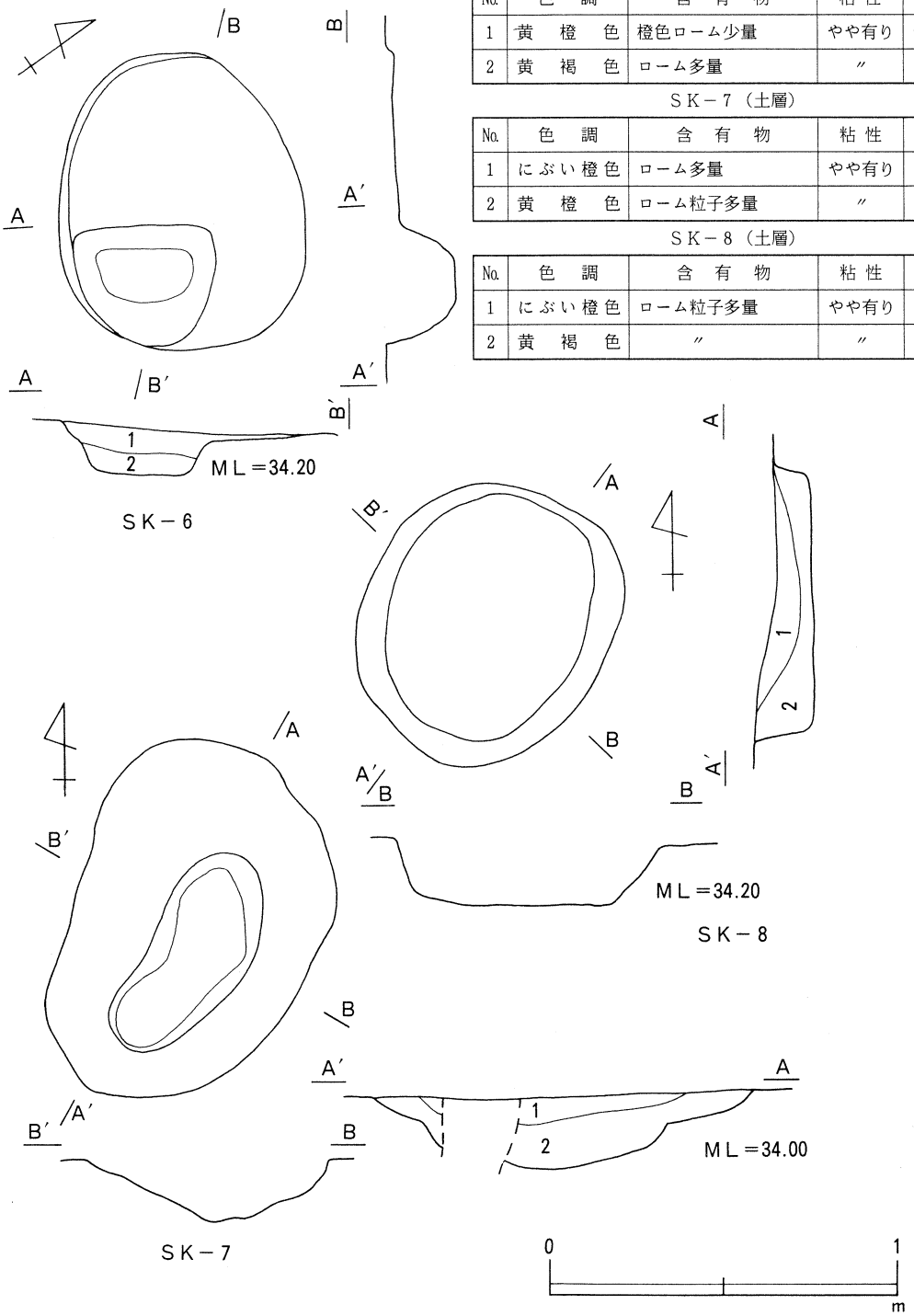
No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	黄　橙　色	橙色ローム少量	やや有り	やや有り
2	黄　褐　色	ローム多量	〃	〃

SK－7（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	にぶい橙色	ローム多量	やや有り	やや有り
2	黄　橙　色	ローム粒子多量	〃	〃

SK－8（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	にぶい橙色	ローム粒子多量	やや有り	やや有り
2	黄　褐　色	〃	〃	〃



第6図　SK－6・7・8号実測図

第８号土坑（第６図）

本遺構は調査区の中央部の道路添いに位置して検出された長円形形態で長径82㎝、短径77㎝を測る。深さは15㎝前後でほぼ平坦、底面は締まりはあまり無い。底面はローム層である。

土層はにぶい橙色を呈する１層と黄褐色を呈する２層がありローム粒子を多量に含む。粘性、締まりはややある。覆土は全体的に黄橙色が多い。レンズ状の自然堆積である。

遺物は皆無で図示出来ない為遺構の年代については断定は出来ない。隣の７号土坑からは田戸下層式が出土している。時期的には大差がないと推定する。

第９号土坑（第７図、第４図）

本遺構は調査区の東側の道路添いに位置して検出された円形状形態で長径1.6ｍ、短径で1.25ｍを測る。深さはほぼ30㎝前後でほぼ平坦で底面は締まりはあまり無く東側は円形状で深さは40㎝程でピット状である。

土層は黄橙色を呈し炭化粒子を含む１層と黄橙色を呈する２層がある。ローム粒子全量で３層はローム全量で締まり、粘性はある。その他は粘性、締まりはややある。覆土は全体的ロームを多量に含む。相対的にはやや深い遺構である。

遺物は、やや多く出土し図示したのは深鉢の胴部破片で細かな撚糸を施す稲荷台式？。２はアナダラ属の沈線をもつ土器で田戸下層式と推定される。全体的には後者の遺物の時期が本遺構の時期と推定される。

第10号土坑（第７図、第４図）

本遺構は、調査区の東側の道路添いに位置して検出された。円形状形態で長径1.3ｍ、短径で1.25ｍを測る。深さは約30㎝前後でほぼ平坦で、円形状形態。底面は締まりはあまい。深さは７㎝で中心部に向かって自然に落ち込む。浅い掘込みである。

土層は、黄橙色を呈し１層でローム粒子を多量に含む。締まり、粘性はややある。

遺物は、やや多く出土し図示した９はアナダラ属の施文がわずかに見られ、10は単節の縄を施す口縁部で口唇部にも施文している。その他13の縄文を施文するものもある。器肉は薄い。胎土に僅かに繊維を含む。

遺物から遺構の時期は田戸上層式が推定される。

第11号土坑（第８図、第４図）

本遺構は、調査区の東側の中程に位置して検出された。円形状形態で長径1.2ｍ、短径で1.25ｍを測る。深さはほぼ40㎝前後で複合遺構であると推定され底面の締まりはあまい。南側の遺構にむかって自然に落ち込む。やや深い掘込みである。

土層は、鈍い橙色でローム粒子を多量に含む１層と黄橙色の２層があり、締まり、粘性はややある。ブロックを少量含む。

遺物は、少なく図示した12は尖底土器の下部と推定される小破片である。胎土や色調、厚み等から早期、田戸下層式に比定される。

遺構は遺物から田戸下層式の時期が推定される。

第12号土坑（第８図、第４図）

本遺構は、調査区の東側の隣地近くに位置して検出された。本来は円形状形態と推定されるが遺構は２ヶ所に分かれる。長方形部分は長さ1.1m、幅50cmで焼土が認められる。深さは17cm程で底部はほぼ平坦である。

土層は、５層に分けられ鈍い赤褐色で焼土粒子を多量に含む、２層は鈍い黄橙色でローム粒子多量、４層は淡い赤褐色で焼土粒を含む。５層はローム粒子を多量に含む。全体に粘性、締まりは弱い。５層のみ締まり、粘性がある。

遺物は、少なく図示した14は小さい円形の刺突が見られ、胴下半部の破片である。胎土、焼成、文様などから前期後半の浮島式？に比定される。

遺構は遺物から前期後半の時期が推定されファイヤーピットが認められる。本遺跡では他に３ヶ所の同様の遺構が認められた。

第13号土坑（第９図）

本遺構は、調査区南側の中央部に位置して検出され長円形状形態で1.55m、幅70cmをはかる。東側部分は浅く10cm程で南側では20cm程を測る。底面は２段に別れるが共にあまり締まりはない。

土層は、１層で黄橙色で焼土粒子をごく少量含む。ローム粒子が多量で締まり、粘性はややある。

遺物は、少なく図示したできるものは無い。したがって時期は不明である。

第14号土坑（第９図、第４図）

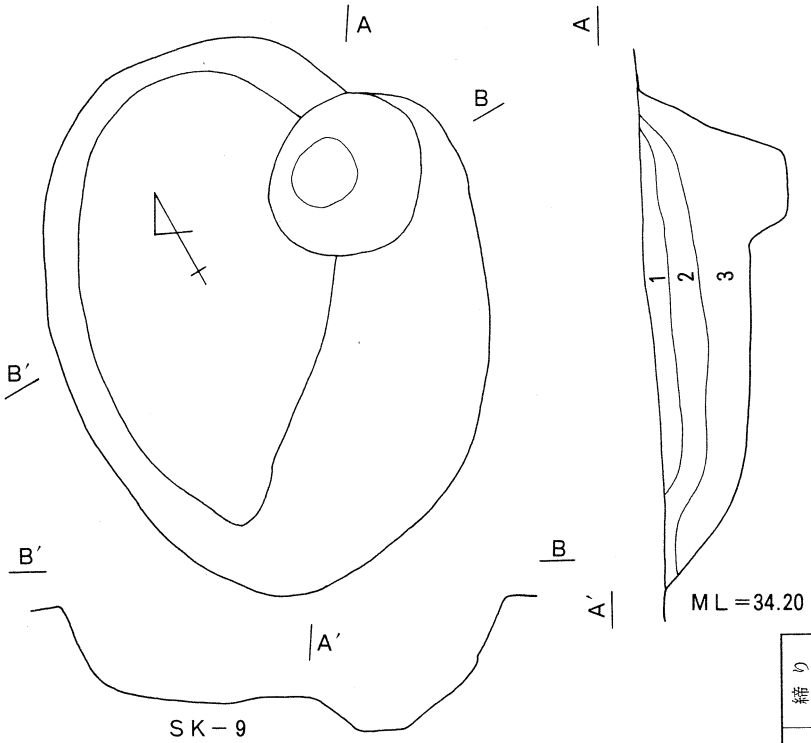
本遺構は、調査区南側の中央部に位置して検出され円形状形態で15号土坑と切り合い関係にあり、時期は同じと考えられる。長径1.30m、幅1.30mを測る。深さは32cmをはかり中央部分が深くなる。底面は長円形状形態を呈する。

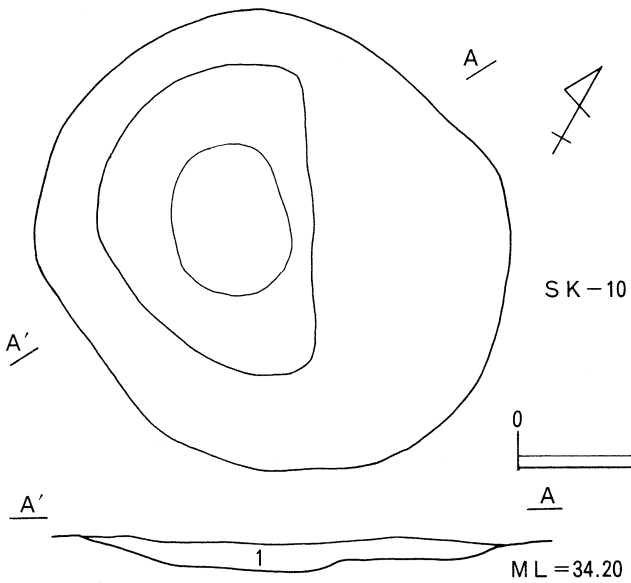
土層は、２層で黄橙色で焼土粒子を極少量含む。１層はローム粒子多量、２層は締まり、粘性はやや有る。２層は黄橙色で伴に強い。15号土坑とは土層から時期に大差は無い。

遺物は、やや多く図示した15は胎土に繊維を含み節の大きい縄が見られる関山式か。16. 17は平行沈線をもつ土器で器肉はやや厚く早期の田戸下層式に比定される遺物である。

これらの遺物から本遺構は早期の田戸下層式に比定される。

遺構は、遺物から早期後半の時期が推定されファイヤーピットと私考される。本遺跡では他に３ヶ所の遺構が認められた。





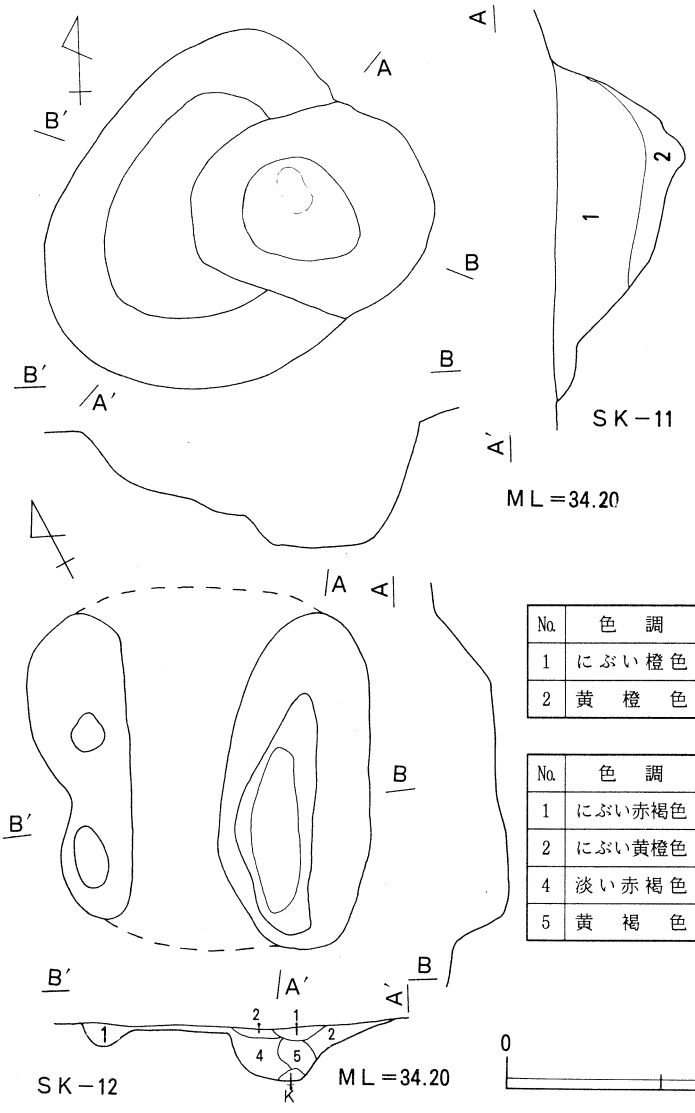
SK－9（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	黄橙色	炭化極少量，ローム粒子多量	やや有り	やや有り
2	〃	ローム粒子全量	〃	〃
3	黄褐色	ローム全量	強い	強い

SK－10

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	黄橙色	ローム粒子多量	やや有り	やや有り

第7図　SK－9・10号実測図



SK－11（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	にぶい橙色	ロームブロック極少量	やや強い	やや強い
2	黄　橙　色	〃	〃	〃

SK－12（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，ブロック少量	弱　い	弱　い
2	にぶい黄橙色	ローム粒子多量	強　い	強　い
4	淡い赤褐色	ローム粒子・焼土粒・ブロック多量	弱　い	やや有り
5	黄　褐　色	ローム粒子多量	強　い	強　い

第8図　SK－11・12号実測図

第15号土坑（第９図、第４図）

本遺構は、調査区南側の中央部に位置して検出され円形状形態で14号土坑と切り合い関係にあり、時期は同じと考えられる。長径85cm、短径72cmを測る。深さは31cmをはかり中央部分が深くなる。底面は長円形状形態を呈する。14号の小型版。

土層は、２層で橙色でローム多量の１層と同様の２層であり、締まり、粘性ややあり、２層は黄褐色で共に強い。14号土坑とは土層から時期は大差は無い。

遺物は、少なく図示出来るものは無い。

14号土坑との切り合いから本遺構も早期の田戸下層式と推定される。

第16号土坑（第10図、第４図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された円形状遺構で単独、径１ｍ程を測る。底部は平坦で締まりはあまりない。深さは10cm前後で浅い。壁面はややだれ気味。

土層は１層で鈍い橙色、ロームを多量に含む。粘性、締まりはややある。

遺物は皆無で時期を確定するものは無い。

第17号土坑（第10図、第４図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された方形状遺構で単独、やや大型である。南北1.40ｍ、東西1.04ｍを測る。底部は南側にかた寄った位置にあり40cmを測り深い。底面は長円形状形態を呈し西側はフラットな壁面で東側は鋭角的である。

土層は２層で橙色、ローム粒子多量の１層と黄褐色の２層がありロームを多量に含む。粘性、締まりはややある。層序はレンズ状の自然堆積である。牛蒡栽培時のトレンチがある。

遺物はアナダラ属と思われる文様が見られる18と平行沈線の19がある。胎土から田戸下層式と考えられる。遺構も本遺物の時期が想定される。

第19号土坑（第11図、第４図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された長円形状遺構で単独、東西1.25ｍ、南北1.12ｍを測る。深さは５cm前後で浅く西側に一段低い方形状の落ち込みがある。深さは10cm前後。壁画はだれ気味である。

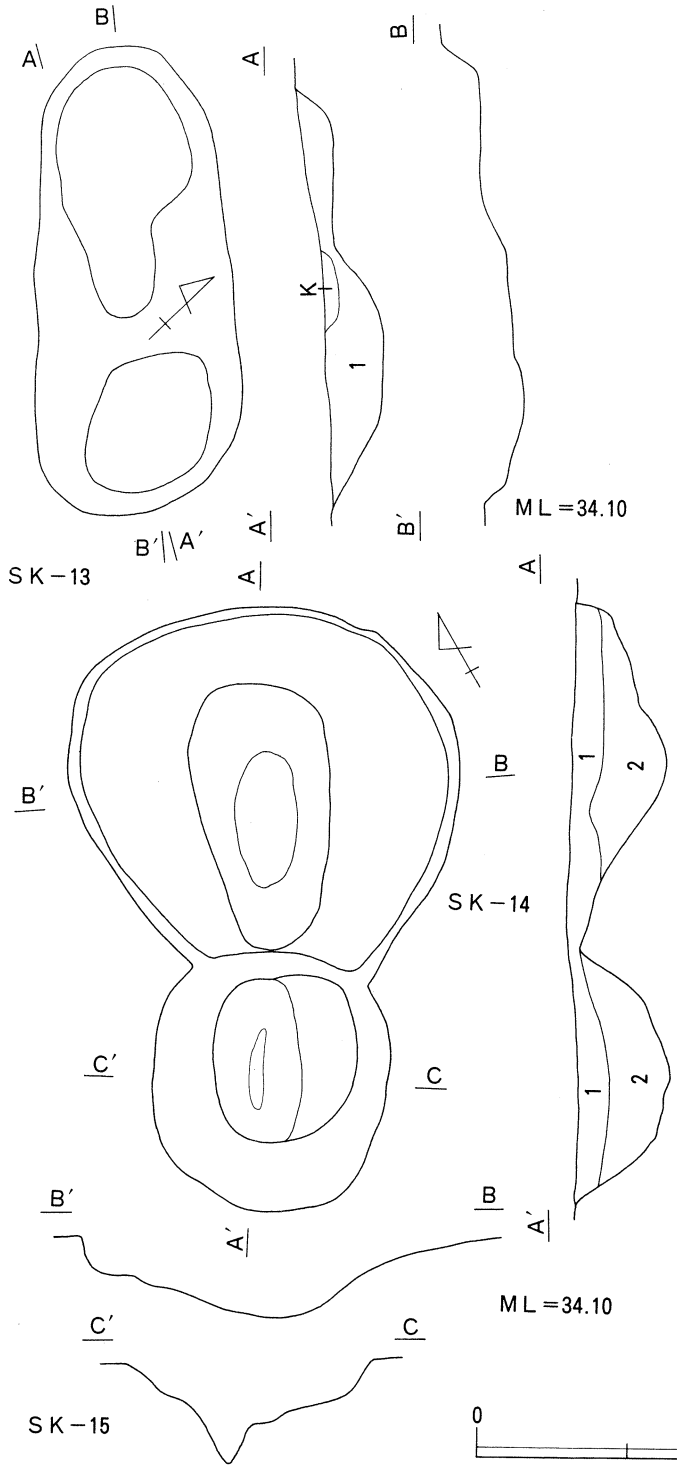
土層は１層で黄橙色でロームを多量に含む。粘性、締まりはややある。

遺物は皆無で、土層及び色調から縄文時代の時期が推定される。

第20号土坑（第11図、第４図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された長円形状の遺構で単独、東西1.95ｍ、南北1.30cmを測る。掘込みは10cm前後で浅く南側に一段低い方形状の落ち込みがある。深さは14cm前後。壁面はだれ気味である。底部の締まりは弱い。

土層は２層で鈍い橙色でロームを多量に含む２層も同様で粘性、締まりはややある。



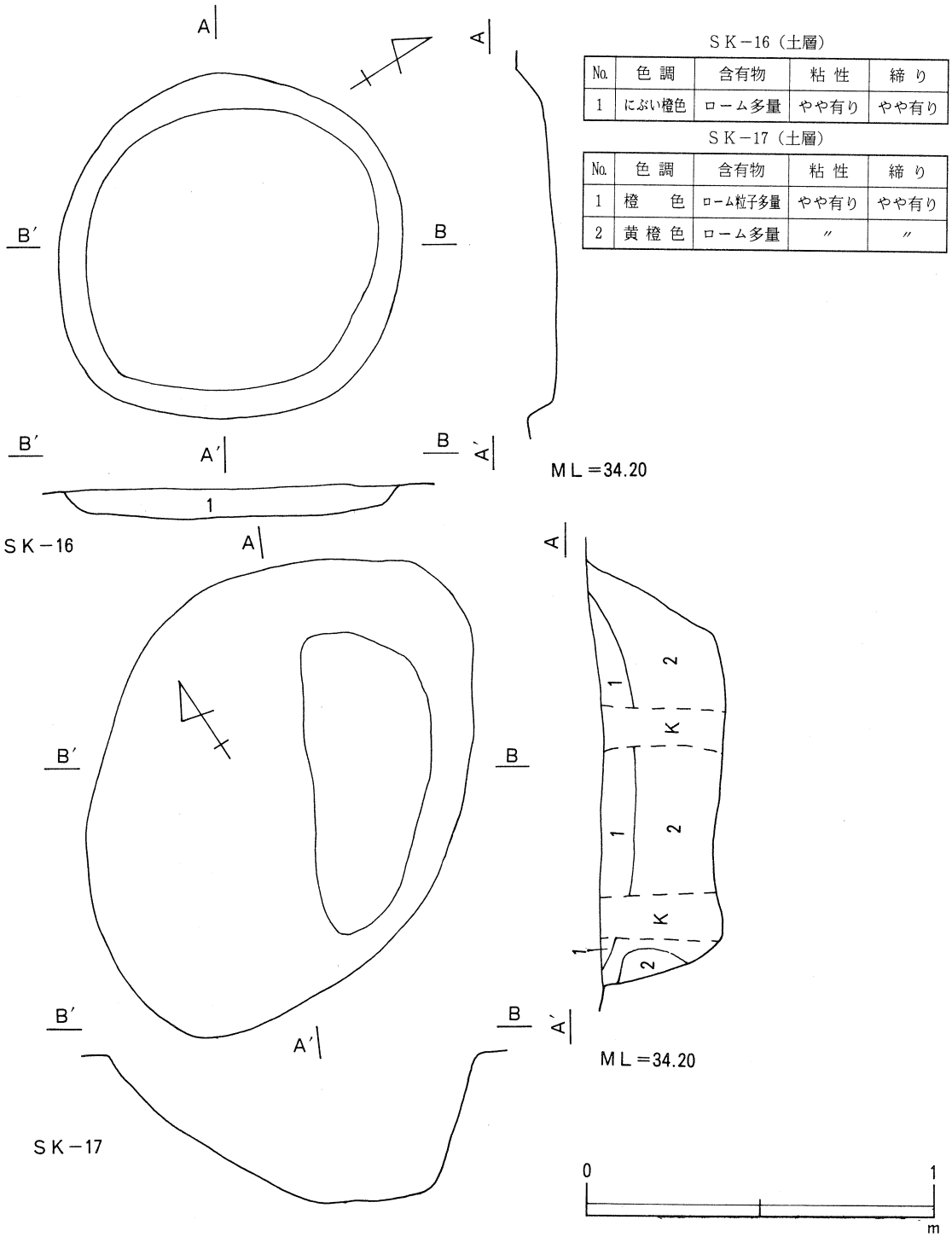
SK－14（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	黄橙色	ローム多量・極少量	やや有り	やや有り
2	黄橙色	ローム多量	強い	強い

SK－15（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量	やや有り	やや有り
	黄褐色	ローム多量	強い	強い

第9図　SK－13・14・15実測図



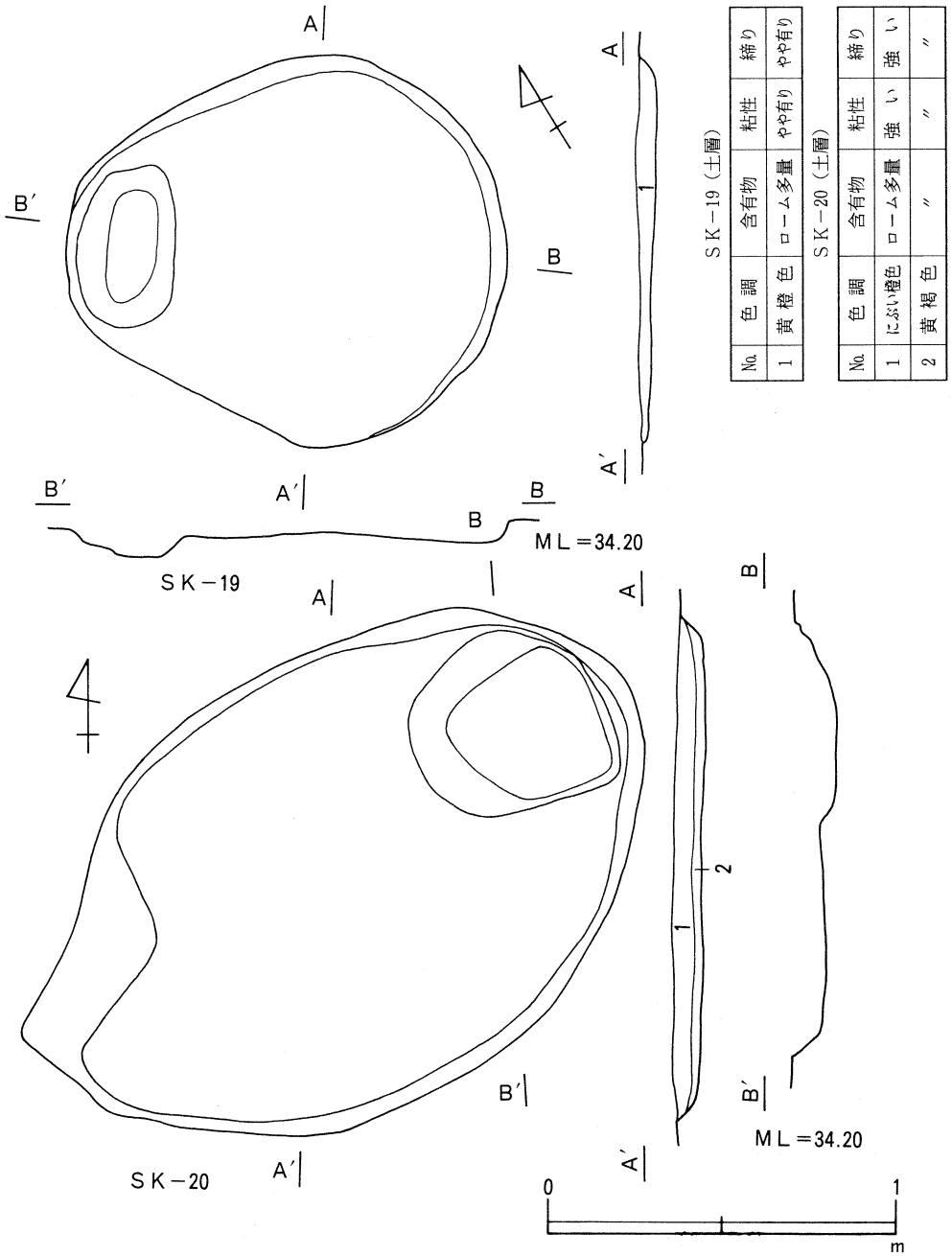
ＳＫ－16（土層）

No.	色 調	含有物	粘 性	締 り
1	にぶい橙色	ローム多量	やや有り	やや有り

ＳＫ－17（土層）

No.	色 調	含有物	粘 性	締 り
1	橙　色	ローム粒子多量	やや有り	やや有り
2	黄 橙 色	ローム多量	〃	〃

第10図　ＳＫ－16・17実測図



SK－19（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	黄橙色	ローム多量	やや有り	やや有り

SK－20（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	にぶい橙色	ローム多量	強い	強い
2	黄褐色	〃	〃	〃

第11図　SK－19・20号実測図

遺物は20から23の縄文土器が床面から出土している。平行沈線にアナダラ属の貝先を弱く施文。遺物の胎土色調から本遺構の時期は早期田戸下層式と考えられる。総じて遺物は少ない。

第21号土坑（第12図、第４図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された長円形状の遺構で単独、南北1.95ｍ、東西75㎝を測る。掘込みは20㎝前後で中央部がさも深く、なだらかに立ち上がる。壁面はだれ気味。底部の締まりは弱い。

土層は２層で、橙色。ロームを多量に含む１層と黄褐色で同様の２層があり、締まり、粘性は強い。

遺物は少なく縄文土器が少量認められたが図示出来るものは無かった。したがって時期を特定する遺物は無い。胎土等から縄文時代前期以前の遺構と私考する。

第22号土坑（第12図、第４図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された長円形状の遺構で単独、南北83㎝、東西70㎝を測る。掘込みは15㎝前後で中央部が平坦で、壁面はなだらかに立ち上がる。底部の締まりはややある。

土層は３層に分けられ橙色でロームを多量に含む。２層は黄橙色で３層は黄橙色で粘性、締まりは強い。レンズ状の自然堆積を示す。

遺物は少なく縄文土器が少量認められた。22，23が図示出来るもので22は平行沈線を施す。23は節の細かな縄文を縦位に施文している。胎土に若干の繊維を含む。これらから本遺構は、田戸上層式前後の時期が想定される。

第23号土坑（第13図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された倒卵形状の遺構で単独、南北1.11ｍ、東西81㎝を測る。掘込みは13㎝前後で中央部は平坦で、壁面はやや強く立ち上がる。底部の締まりはややある。

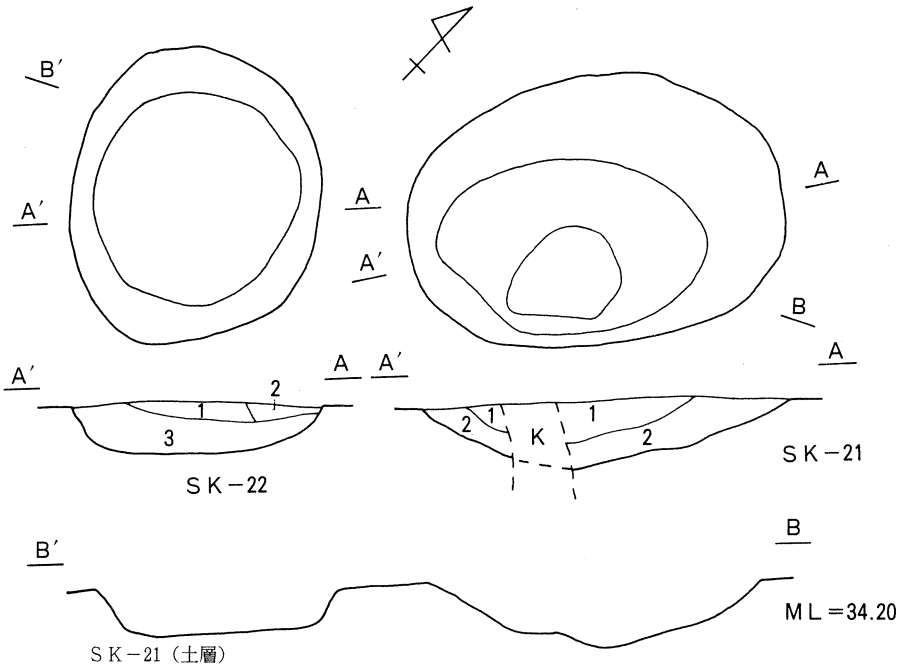
土層は１層で橙色。ロームは多量、焼土粒子を少量含む。粘性、締まりは強い。中央部は牛蒡のトレンチャーにより攪乱を受けている。

遺物は少なく縄文土器が少量認められた。図示出来るものはないが縄文時代前半の遺構と推定される。胎土、色調、厚み等から推定して本遺構は田戸上層式前後の時期か?

第24号土坑（第13図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された倒卵形状の遺構で単独、南北55㎝、東西85㎝を測る。掘込みは10㎝程で浅く底部は平坦でやや締まりを持つ。壁面はやや強い。

土層は、１層で橙色。ロームを多量に含む。焼土粒子を極少量含む。粘性、締まりは強い。中央部は牛蒡のトレンチャーにより攪乱を受けている。遺物は皆無で本遺構の時期を確定するものはない。周辺の遺構から縄文時代のものと推定する。

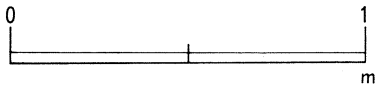


SK－21（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	橙　　色	ローム多量	強　い	強　い
2	黄　橙　色	〃	〃	〃

SK－22(土層)

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	橙　　色	ローム多量	強　い	強　い
2	黄　橙　色	〃	〃	〃
3	黄　褐　色	〃	〃	〃



第12図　SK－21・22号実測図

第25号土坑（第13図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された倒卵形状の遺構で単独、南北80cm、東西90cmを測る。掘込みは20cm程でやや深く底部は平坦でやや締まりを持ち若干の凹凸がある。

土層は3層で橙色、ロームを多量に含む、焼土粒子も極少量含む。1層、2層も同様。3層は黄橙色でローム多量で北側にトレンチャーにより攪乱されている。

遺物は石器？と思われる石が出土している。時期は周辺の遺構から縄文時代のものと推定されよう。

第26号土坑（第13図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された円形状の遺構で単独、南北85cm、東西73cmを測る。掘込みは6cm程で浅く底部は平坦でやや締まりを持ち若干の凹凸がある。壁面はややだれ気味。

土層は１層で橙色、ロームを多量に含み焼土粒子を極少量含む。粘性、締まりは強い。

遺物は15図１がある。半截竹管による平行沈線がみられ胎土に若干の繊維を含み器肉は薄い。遺物は少ない。本遺物から時期は田戸上層式が推定される。

第27号土坑（第14図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された倒卵形状の遺構で単独、南北85㎝東西75㎝を測る。掘込みは６㎝程で浅く底部は平坦でやや締まりを持つ。壁面はややだれ気味である。

土層は１層で橙色、ローム粒子を多量に含み粘性、締まりは強い。

遺物は15図２、３があり２は棒状工具による押し引き。３は無文で底部近くである。器肉は厚く遺物からは花輪台式？期か。

第28号土坑（第14図）

本遺構は、調査区の中央部に位置して検出された長円形状の遺構で単独、南北75㎝、東西52㎝を測る。掘込みは５㎝程で浅く底部は平坦でやや締まりを持つ。壁面はややだれ気味である。

土層は１層で橙色、ローム粒子を多量に含み粘性、締まりは強い。

遺物は皆無で遺物から遺構の時期は推定出来ない。

第29号土坑（第14図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し検出された遺構で長円形状を呈する。東西70㎝、南北55㎝で深さは15㎝前後で浅い。東側がやや深く18㎝前後を測る。底部はやや締まりを持つ。壁面はなだらかにだれている。

土層は２層でともに橙色でロームとブロックの混入の差である。粘性、締まりは強い。遺物は覆土から縄文土器の小破片が出土している。小さい為図示はしなかったが少量繊維を含む。時期は田戸上層式に該当すると思われる。

第30号土坑（第14図）

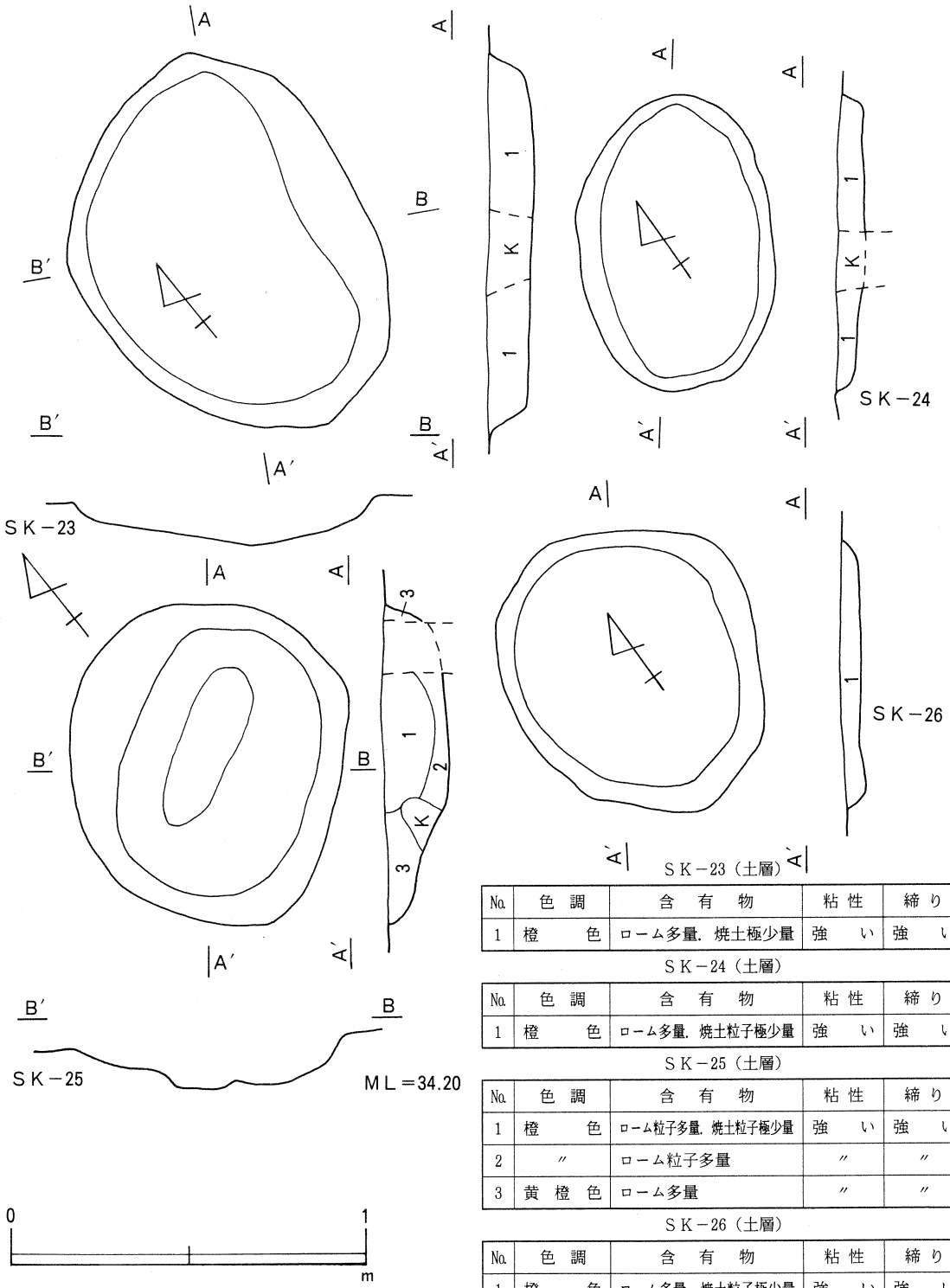
本遺構は、調査区のほぼ中央部に位置して検出された倒卵形状の遺構で単独、南北51㎝、東西62㎝を測る。掘込みは10㎝程でやや浅く、底部はほぼ平坦でやや締まりをもつ。壁面は緩やかに立ち上がる。

土層は１層で橙色、ローム粒子を多量に含み粘性、締まりは強い。東側は牛蒡のトレンチャーにきられている。

遺物は皆無で時期を特定することは出来ない。

第31号土坑（第16図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し検出された遺構で長円形状を呈する。東西70㎝、南北95㎝で深さは15㎝前後で浅い。中央部が長円状に深く13㎝前後を測る。底部はやや締まりを持つ。壁面はなだらかにだれて立ち上がる。



SK－23（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量，焼土極少量	強い	強い

SK－24（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量，焼土粒子極少量	強い	強い

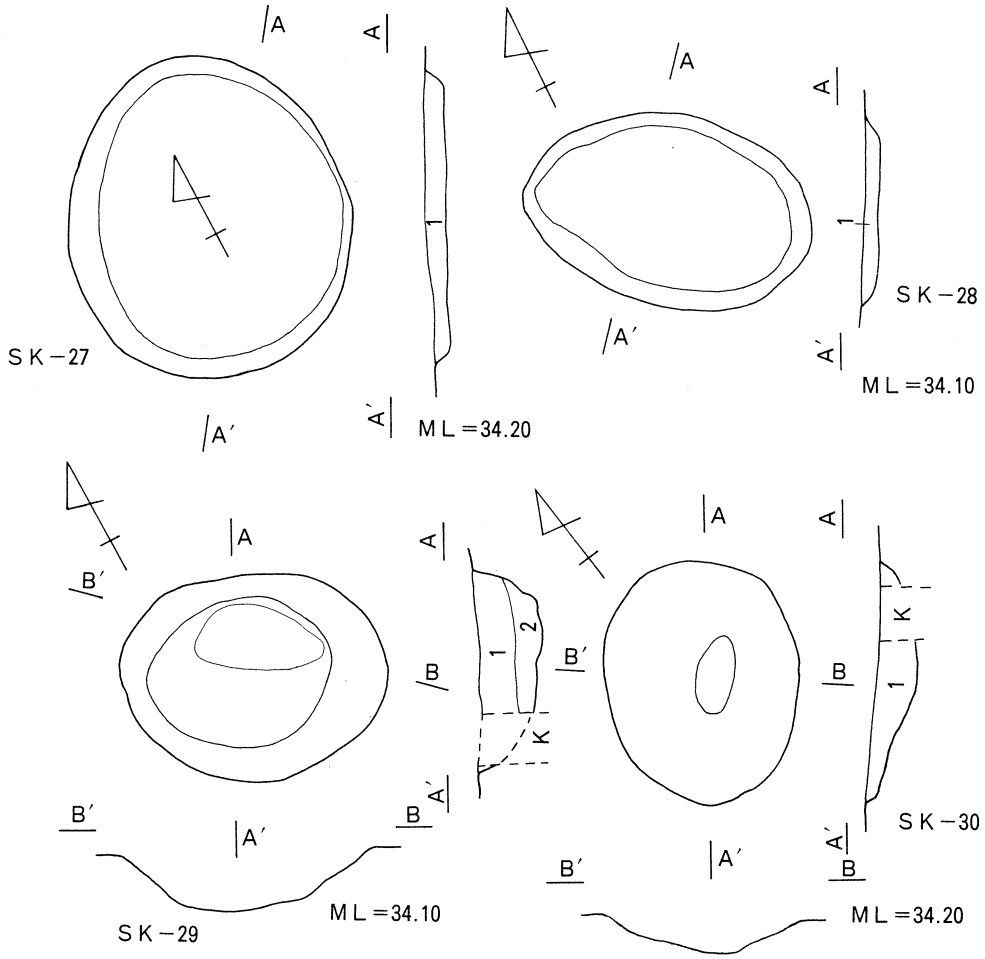
SK－25（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム粒子多量，焼土粒子極少量	強い	強い
2	〃	ローム粒子多量	〃	〃
3	黄橙色	ローム多量	〃	〃

SK－26（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量，焼土粒子極少量	強い	強い

第13図　SK－24・25・26号実測図



SK－27（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム粒子多量	強い	強い

SK－28（土層）

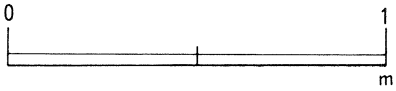
No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量	強い	強い

SK－29（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量	強い	強い
2	〃	ローム小ブロック多量	〃	〃

SK－30（土層）

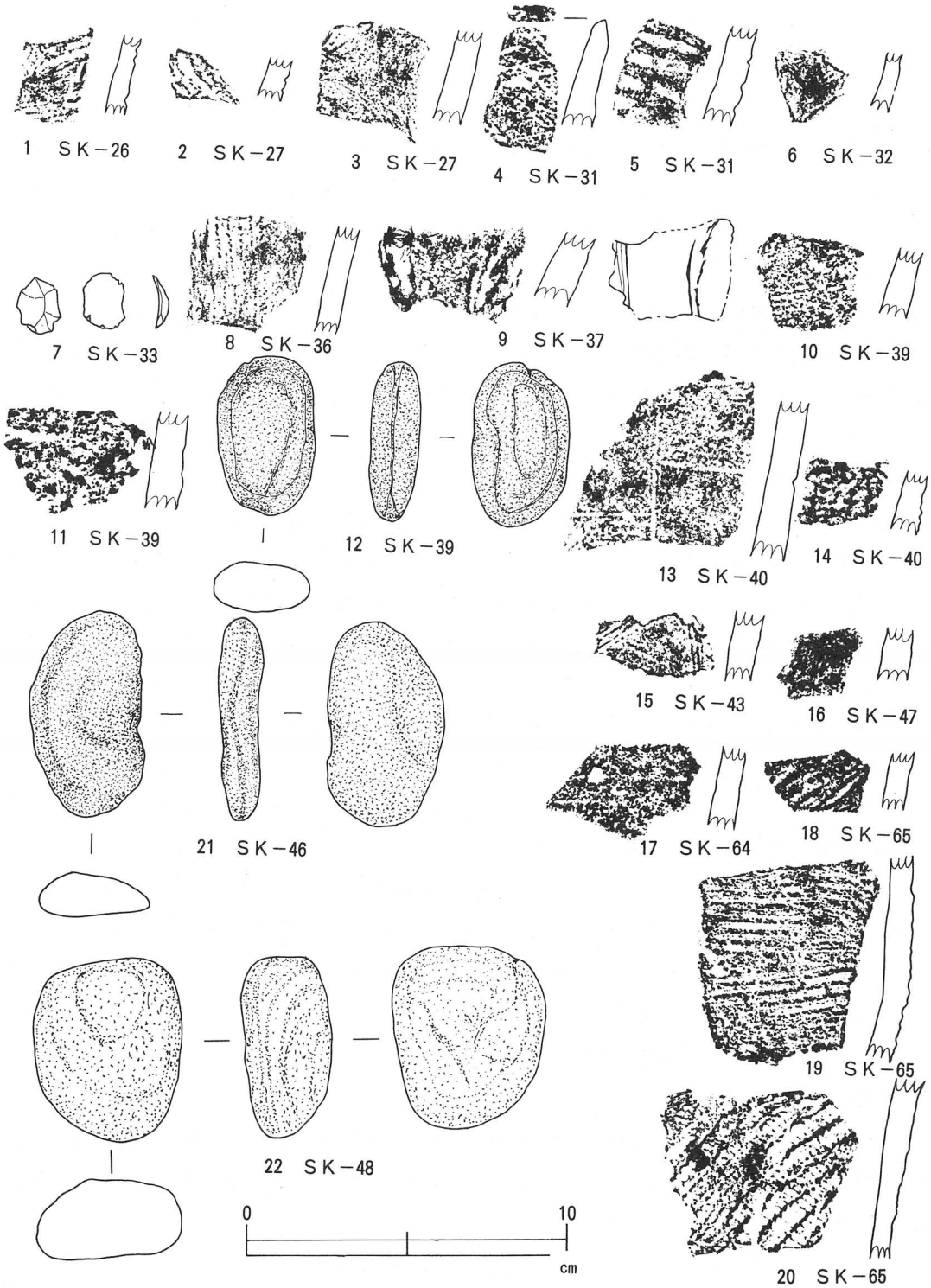
No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量	強い	強い



第14図　SK－27・28・29・30号実測図

土層は2層が認められ1層は橙色でローム多量、2層は黄橙色で同様。粘性、締まりは強い。

遺物はやや多く出土し15図4．5があり4は格子状の平行沈線を持ち口唇部に縄を施す。5はアナダラ属の背で平行沈線を施文している。4は三戸式？5は田戸下層式である。本遺構は早期



第15図　ＳＫ－26～65号出土遺物拓影・実測図

田戸下層式の時期と推定される。

第32号土坑（第16図、第15図）

本遺構は、調査区のほぼ中央に位置して検出された円形状の遺構で単独、南北62cm、東西81cmを測る。掘込みは８cm程でやや浅く、底部はほぼ平坦でやや締まりをもつ。壁面は緩やかに立ち上がる。

土層は１層で橙色、ローム粒子を多量に含み粘性、締まりは強い。中央部は牛蒡のトレンチャーに攪乱されている。

遺物は薄い平行沈線をもつ器肉の薄い土器で新しくなると思われる。遺物は少ない。

第33号土坑（第16図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部南側に位置していた遺構で円形状を呈する。東西50cm、南北45cmで深さは25cmと深い。底部は平坦で締まりはややある。壁面はやや鋭角を示す。

土層は、橙色でローム多量の１層で粘性、締まりは強い。

遺物は、少なく15図７のメノウの破片が出土している。時期は不明である。

第34号土坑（第16図、第15図）

本遺構は、調査区のほぼ中央部に位置して検出された円形状の遺構で単独、南北82cm、東西75cmを測る。掘込みは25cm程で本遺跡では深い。底部はほぼ平坦でやや締まりをもつ。壁面は鋭角的に立ち上がる。

土層は２層で橙色、２層もローム粒子を多量に含み黄褐色で粘性、締まりは強い。北側はトレンチャーに攪乱されている。サツマイモの貯蔵穴の可能性も推察される。

遺物は少なく、時期を決定する遺物はない。したがって時代は近世以前と幅は広い。

第35号土坑（第17図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置していた遺構で円形状を呈する。東西１m、南北92cmで深さは15cmとやや深い。底部は平坦で締まりはややある。壁面はやや鋭角的である。

土層は２層有り１層は橙色、２層は黄橙色でローム多量で粘性、締まりは強い。牛蒡のトレンチャーに両側を攪乱されている。

遺物は認められず時期を決定する資料は無い。

第36号土坑（第17図、第15図）

本遺構は、調査区のほぼ中央部に位置して検出された長円形状の遺構で単独、南北42cm、東西57cmを測る。掘込みは５cm程で浅い。本遺跡の中では小型で浅い。底部は締まりをもつ。壁面は緩やかに立ち上がる。

土層は１層で橙色、ローム粒子を多量に含む。粘性、締まりは強い。中央部をトレンチャーに攪乱されている。

遺物は８があり単節の縄を施文、深鉢の口縁部と考えられる遺物である。前期の遺構か？

第37号土坑（第17図、第15図）

本遺構は、調査区のほぼ中央部に位置して検出された長円状の遺構で単独、南北1.50㎝、東西83㎝を測る。掘込みは35㎝と深い。本遺跡の中では深い部類。壁面は鋭角的で２段になる。底部は締まりをもつ。

９は口縁部で穿孔がみられる深鉢形態の土器と推定され胎土から前期後半のと思われる。

土層は２層で橙色でローム粒子を多量に含む。２層は黄褐色で粘性、締まりは強い。土層の攪乱はない。

遺物は９があり深鉢の口縁部と推定され両端に穿孔、胎土に繊維を含み前期前半か。関山式？

第38号土坑（第18図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し検出され長円形状形態で東西75㎝、南北60㎝を測る。底部の大半は攪乱を受けている。壁面の立ち上がりはややだれ気味である。北側が一段下がり深さは30㎝程を測る。底部は締まりは弱い。

土層は２層に分けられ１層は橙色、２層は黄橙色でそれぞれロームを多量に含み粘性、締まりは強い。遺物は皆無で時期を決定するものは無い。

第39号土坑（第19図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し長方形状を呈する。東西2.70ｍ、南北90㎝で深さは45㎝。底部は西側に向かって低くなり底部はやや締まりがある。壁面は鋭角的に立ち上がる。掘込みはＵ字状形態。

土層は２層有り１層は橙色、２層は黄橙色でローム多量で粘性、締まりは強い。牛蒡によるトレンチャーで土層の攪乱が４ヶ所見られ底部を掘込む。締まりはややある。

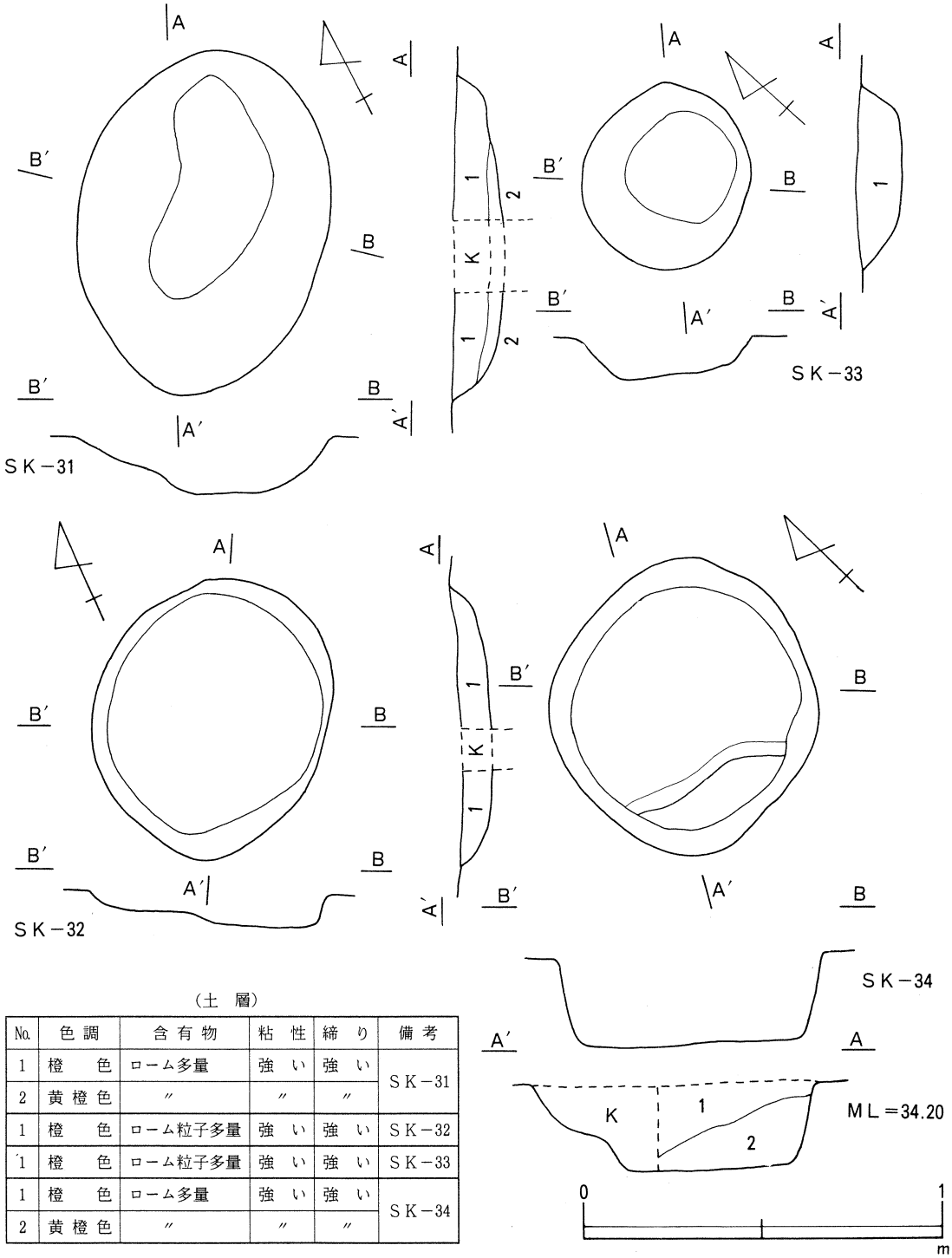
遺物は遺構が大きい分やや多く、15図に図示した10、11、12が見られる。12は石器で川原石を若干加工した程度の遺物である。10、11は胎土に繊維を含む土器で器裏には条痕はない。関山式前後の遺物と思われ。従って本遺跡の時期は前述の時期が推定される。

第40号土坑（第18図、第15図）

本遺構は、調査区のほぼ中央部に位置して検出された円形状の遺構で単独、南北82㎝、東西95㎝を測る。掘込みは５㎝と浅い。本遺跡の中では浅い部類にはいる。壁面はややだれ気味。底部は締まりをもつ。

土層は１層で橙色でロームを多量に含み粘性、締まりは強い。

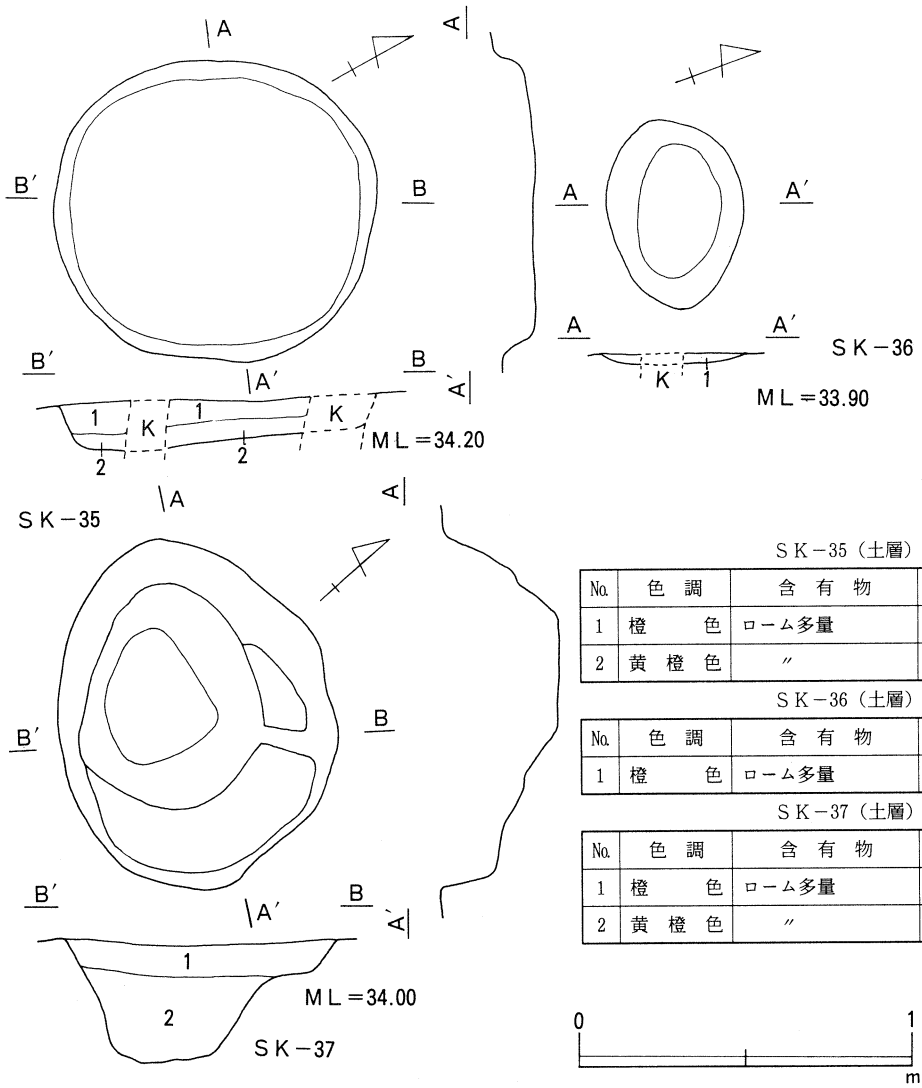
遺物は浅いわりにはやや多く見られ13、14がある。13は沈線区画でアナダラ属の貝部の施文が交互に見られる。14は摩耗が激しく不明。時期は田戸下層式が推定される。



（土　層）

No.	色調	含有物	粘性	締り	備考
1	橙　色	ローム多量	強い	強い	SK－31
2	黄橙色	〃	〃	〃	
1	橙　色	ローム粒子多量	強い	強い	SK－32
1	橙　色	ローム粒子多量	強い	強い	SK－33
1	橙　色	ローム多量	強い	強い	SK－34
2	黄橙色	〃	〃	〃	

第16図　SK－31・32・33・34号実測図



ＳＫ－35（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘　性	締　り
1	橙　　色	ローム多量	強　い	強　い
2	黄　橙　色	〃	〃	〃

ＳＫ－36（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘　性	締　り
1	橙　　色	ローム多量	強　い	強　い

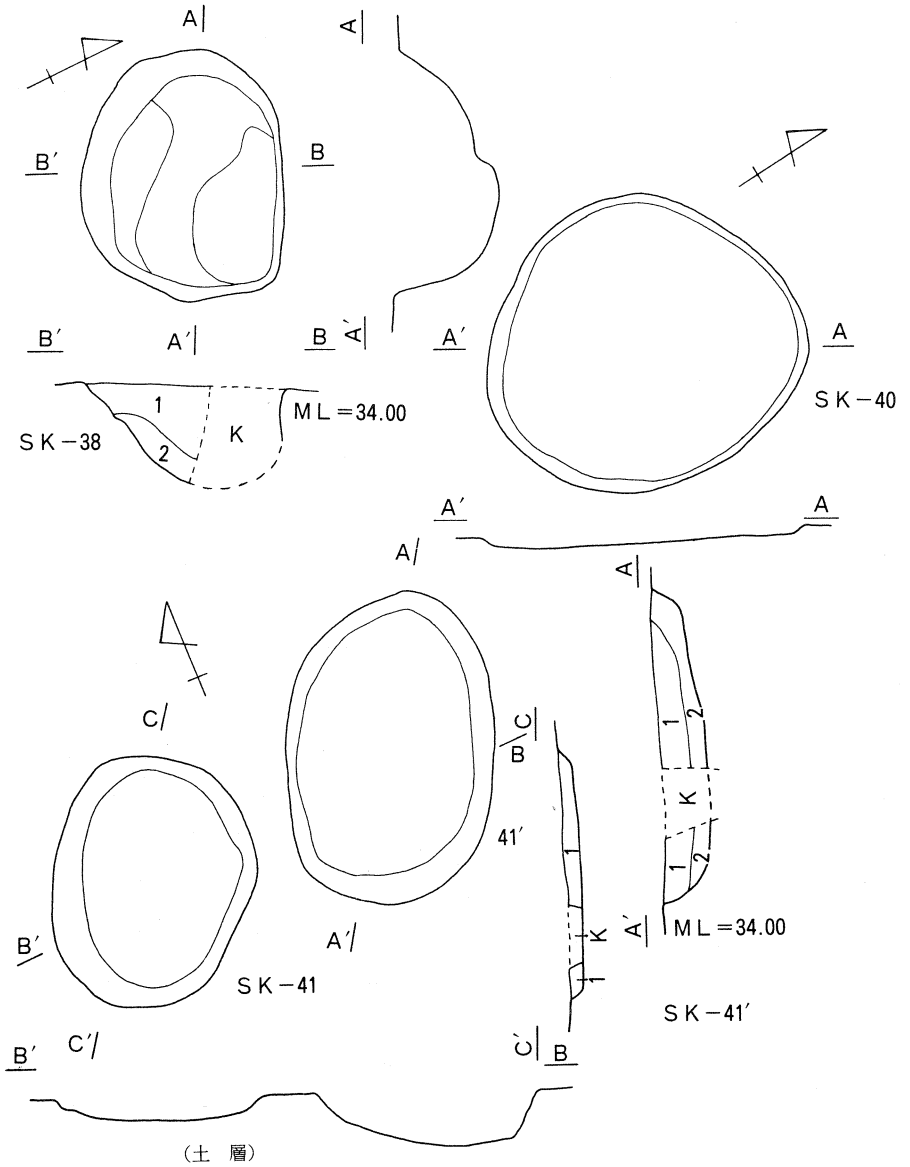
ＳＫ－37（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘　性	締　り
1	橙　　色	ローム多量	強　い	強　い
2	黄　橙　色	〃	〃	〃

第17図　ＳＫ－35・36・37号実測図

第41号土坑（第18図、第15図）

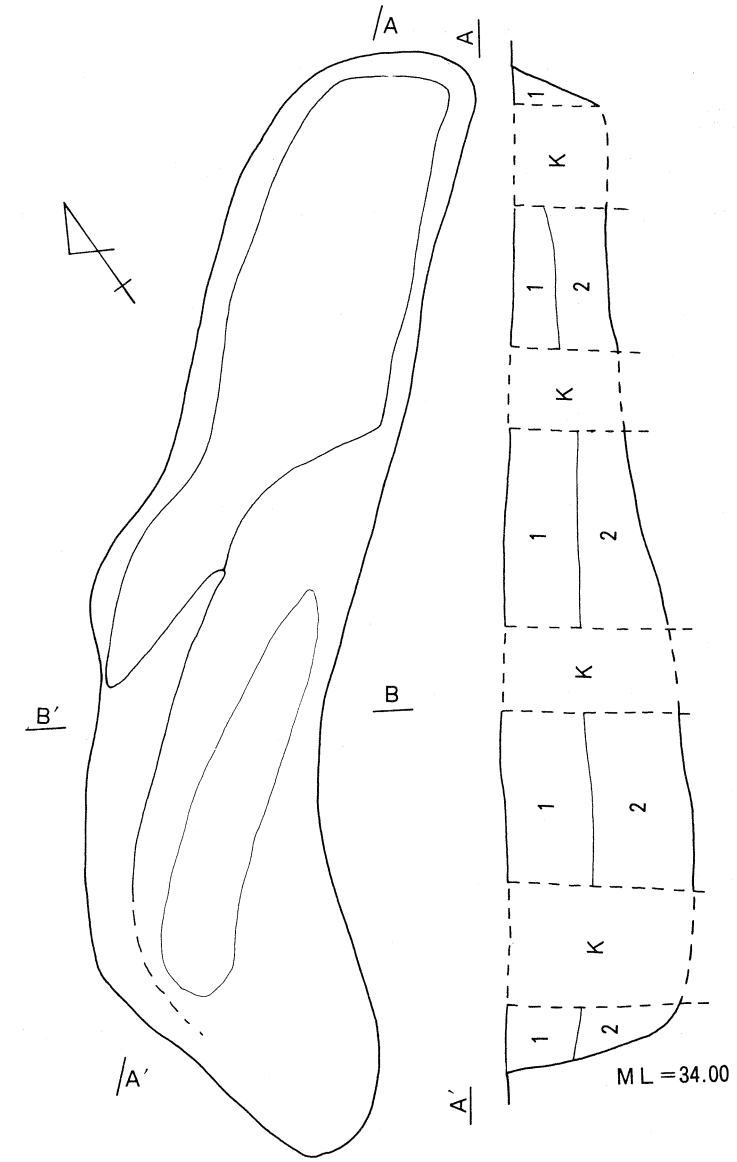
本遺構は、調査区の中央部に位置し検出され長円形状形態で東西75cm、南北60cmを測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりはややだれ気味で10cmと掘込みは浅い。相対的には長方形状に近い。



（土　層）

No.	色調	含有物	粘性	締り	備考
1	橙　色	ローム多量	強い	強い	SK－38
2	黄橙色	〃	〃	〃	
1	橙　色	ローム多量	強い	強い	SK－41
1	橙　色	ローム多量	強い	強い	SK－41′
2	黄橙色	〃	〃	〃	

第18図　SK－38・40・41・41号実測図



SK－39（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘　性	締　り
1	橙　　色	ローム多量	強　　い	強　　い
2	黄　褐　色	〃	〃	〃

0　1
m

第19図　SK－39号実測図

土層は１層で橙色、ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。

遺物は皆無で時期を決定するものは無い。土層などから縄文時代の遺構と考えられる。

第41′号土坑（第18図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し長円形状を呈する。東西92cm、南北60cmで深さは13cm。底部はなだらかな傾斜を示す。締まりはややある。壁面はややだれ気味に立ち上がる。掘込みは深さは14cm前後でやや浅い。

土層は２層有り１層は橙色、２層は黄橙色でローム多量で粘性、締まりは強い。牛蒡によるトレンチャーで土層の攪乱が中央部に見られ底部を掘込む。

遺物は皆無で時期は、遺構覆土から縄文時代が推定される。

第42号土坑（第20図、第15図）

本遺構は、調査区のやや西側に位置して検出された長円形状の遺構で単独、南北1.10ｍ、東西95cmを測る。掘込みは14cmと浅い。本遺跡の中では浅い部類にはいる。壁面はややだれ気味でゆるやかに立ち上がる。底部は締まりをもつ。

土層は１層で橙色。ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。２ヶ所牛蒡のトレンチャーに攪乱されている。西側に偏り深い部分が存在する。

遺物は図示出来るものは無く川原石が３点程見られた。加工痕、焼けた面は認められない。覆土等から本遺構も縄文時代の田戸下層式前後か？。

第43号土坑（第20図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し検出され長円形状形態で東西98cm、南北66cmを測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりはややだれ気味で５cmと掘込みは浅い。相対的には不整形な長方形状に近い。

土層は１層で橙色、ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。トレンチャーによる攪乱。遺物は３点見られたが図示出来るものは15図15で半裁竹管による平行沈線が見られる。胎土に繊維を少量含む。これらから田戸上層式前後の時代の遺構と考えられる。

第44号土坑（第20図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し長円形状を呈する。東西72cm、南北83cmで深さは７cm。底部はなだらかな傾斜を示す。締まりはややある。壁面はややただれ気味に立ち上がる。掘込みは浅く７cm前後。

土層は１層で黄橙色。ローム多量で粘性、締まりは強い。牛蒡のトレンチャーによる土層の攪乱が見られ底部を掘込む。

遺物は川原石のみで土器は皆無。遺構は覆土から縄文時代が推定される。

第45号土坑（第21図、第15図）

本遺構は、調査区のやや西側に位置して検出された長円形状の遺構で単独、南北38㎝、東西54㎝を測る。掘込みは13㎝とやや浅い。本遺跡では普通の深さである。壁面はやや鋭角的に立ち上がる。底部は締まりをもつが大半は攪乱を受けている。

土層は１層で黄橙色でロームを多量に含み粘性、締まりは強い。中央部は牛蒡栽培のトレンチャーに攪乱されている。底部は平坦で締まりはややある。

遺物は図示出来るものは無く川原石が２点程見られた。加工痕、焼けた面は認められない。覆土等から本遺構も縄文時代の田戸下層式前後か？。

第46号土坑（第21図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し検出され長円形状形態で東西85㎝、南北65㎝を測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりはややだれ気味で13㎝と掘込みは77㎝と深い。相対的には倒卵形状形態に近い。

土層は２層で橙色、黄橙色。ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。牛蒡栽培によるトレンチャーの攪乱が見られる。

遺物は３点見られたが図示出来るものは15図21で川原石を利用したもので加工痕は皆無。上下に使用痕を僅かに認める。時期は田戸上層式前後の時代か？。

第47号土坑（第21図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し円形状を呈する。東西70㎝、南北80㎝で深さは45㎝と深い。底部はなだらかな傾斜を示す。締まりはややある。壁面は鋭角的な立ち上がり、掘り込みは深く47㎝を測る。

土層は２層で橙色、黄橙色でローム多量で粘性、締まりは強い。牛蒡栽培によるトレンチャーの攪乱が見られる。

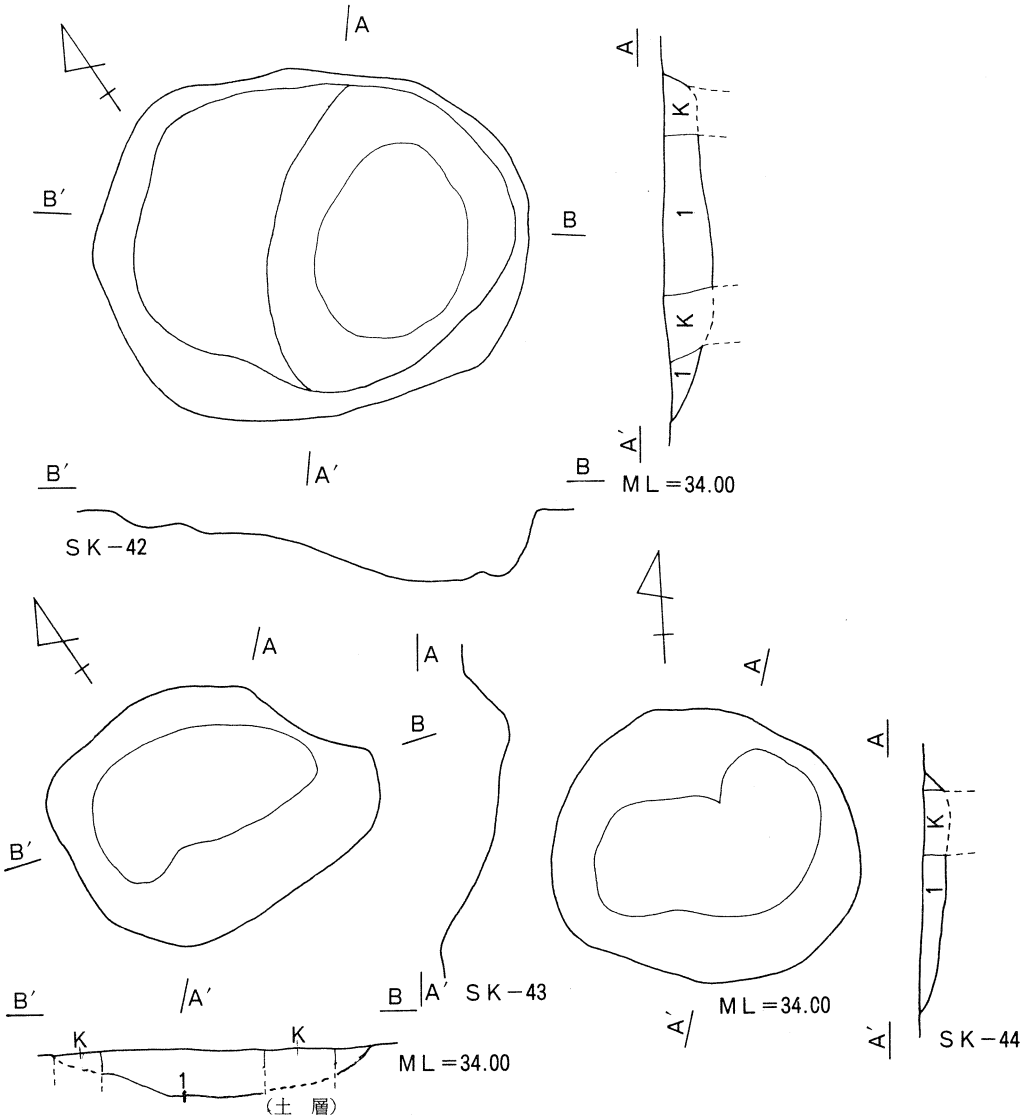
遺物は15図16で胎土等から田戸下層式の底部と推定される。本遺構の時期は縄文早期の遺構と推定される。

第48号土坑（第21図、第15図）

本遺構は、調査区の西側に位置して検出された円形状の遺構で単独、南北60㎝、東西65㎝を測る。掘込みは14㎝とやや深い。本遺跡では普通の深さである。壁面はやや鋭角的に立ち上がる。底部は締まりをもつ。

土層は、２層で橙色と黄橙色。ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。底部は僅かに凹凸があり締まりは弱い。

遺物は、図示した22の川原石状の石器が出土した。加工痕、焼けた面は認められず僅かに両端部に摩耗痕が見られることから石器と考えられ、時期は田戸下層式前後か？。

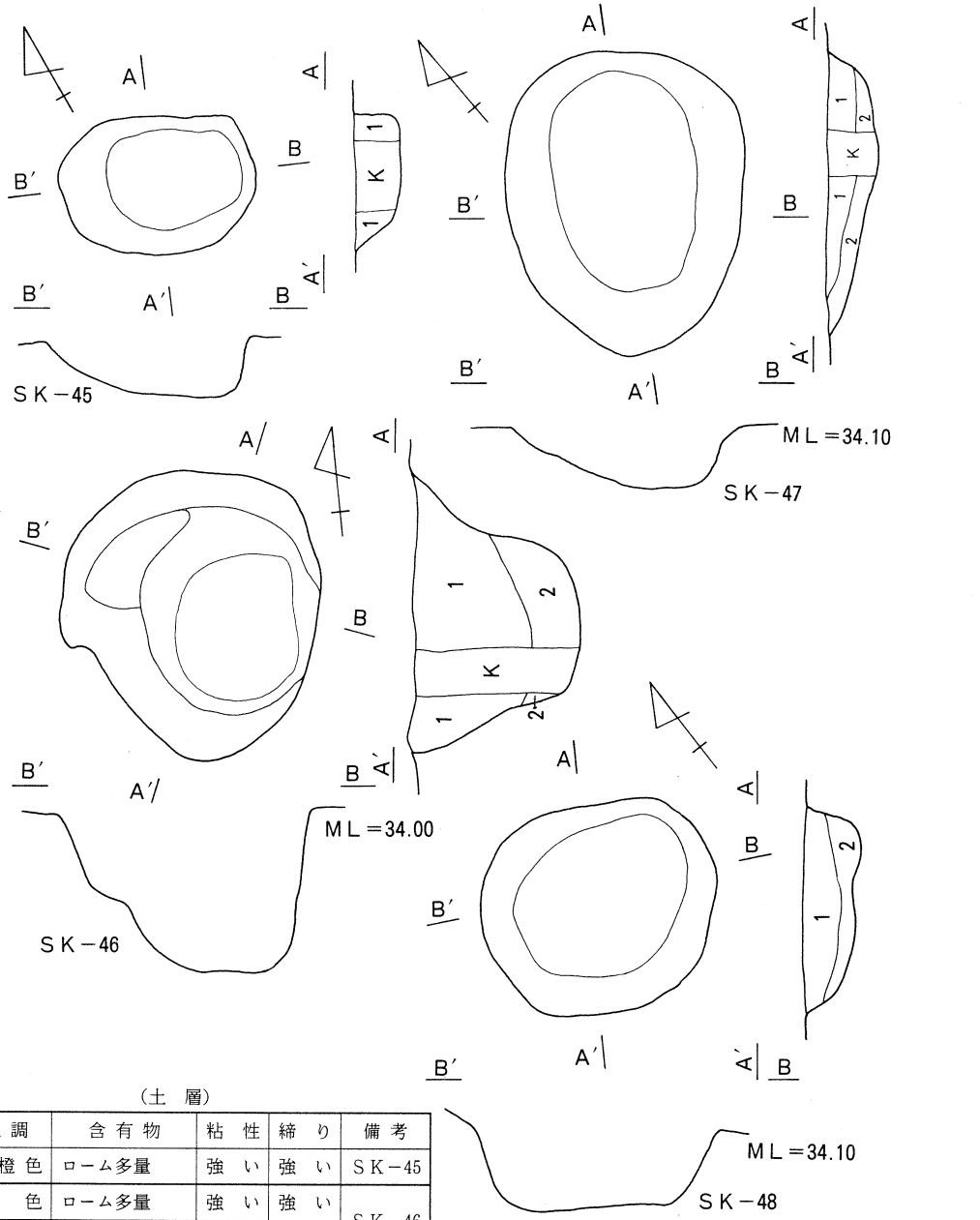


No.	色調	含有物	粘性	締り	備考
1	橙色	ローム粒子多量	強い	強い	SK－42
1	橙色	ローム粒子多量	強い	強い	SK－43
1	黄橙色	ローム多量	強い	強い	SK－44

第20図　SK－42・43・44号実測図

第49号土坑（第22図、第15図）

本遺構は、調査区の西側に位置し検出され長円形状形態で東西68cm、南北92cmを測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりはややだれ気味で掘込みは13cmでやや深い。相対的には倒卵形状形態に近い。底部は締まりを持つ。



（土　層）

No.	色調	含有物	粘性	締り	備考
1	黄橙色	ローム多量	強い	強い	SK－45
1	橙色	ローム多量	強い	強い	SK－46
2	黄橙色	〃	〃	〃	
1	橙色	ローム多量	強い	強い	SK－47
2	黄橙色	〃	〃	〃	
1	橙色	ローム多量	強い	強い	SK－48
2	黄橙色	〃	〃	〃	

第21図　SK－45・46・47・48号実測図

土層は２層で橙色、黄橙色でロームを多量に含み粘性、締まりは強い。

遺物は川原石が４点程見られた。規則性、意識的配列は想定出来ない。加工痕は認められない。また使用痕も認められない。時期は田戸下層式前後か？。

第50号土坑（第22図、第15図）

本遺構は、調査区の西側に位置し倒卵形状を呈する。東西73cm、南北50cmで深さは７cmと浅い。底部はなだらかな傾斜を示し、締まりはややある。壁面は鋭角的な立ち上がりを呈する。

土層は１層で黄橙色、ローム多量で粘性、締まりは強い。

遺物は川原石が２点程出土している。遺物から本遺構の時期は不明。覆土の色調から縄文時代前半の遺構と推定される。

第51号土坑（第22図）

本遺構は、調査区の西側に位置して検出された長円形状の遺構で複数の可能性がある。北側の深い部分が１基、南側の長円形状部分が１基に分類が可能である。それは深さも同様である。長軸は1.40m、短軸90cmで底部が二段になる。深さは55cmをはかる。本遺跡ではさも深い遺構である。壁面は鋭角的に立ち上がり底部は締まりをもつ。

土層は２層で橙色と黄橙色でロームを多量に含み粘性、締まりは強い。底部は北側に深い部分がみられる。複合になる部分は攪乱で不明なため土層からは不明である。

遺物は、図示するものは無く川原石状の石が４点出土した。加工痕、焼けた面は認められず使用部の磨耗は認められない。時期は、覆土の色調から早期後半前後が想定され南側部分と北側は２期に分類が可能と私考する。

第52号土坑（第23図）

本遺構は、調査区の西側に位置し検出され長円形状形態で東西80cm、南北42cmを測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりはややだれ気味で掘込みは10cmで浅い。相対的には倒卵形状形態に近い。

土層は、１層で橙色。ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。浅い割には掘込みは鋭角的。時期は遺物が無いため不明であるが覆土等から早期後半前後か？。

第53号土坑（第23図）

本遺構は、調査区の西側に位置し倒卵形状を呈し東西93cm、南北74cmで深さは32cmと深い。底部はほぼ平坦、締まりはややある。壁画は鋭角な掘込みである。南側にさも深い部分があり42cmをはかる。

土層は３層で、１層は橙色で炭化粒子、焼土粒子を含む。２層は橙色でローム多量、３層は黄橙色でローム全量で粘性、締まりは強い。

遺物は川原石が３点程出土している。遺物は加工のあとは無く使用痕も認められない。遺物か

ら本遺構の時期は不明。覆土の色調から縄文時代早期の遺構と推定される。

第54号土坑（第23図）

本遺構は、調査区の西側に位置して検出された三角形状の遺構で東西60cm、南北61cmを測る。深さは7cmと浅く壁面は鋭角的な掘り方、底部は締まりはある。

土層は1層で黄橙色。ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。底部はやや締まりをもつ。

遺物は、川原石が2点程見られたが加工した痕跡はなく焼けた面も見られず実際に使用したかどうか不明である。いずれも40g前後の小型のものが大半を占める。

以上の為時期等は不明、覆土等からは縄文時代早期後半の遺構と推察される。

第55号土坑（第23図）

本遺構は、調査区の西側に位置し検出され長円形状形態で東西76cm、南北42cmを測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりはややだれ気味で掘込みは10cmで浅いが中央部が2段に掘りこまれ20cmをはかり長方形状に狭く長い。

土層は1層で橙色。ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。掘込み面はだれている。

時期は遺物が無いため不明であるが覆土等から早期後半前後か？。

第56号土坑（第23図）

本遺構は、調査区の西側に位置し倒卵形状形態で東西73cm、南北1.5cmで深さは8cm前後と浅くほぼ平坦、締まりはある。南側に深い部分があり50cmを測る。壁面はだれ気味な掘込みである。南側のピットのみが長円形で鋭角的な掘込み。

土層は1層で橙色。ローム多量、粘性、締まりは強い。

遺物は川原石が1点程出土している。遺物は加工のあとは無く使用痕も認められない。遺物から本遺構の時期は不明。覆土の色調から縄文時代早期の遺構と推定される。

第57号土坑（第24図）

本遺構は、調査区の西側に位置して検出された円形状の遺構で東西1m、南北91cmを測る。深さは10cmと浅く壁面はだれ気味、底部は締まりはある。東側に25cmをはかる長方形の部分がある。掘込みは2段になる。

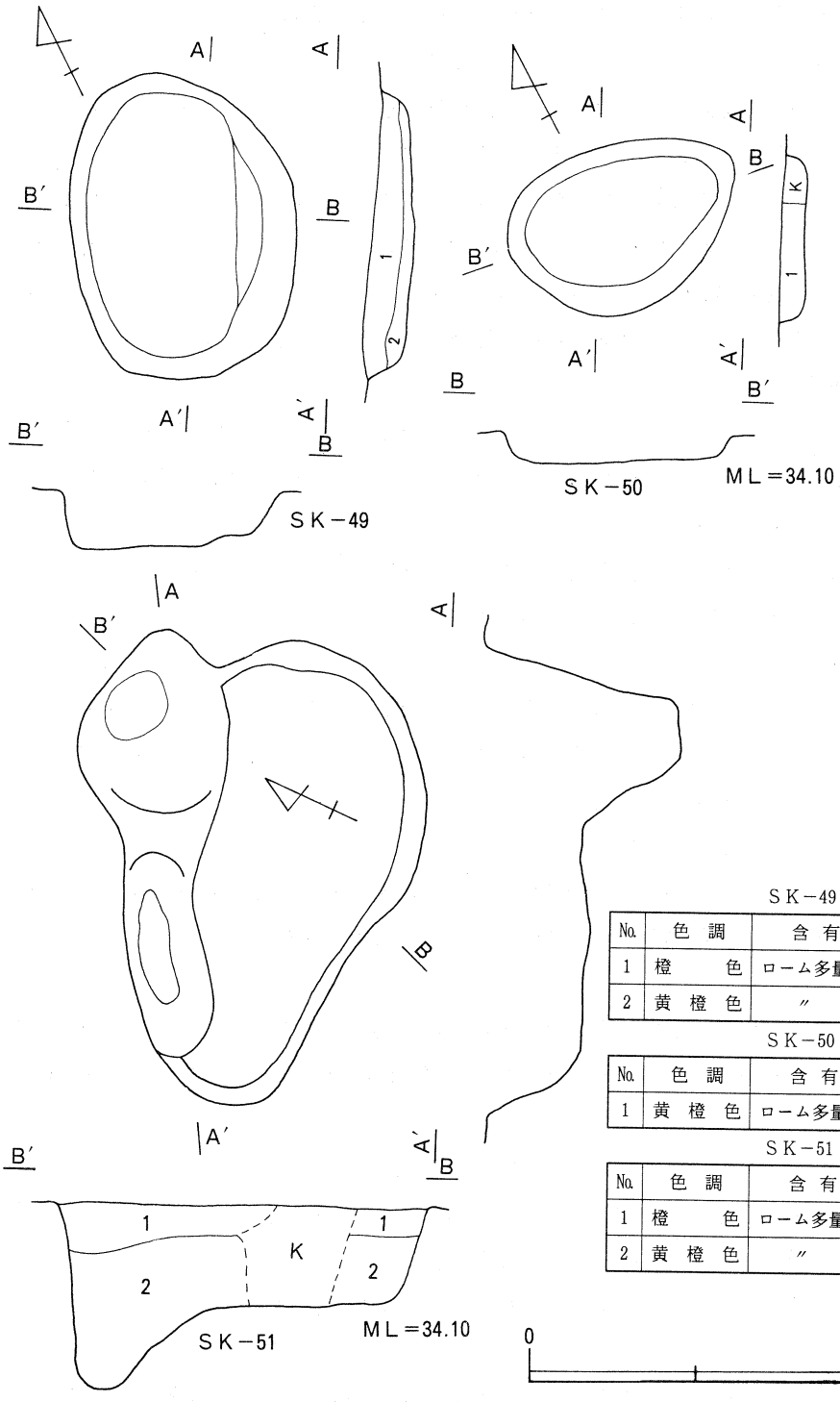
土層は1層で橙色。ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。底部は締まりをもつ。

遺物は、川原石が1点程見られたが加工した痕跡はなく焼けた面も見られず実際に使用したかどうか不明である。重さは20g程の小型のものである。

以上の為時期等は不明、覆土等からは縄文時代早期後半の遺構と推察される。

第58号土坑（第24図）

本遺構は、調査区の西側に位置し検出され円形状形態で東西60cm、南北56cmを測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりは鋭角的で掘込みは15cmやや深い。



SK－49（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量	強い	強い
2	黄橙色	〃	〃	〃

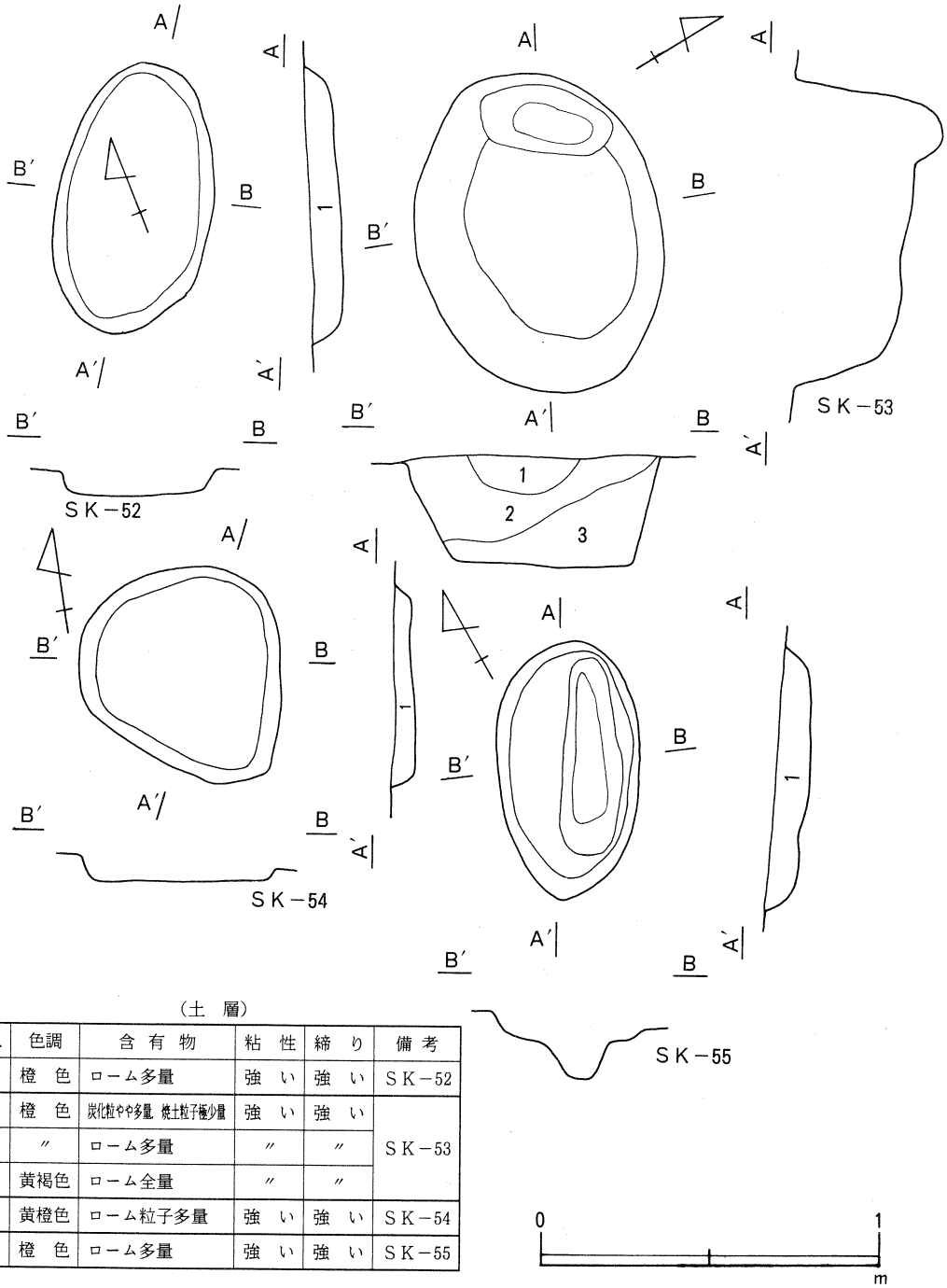
SK－50（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	黄橙色	ローム多量	強い	強い

SK－51（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量	強い	強い
2	黄橙色	〃	〃	

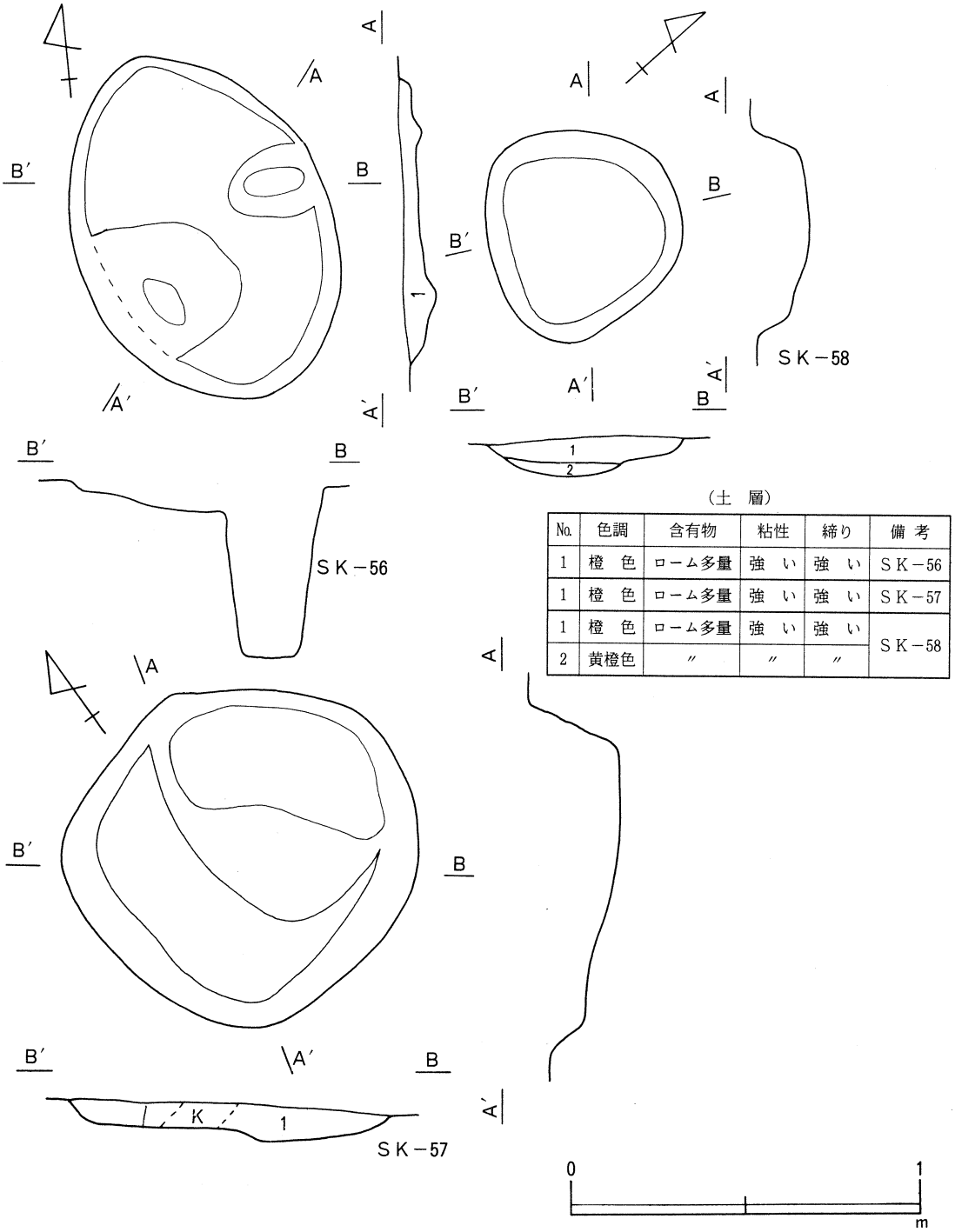
第22図　SK－49・50・51号実測図



（土　層）

No.	色調	含有物	粘性	締り	備考
1	橙　色	ローム多量	強　い	強　い	SK－52
1	橙　色	炭化粒やや多量 焼土粒子極少量	強　い	強　い	SK－53
2	〃	ローム多量	〃	〃	
3	黄褐色	ローム全量	〃	〃	
1	黄橙色	ローム粒子多量	強　い	強　い	SK－54
1	橙　色	ローム多量	強　い	強　い	SK－55

第23図　SK－52・53・54・55実測図



（土　層）

No.	色調	含有物	粘性	締り	備　考
1	橙　色	ローム多量	強　い	強　い	SK－56
1	橙　色	ローム多量	強　い	強　い	SK－57
1	橙　色	ローム多量	強　い	強　い	SK－58
2	黄橙色	〃	〃	〃	

第24図　SK－56・57・58号実測図

土層は１層で橙色。ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。

時期は遺物が無いため不明であるが覆土等から早期後半前後か？。

第59号土坑（第25図）

本遺構は、調査区の西側に位置し円形状形態で東西75㎝、南北85㎝で深さは10㎝前後と浅くほぼ平坦、締まりはある。南側に深い部分があり15㎝を測る。壁面はだれ気味な掘込みである。

土層は１層で黄橙色。ロームを多量に含み、粘性、締まりは強い。

遺物は土器破片が１点程出土している。小破片のため時期不明、図示しなかった。

遺物からは本遺構の時期は不明。覆土の色調から縄文時代早期の遺構と推定される。

第60号土坑（第25図、第15図）

本遺構は、調査区の西側に位置して検出された長円形状の遺構で南北１ｍ、東西66㎝を測る。深さは34㎝と深く、壁面は鋭角的に掘込み、底部は締まりはある。中央部に円形のやや深い部分がある。掘込みは２段になり５㎝ほどである。

土層は２層見られ、１層は橙色でロームを多量に含む。２層は黄橙色で粘性、締まりは強い。

遺物は、川原石が２点程見られたが加工した痕跡はなく、焼けた面も見られず実際に使用したかどうか不明である。重さは15ｇ程の小型の物である。

以上の為時期等は不明、覆土等からは縄文時代早期後半の遺構と推察される。

第62号土坑（第25図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し検出され円形状形態で東西63㎝、南北75㎝を測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりは鋭角的で掘込みは７㎝と浅い。

土層は１層で橙色でロームを多量に含み粘性、締まりは強い。西側で牛蒡栽培の為にトレンチャーによる攪乱が見られる。

時期は遺物が無いため不明であるが覆土等から早期後半前後が推定される。

第63号土坑（第25図）

本遺構は、調査区の西側に位置し円形状形態で東西96㎝、南北82㎝で深さは13㎝前後と浅く底部はほぼ平坦、締まりはある。壁面はだれ気味、ゆるやかな掘込みである。

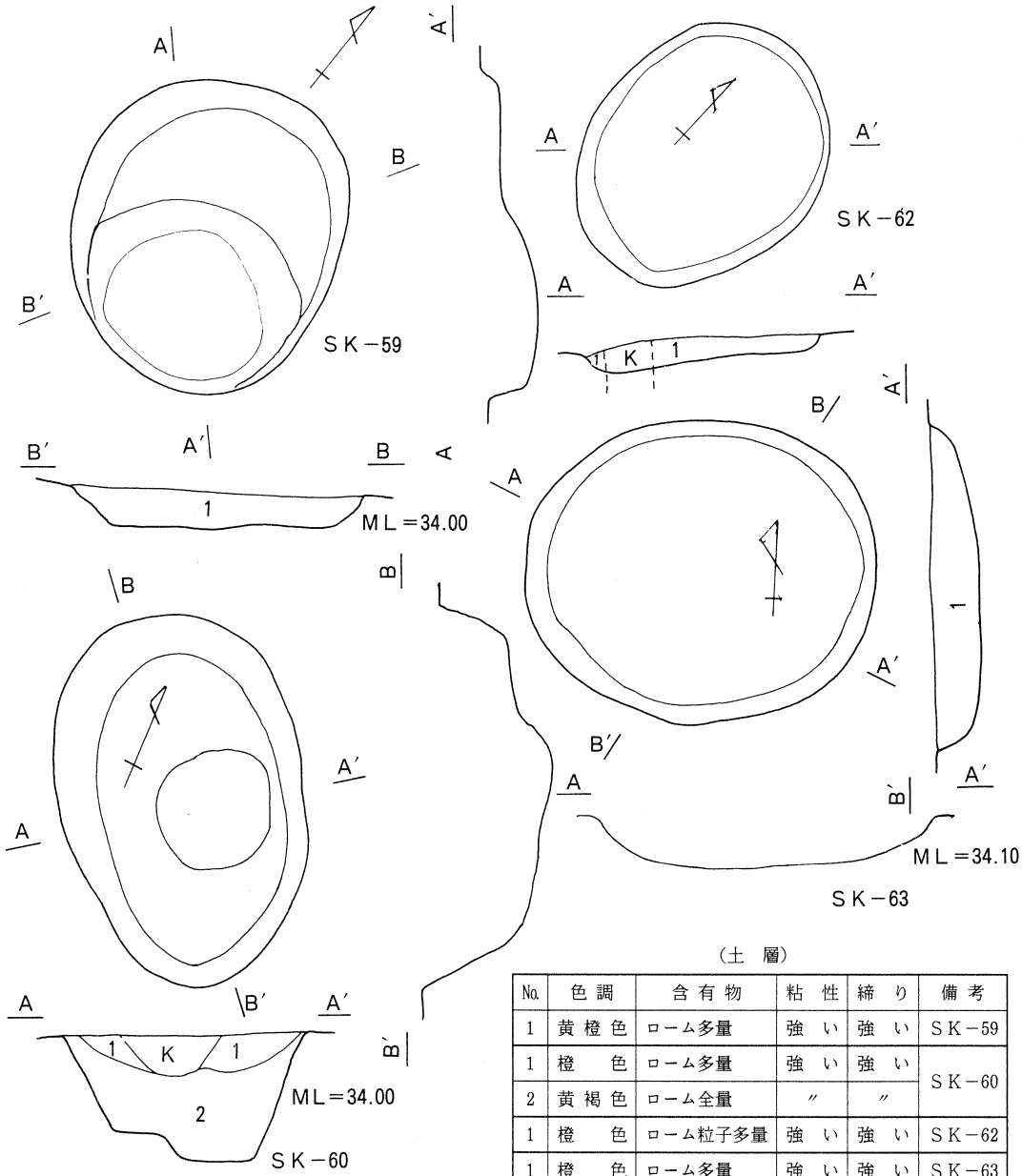
土層は１層で橙色。ローム多量、粘性、締まりは強い。

遺物は皆無で図示出来るものは無い。

遺物からは本遺構の時期は不明。覆土の色調から縄文時代早期の遺構と推察される。

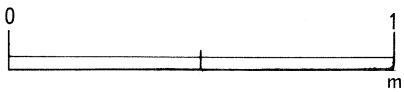
第61号土坑（第26図）

本遺構は、調査区の西側に位置して検出された円形状の遺構で南北２ｍ、東西1.95ｍを測る。深さは９㎝と浅く、壁面は緩やかに掘込まれ底部は締まりをもつ。本遺跡の中では最大規模の大きさである。



（土　層）

No.	色調	含有物	粘性	締り	備考
1	黄橙色	ローム多量	強い	強い	SK−59
1	橙色	ローム多量	強い	強い	SK−60
2	黄褐色	ローム全量	〃	〃	
1	橙色	ローム粒子多量	強い	強い	SK−62
1	橙色	ローム多量	強い	強い	SK−63



第25図　SK−59・60・62・63号実測図

土層は２層みられ、１層は橙色でロームを多量、炭化粒子を少量含む。２層は黄橙色でローム多量、粘性、締まりは強い。土層はレンズ状の自然堆積。

遺物は、川原石が３点程見られたが加工した痕跡はなく焼けた面も見られず実際に使用したかどうか不明である。重さは13ｇ程の小型のものである。

以上の為時期等は不明、覆土等からは縄文時代早期後半の遺構と推察される。

第64号土坑（第26図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し検出され円形状形態で東西63㎝、南北68㎝を測る。底部は締まりをもつ。壁面の立ち上がりは緩やかで掘込みは11㎝と浅い。

土層は１層で橙色、ロームを多量に、焼土粒子を極少量含む。粘性、締まりは強い。

遺物は15図17があり半截竹管による平行沈線が見られる。胎土に少量の繊維を含み田戸上層式か？

時期は遺物、覆土等から早期後半前後が推定される。

第65号土坑（第27図、第15図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し長円形状形態で東西1.60㎝、南北1.60㎝で後東側と中央部にやや深い掘込みがみられる。壁面はだれ気味で深さは20㎝でやや深い。

土層は２層でにぶい橙色、ローム多量、２層は黄橙色で粘性、締まりは強い。

遺物はかなり多く見られ15図17、18、19、20がある。地紋は縄文が施文、胎土には繊維が多量に含まれて。これらの遺物から本遺構は縄文時代前期前半の芽山式及び関山式の粗製土器である。

第66号土坑（第27図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し検出され長方形状形態で長軸1.19㎝、短軸55㎝を測る。掘込みは30㎝と深く、底部はやや締まりを持つ。壁面は鋭角的に立ち上がり、形状等本遺跡では異例の形態である。

土層は２層でにぶい橙色、ローム粒多量、２層はローム全量。粘性、締まりは強い。

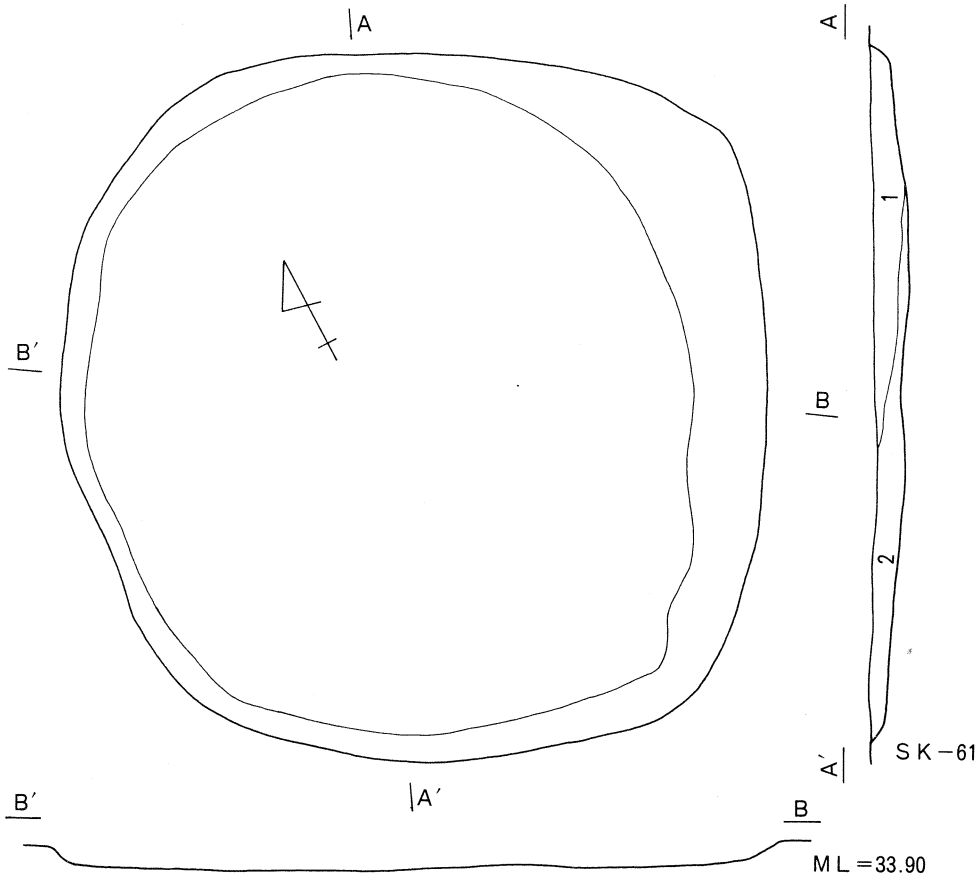
遺物は皆無。時期は覆土等から早期後半前後が推定される。

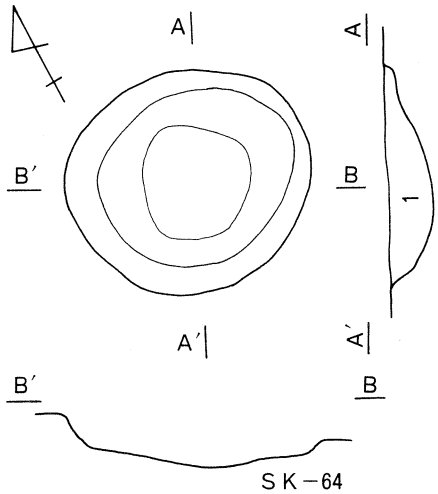
第67号土坑（第28図）

本遺構は、調査区の西側に位置し長円形状形態で東西75㎝、南北１ｍを計測する。３段に掘りこまれ中央部がさも深く30㎝を測る。掘込み形態は鋭角的で底部の締まりは強い。

土層は３層でにぶい橙色、ローム粒多量、２層は橙色ローム多量、３層は黄橙色でローム全量で粘性、締まりは強い。

遺物は皆無で図示できるものは無く、覆土から本遺構の時期は縄文時代早期後半の遺構と推定される。



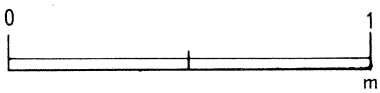


SK－61（土層）

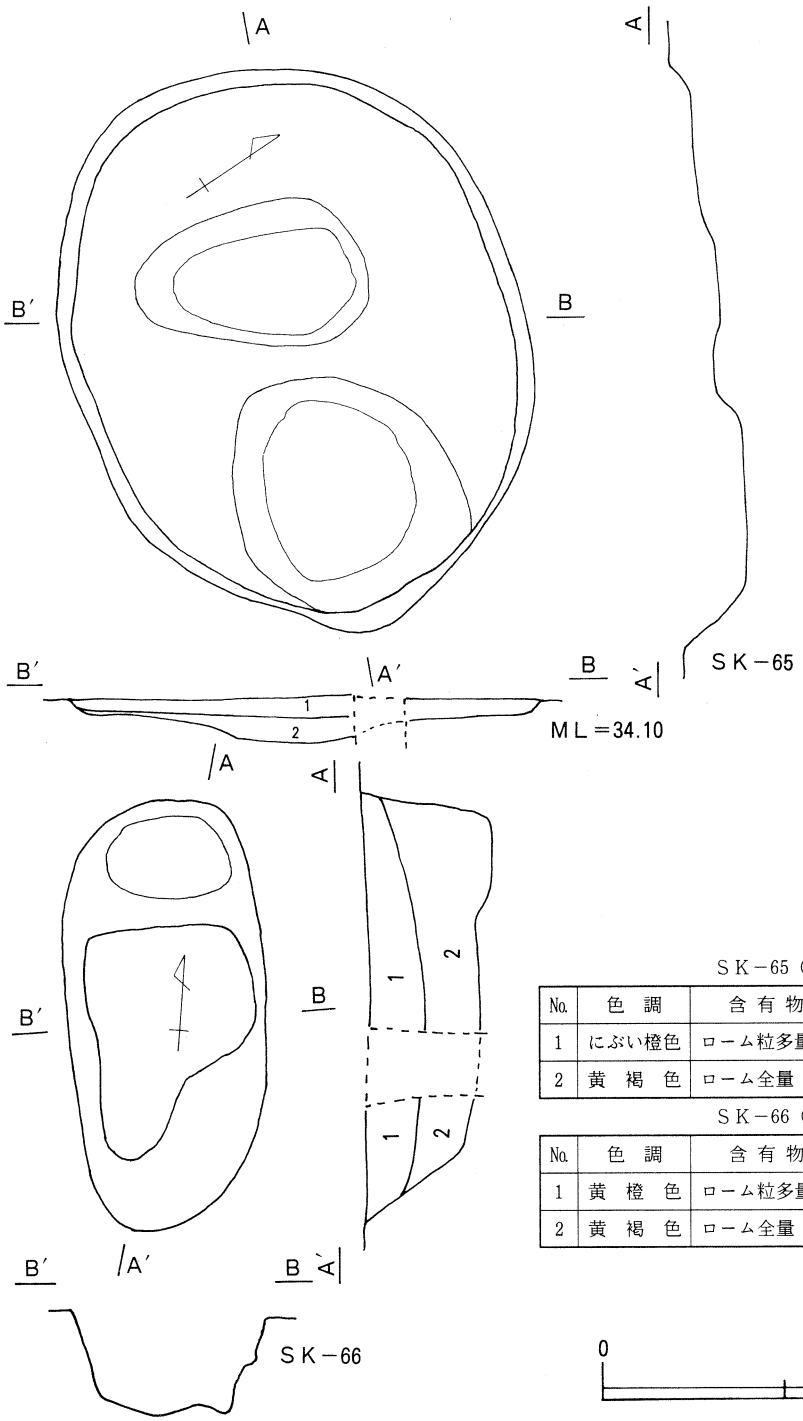
No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量，炭化粒極少量	強い	強い
2	黄橙色	ローム多量	〃	〃

SK－64（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量，焼土粒子極少量	強い	強い



第26図　SK－61・64号実測図



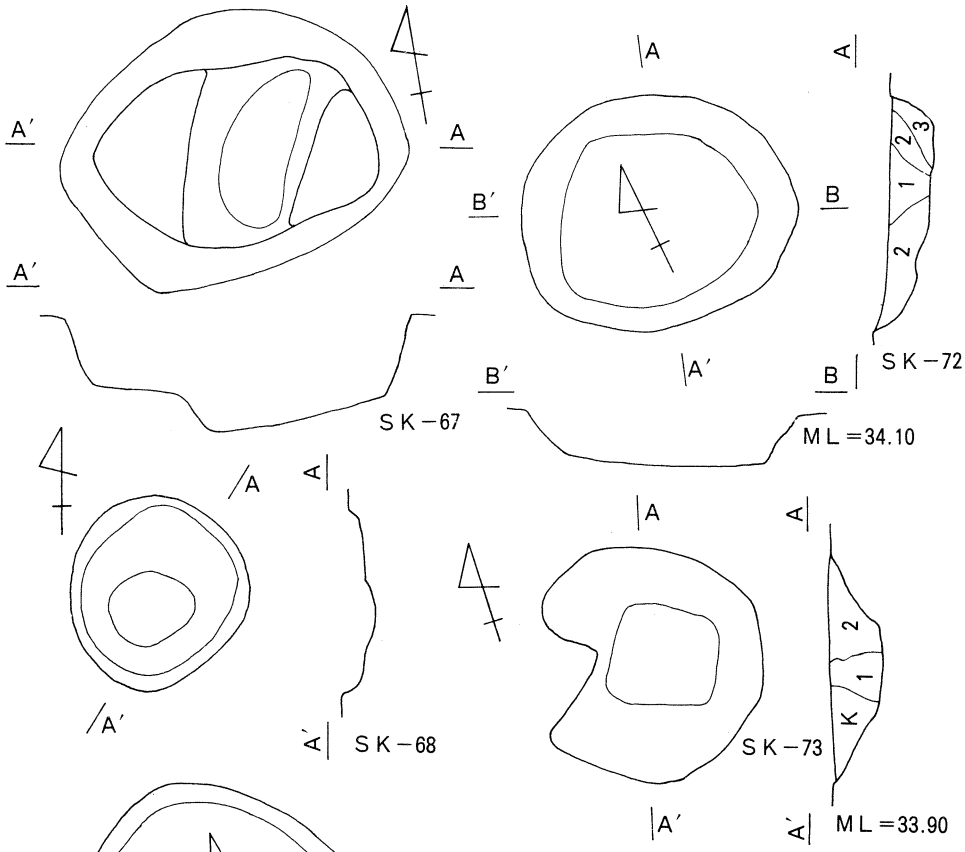
SK－65（土層）

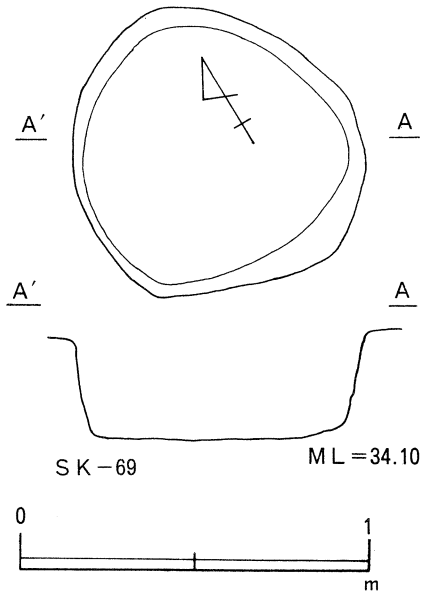
No.	色　調	含有物	粘性	締り
1	にぶい橙色	ローム粒多量	強　い	やや有り
2	黄　褐　色	ローム全量	〃	強　い

SK－66（土層）

No.	色　調	含有物	粘性	締り
1	黄　橙　色	ローム粒多量	強　い	強　い
2	黄　褐　色	ローム全量	〃	〃

第27図　SK－65・66号実測図





SK－68（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム粒子多量，焼土粒子極少量	強い	強い

SK－72（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	黄橙色	ローム粒多量	やや有り	やや有り
2	橙色	ローム多量	強い	強い
3	黄褐色	〃	〃	〃

SK－73（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量	強い	強い
2	黄褐色	〃	〃	〃

第28図　SK－67・68・69・72・73号実測図

第68号土坑（第28図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置して検出された円形状の遺構で南北55cmで東西52cmを測

る。中央部がさも深く11cmで円形状形態。掘り方は緩やかで底部はやや締まりをもつ。

土層は2層でにぶい橙色でローム粒を多量に含む。2層は黄褐色、ローム全量、粘性、締まりは強い。土層は自然堆積でレンズ状であった。

遺物は、川原石が1点見られたが加工した痕跡はなく焼けた面も見られず実際に使用したかどうか不明である。重さは10g程の小型のものである。

以上の為、時期等は不明、覆土等からは縄文時代早期後半の遺構と推察される。

第69号土坑（第28図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置し検出され円形状形態で径85cmほどで形態的には芋穴状の掘込み。30cmと深く、底部はやや締まりを持ち、壁面は鋭角的に立ち上がり、形状等から畑地耕作の遺構と考えられる。

土層は2層でにぶい橙色、ローム粒、ブロック多量、2層はローム全量。粘性、締まりは弱い。遺物は皆無。時期は覆土等から戦後か。

第70号土坑（第28図、第30図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し倒卵形状形態で東西1.8m、南北96cmを計測する。底部はやや凹凸気味で深さは82cmほどを測る。掘込み形態は鋭角的で底部の締まりはやや強い。本遺跡では大型の遺構に入る。

土層は3層で黄橙色でローム粒多量、2層は橙色でローム多量、3層は黄褐色でローム多量で粘性、締まりは強い。壁面部から自然堆積の層序。

遺物は多量で29図5～20でアナタラ属の背面による平行沈線、竹管による平行沈線がみられいずれも器肉は厚い。土器には繊維は含まない。これらの遺物から本遺構は、田戸下層式の古い部分に位置する。その他31図の石器がある。いずれも川原石を利用したもので打製石器で先端部に若干の摩耗痕が見られる。いずれも安山岩である。

第71号土坑（第29図、第30図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置し検出され長方形状遺構で長軸1.93cmほどで最大幅97cmを測る。掘込みは62cmと深く、底部はやや締まりを持つ、壁面は鋭角的に立ち上がり、形状等からは落とし穴の可能性が推定される。

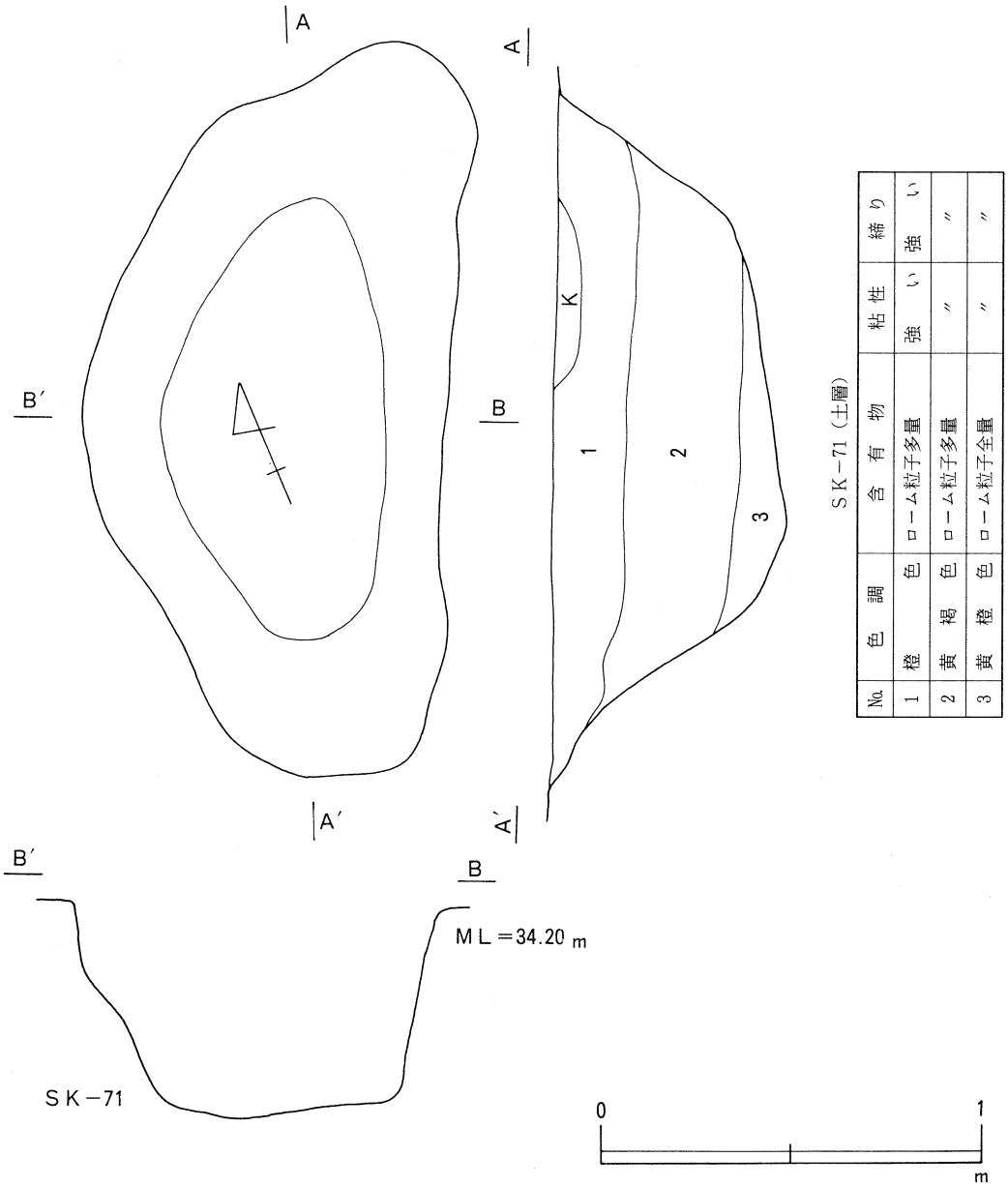
土層は2層で1層は橙色、ローム粒子多量、2層は、黄褐色でローム多量、3層は黄橙色でローム全量、粘性、締まりは強い。層序はほぼ水平で堆積し短時間に埋積したと理解される。

遺物は本遺跡の中では多量に出土した遺構にはいる。30図1．2．3で1は口縁部で器肉は薄く胎土は礫を含む、2．3は半裁竹管の平行沈線を持つもので胎土に繊維は含まない。遺物から本遺構は田戸上層式の範疇と推察できる。その他4の石器がある。

第72号土坑（第28図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し倒卵形状形態で東西80cm、南北66cmを計測する。底部はやや凹凸気味で深さは12cmほどを測る。掘込み形態はだれ気味で締まりはやや強い。

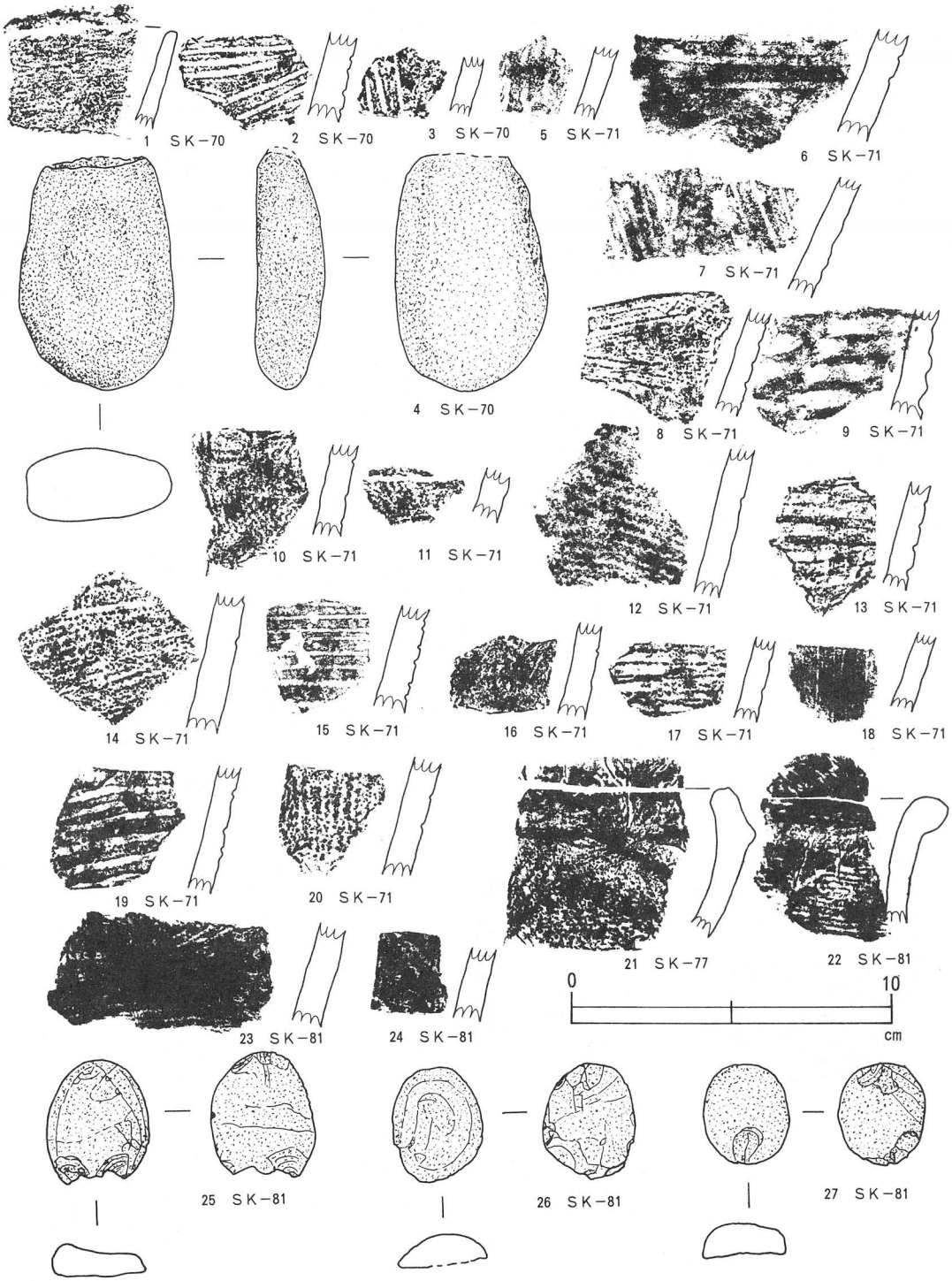
土層は、３層で黄橙色ローム粒多量、２層は橙色でローム多量、３層は黄褐色、ローム多量で



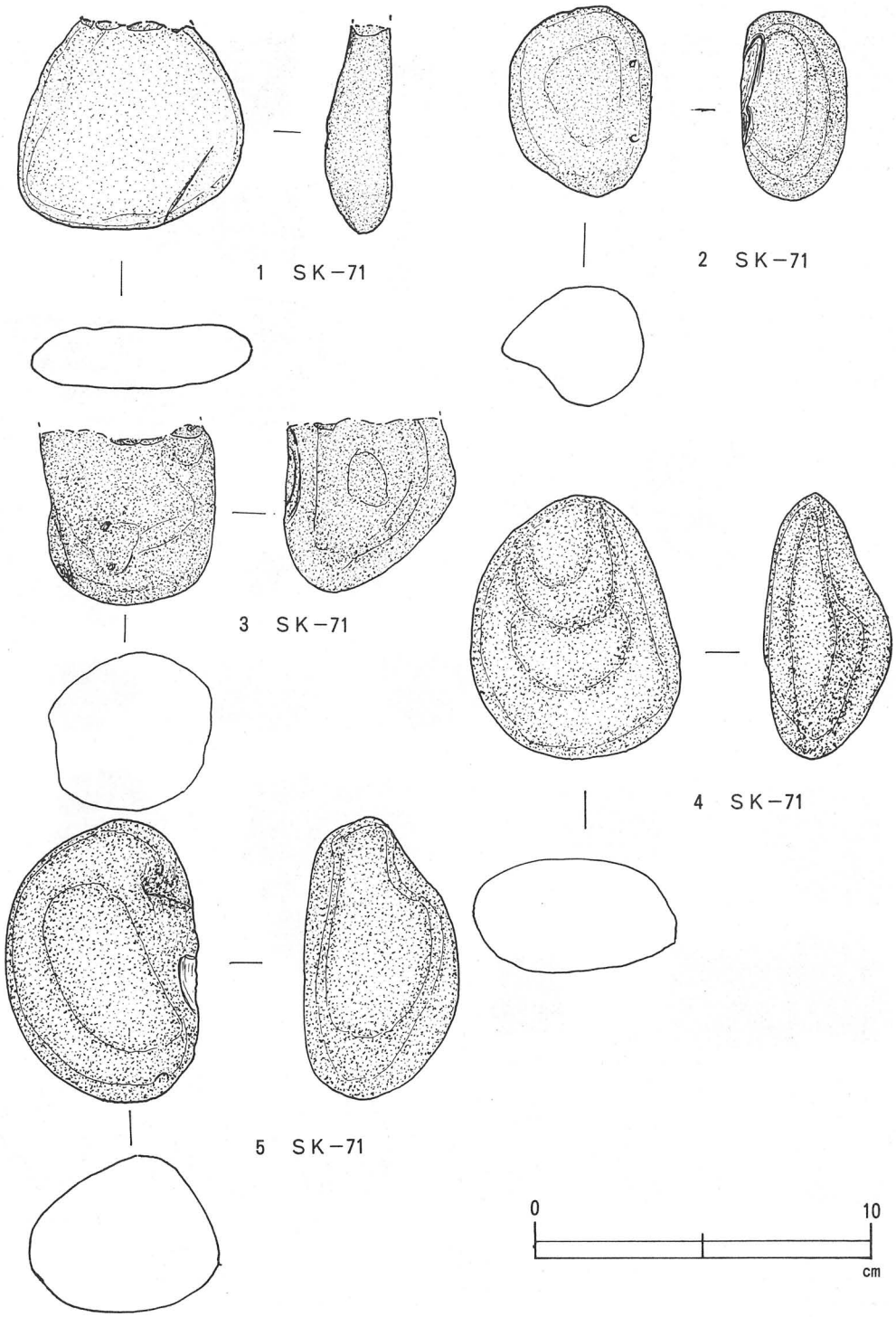
ＳＫ－71（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム粒子多量	強い	強い
2	黄褐色	ローム粒子多量	〃	〃
3	黄橙色	ローム粒子全量	〃	〃

第29図　ＳＫ－71号実測図



第30図　ＳＫ−70〜ＳＫ−81号出土遺物拓影・実測図



第31図　SK−71出土石器実測図

粘性、締まりは強い。壁面部から自然堆積の層序。

遺物は皆無で図示できるものは無く、覆土から本遺構の時期は縄文時代早期後半の遺構と推定される。

第73号土坑（第28図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置して検出された不整形状の遺構で南北69㎝、東西62㎝前後を測る。中央部がさも深く16㎝で円形状形態。掘り方は緩やかで底部はやや締まりを持つ。

土層は２層確認され１層は、橙色でロームを多量に含む。２層は黄褐色、ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。土層は人工的で埋めた層序、一部攪乱が見られる。

遺物は、川原石が１点見られたが加工した痕跡はなく焼けた面も認められず実際に使用したかどうか不明である。重さは13ｇ程の小型のものである。

以上の諸点から時期等は不明、覆土等からは縄文時代早期後半の遺構と推察される。

第74号土坑（第32図）

本遺構は、調査区の中央東側に位置して検出された円形状の遺構で南北87㎝、東西66㎝を測る。やや東側が深く43㎝で倒卵形状形態。掘り方は鋭角的で底部は締まりをもつ。相対的にはＵ字状形態の掘込み。

土層は２層確認され１層は橙褐色でロームを多量に含む。２層は黄橙色、ロームを多量に含み粘性、締まりは強い。土層は自然堆積レンズ状層序、一部木根の攪乱が見られる。

遺物は、川原石が１点見られたが加工した痕跡はなく焼けた面も認められず実際に使用したかどうか不明である。重さは13ｇ程の小型のものである。

以上の諸点から時期等は不明、覆土等からは縄文時代早期後半の遺構と推察される。

第75号土坑（第32図）

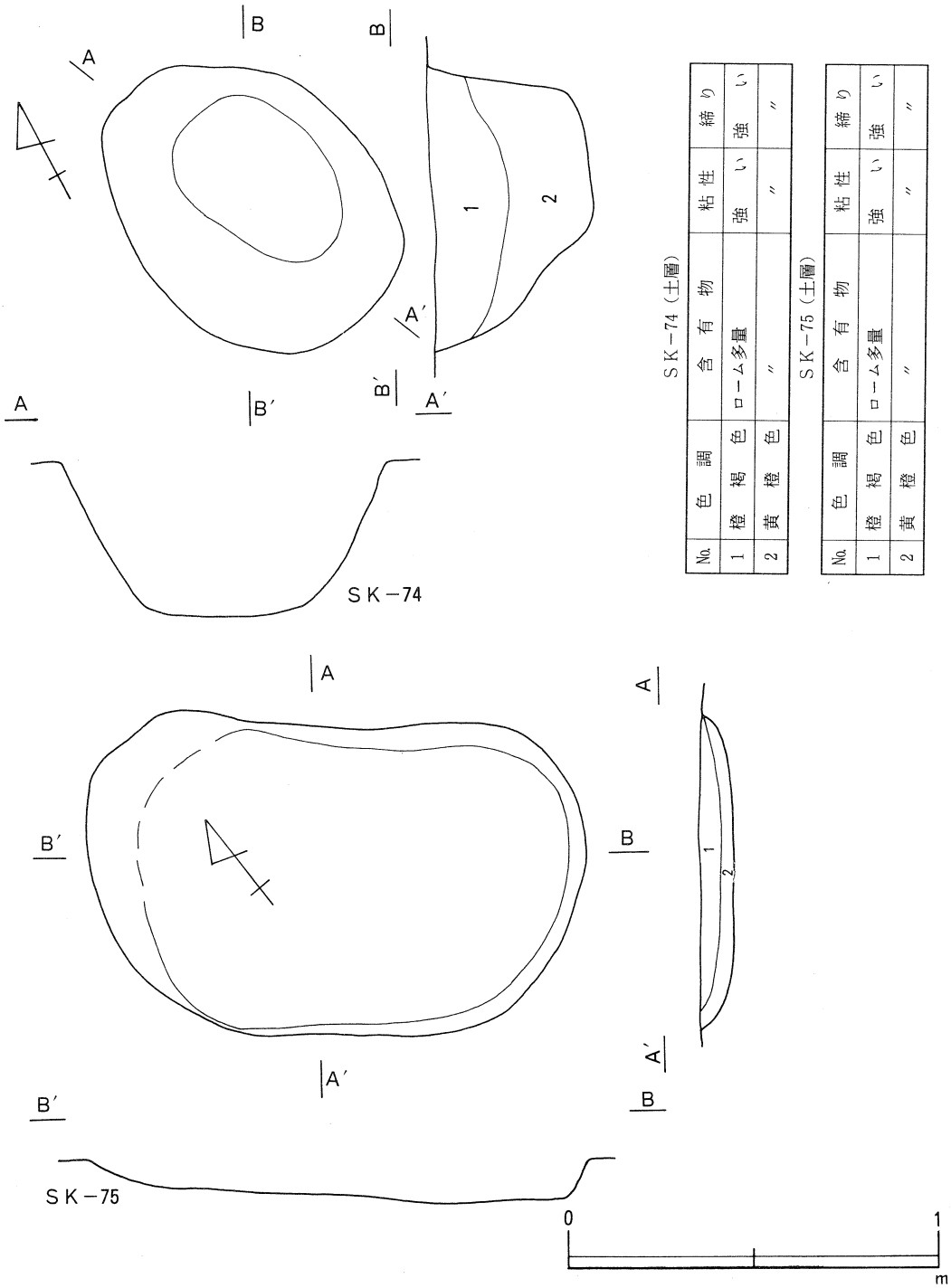
本遺構は、調査区の中央部西側に位置し検出され長方形状遺構で長軸1.35ｍほどで最大幅86㎝を測る。掘り込みは10㎝と浅く、底部はやや締まりを持つ、壁面はゆるやかな立ち上がりで底部は締まりをもつ。

土層は２層で１層は橙褐色、ローム粒子多量、２層は、黄橙色でローム多量、共に粘性締まりは強い。層序はほぼ水平に堆積し短時間に埋まったと理解される。

遺物は皆無で図示できる遺物は無い。従って本遺構の年代を決定するものは土層のみでこれらからは縄文時代が想定される。

第76号土坑（第33図）

本遺構は、調査区の中央部に位置し円形状形態で東西1.18ｍ、南北1.40ｍを計測する。掘り込み形態はＵ字状、底部は円形状で径20㎝ほどであり締まりは弱い。本遺跡の中では掘り方に特徴がある。壁面は緩やか傾斜を示す。



SK−74（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙褐色	ローム多量	強い	強い
2	黄橙色	〃	〃	〃

SK−75（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙褐色	ローム多量	強い	強い
2	黄橙色	〃	〃	〃

第32図　SK−74・75号実測図

土層は２層で橙色、ローム粒多量、焼土粒、炭化粒少量、２層は黄橙色でローム多量で粘性、締まりはややある。層序は自然堆積。牛蒡栽培のトレンチャーによる攪乱がある。

遺物は川原石が１点出土している。時期を特定する遺物は無い。土層からは縄文時代の早期田戸下層式前後のファイヤァーピットが推定される。

第77号土坑（第30図、第33図）

本遺構は、調査区の中央西側に位置して検出された円形状の遺構で南北80㎝、東西73㎝を測る。底部はほぼ平坦で深さは20㎝、やや締まりをもつ。掘り方は鋭角的である。

土層は２層確認され１層は橙色でロームを多量、炭化粒子を少量含む。２層は黄橙色でローム多量、粘性、締まりは強い。土層は自然堆積でレンズ状層序を示す。

遺物は川原石が１点見られたが加工した痕跡はなく焼けた面も認められず実際に使用したかどうか不明である。重さは13ｇ程の小型のものである。その他30図21の加曾利Ｅ式の口縁部が出土している。本遺物から遺構は縄文時代中期後半が私考される。

第78号土坑（第33図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置し検出され長方形状遺構で長軸80㎝、幅44㎝を測る。掘込みは24㎝とやや深く、底部はやや締まりを持ち平坦、壁面はゆるやかに立ち上がる。中央部がさも深い。

土層は２層で１層は橙褐色、ローム粒子多量、２層は、黄橙色でローム多量、共に粘性締まりは強い。層序はレンズ状、自然に堆積したと理解される。

遺物は皆無で図示出来る遺物は無い。従って本遺構の年代を決定するものは土層のみで覆土層序からは縄文時代が想定される。

第79号坑（第34図）

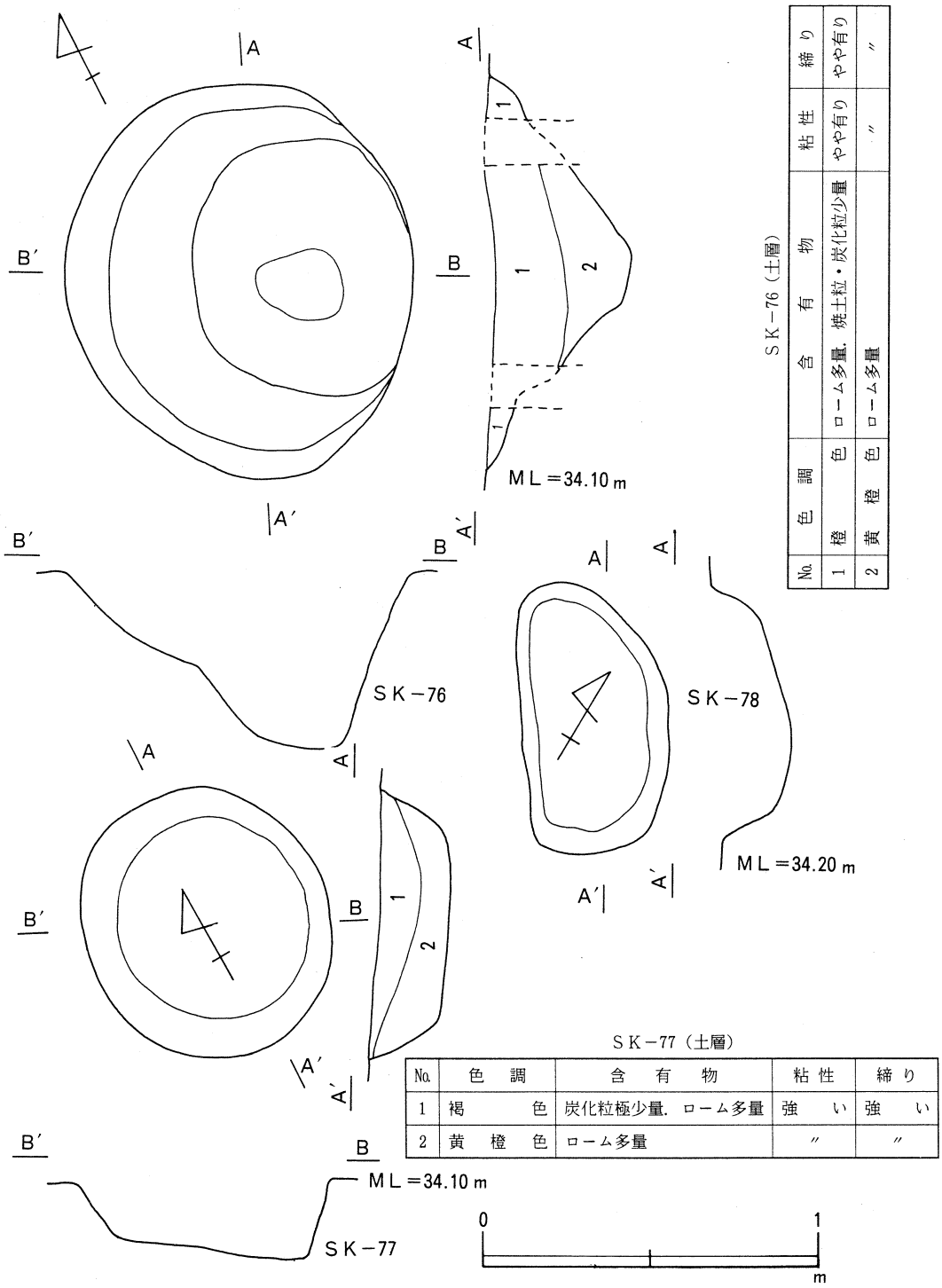
本遺構は、調査区の中央部に長方形状形態で長軸88㎝、南北44㎝で77号土坑の形態に相似する。掘込みはＵ字状、底部は長円形状で深さ20㎝を測る。締まりはある。壁面はやや鋭角的な面をもつ。

土層は２層確認され１層は橙色、ローム粒多量、２層は黄橙色でローム全量、粘性締まりはややある。層序はレンズ状の自然堆積をしめす。

遺物は川原石が１点出土している。時期を特定する遺物は無い。土層からは縄文時代の遺構と思われる。

第80号土坑（第34図）

本遺構は、調査区の中央西側に位置して検出された長円形状の遺構で南北40㎝、東西50㎝を測る。底部はやや凹凸をもち深さは８㎝前後と浅く、締まりは弱い。掘り方は変則的である。攪乱の跡？。粘性、締まりは強い。



SK－76（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	橙色	ローム多量，焼土粒・炭化粒少量	やや有り	やや有り
2	黄橙色	ローム多量	〃	〃

SK－77（土層）

No.	色調	含有物	粘性	締り
1	褐色	炭化粒極少量，ローム多量	強い	強い
2	黄橙色	ローム多量	〃	〃

第33図　SK－76・77・78号実測図

土層は１層で橙色、ロームを多量に含む。土層は自然堆積でレンズ状層序を示す。

遺物は、川原石が１点みられたが加工した痕跡はなく焼けた面も認められず実際に使用したかどうか不明である。

本遺構は時期を特定する遺物は無い。

第81号土坑（第34図、第30図）

本遺構は、調査区の中央北側に位置し検出され長円形状遺構で直径1.32m、短径1.11mを測る。掘込みは70cmと深く、底部はやや締まりを持ち北側に向かって高くなる。言わば２段の形態である。

土層は２層確認され１層は橙色、ローム粒多量、炭化粒子極少量、２層は、黄橙色でローム粒多量、締まりは強い。層序はレンズ状で自然堆積を示す。

遺物は30図22～27で本遺構ではかなり出土している。22は口縁部が丸みをもち外反、口唇部外側、上に縄文が施文されている。口縁部は細かな撚り糸が施文されている。早期前半の井草式の古い時期、23は平行沈線をもつ底部で器肉は厚い。24はアナダラ属の施文が見られる。その外25から27は川原石を加工した石器である。緑泥片岩である。いずれも小型で卵型形状。

第82号土坑（第34図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置し長円形形態で長軸1.5m、短軸80cmを計測する。掘込みはU字状、底部は三角形状で深さは45cmを測る。締まりはややある。壁面はやや鋭角的な掘り方。

土層は２層確認され１層は橙色、ローム粒多量、２層は黄橙色でローム全量、粘性締まりはややある。層序はレンズ状の自然堆積を示す。

遺物は川原石が３点出土している。時期を特定する遺物は無い。土層からは縄文時代の遺構と思われる。

第83号土坑（第35図、第36図）

本遺構は、調査区の中央西側に位置して検出された長円形状の遺構で南北57cm、東西48cmを測る。底部は長円形状で深さは23cmとやや深く、締まりはややある。掘り方はU字状形態。

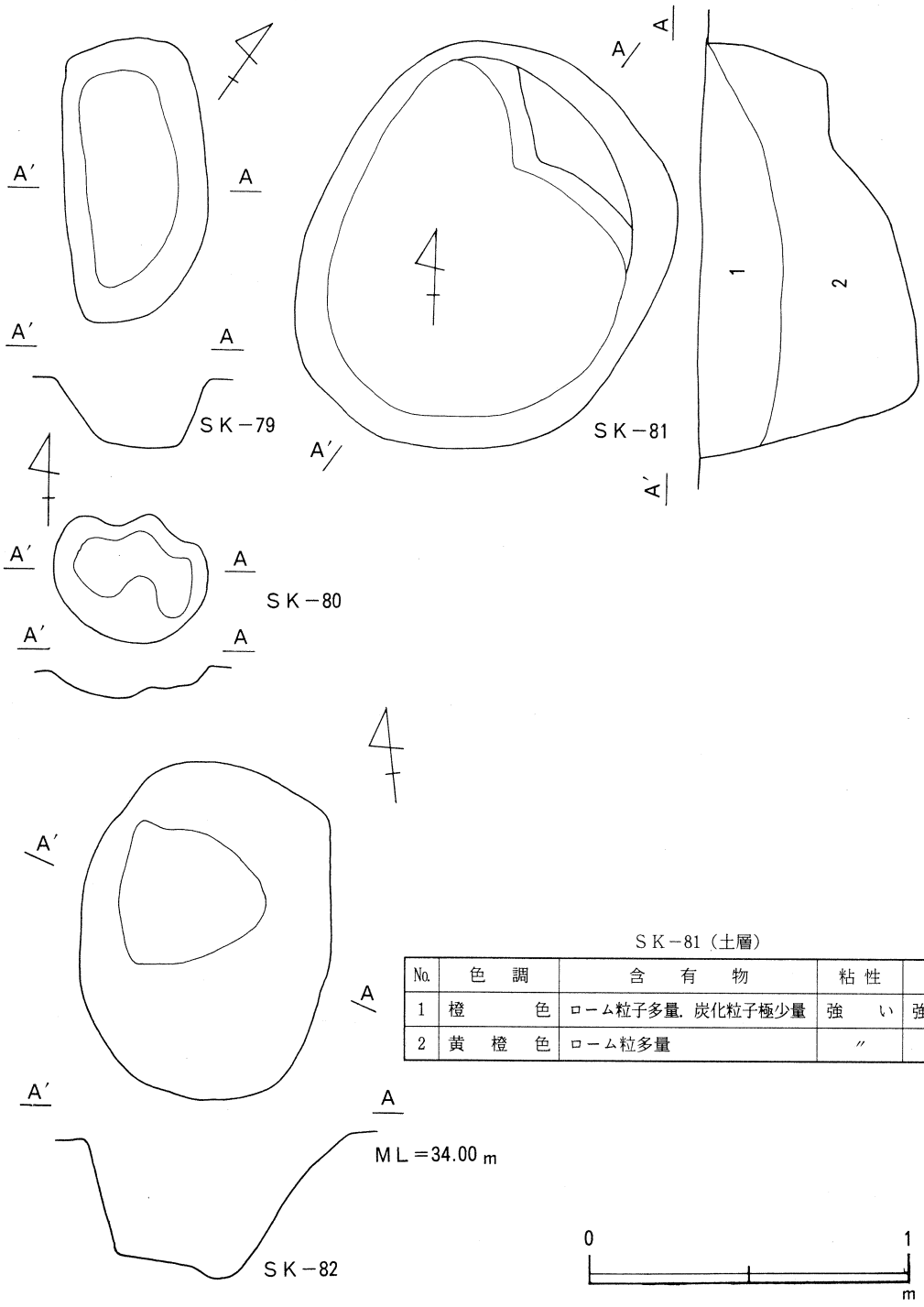
土層は２層に分けられ、１層は橙色、２層は黄橙色でロームを多量に含む。自然堆積でレンズ状の層序を示す。

遺物は、36図１があり摩耗が激しく沈線か撚糸文か判別しがたいが間隔から平行沈線と推定される。深鉢の尖底部近くと推定される。器肉は厚く繊維は含まない。

本遺構は前述の遺物から早期の田戸下層式の遺構である。

第83号土坑（第35図、第36図）

本遺構は、調査区の中央部北側に位置し検出され長円形状遺構で長径1.21m、短径81cmを測る。



SK－81（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	橙　色	ローム粒子多量，炭化粒子極少量	強　い	強　い
2	黄　橙　色	ローム粒多量	〃	〃

第34図　SK－79・80・81号実測図

掘込みは30cmとやや深く、底部はやや締まりを持ち東側に１段低く２段になる。掘込みはやや鋭角的である。

土層は２層確認され１層は橙色、ローム粒子多量、２層は、黄橙色でローム粒多量、締まりはややある。層序はレンズ状で自然堆積と理解される。

遺物は皆無で図示できるものは無い。時期は土層の層序から早期の田戸下層式前後か？。

第84号土坑（第35図、第36図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置し長円形形態で長径1.92m、短径1.20mを計測する。掘込みはU字状、底部は上端と同様な形状で深さは20cmを測る。締まりは強い。壁面はやや鋭角的な掘り方をもつ。

土層は２層確認され１層は橙色、ローム粒多量、焼土粒子極少量、２層は黄橙色でローム多量で粘性、締まりは強い。層序はレンズ状の自然堆積を示す。

遺物は、36図２～14でかなり多量に出土し、２、３とも棒状工具、半裁竹管の平行沈線をもつ、３はアナダラ属背面による貝殻の平行沈線、いずれも器肉は厚い。５は竹管による平行沈線で器肉は薄い、６は格子状の浅い平行沈線で器肉は厚い、これらは早期の三戸式に比定される。７、８、９は胎土に繊維を含み節の粗い縄文が施文されている。10は加曾利E式の新しい時期の底部付近、深鉢の一部。11、12、13は縄文後期加曾利B式の浅鉢、磨消部に平行沈線が見られる。13は底部。14は粗製の石器。これらの遺物からは早期から後期まで見られ時期は特定できない。後期加曾利B式までの遺構と推定される。15も粗製の石器である。

第85号土坑（第35図、第36図）

本遺構は、調査区の中央南側に位置して検出された円形状の遺構で南北80cm、東西82cmを測る。底部は長円形状で深さは34cmとやや深く、締まりはややある。掘り方はU字状形態。壁面はやや鋭角的で締まりはある。

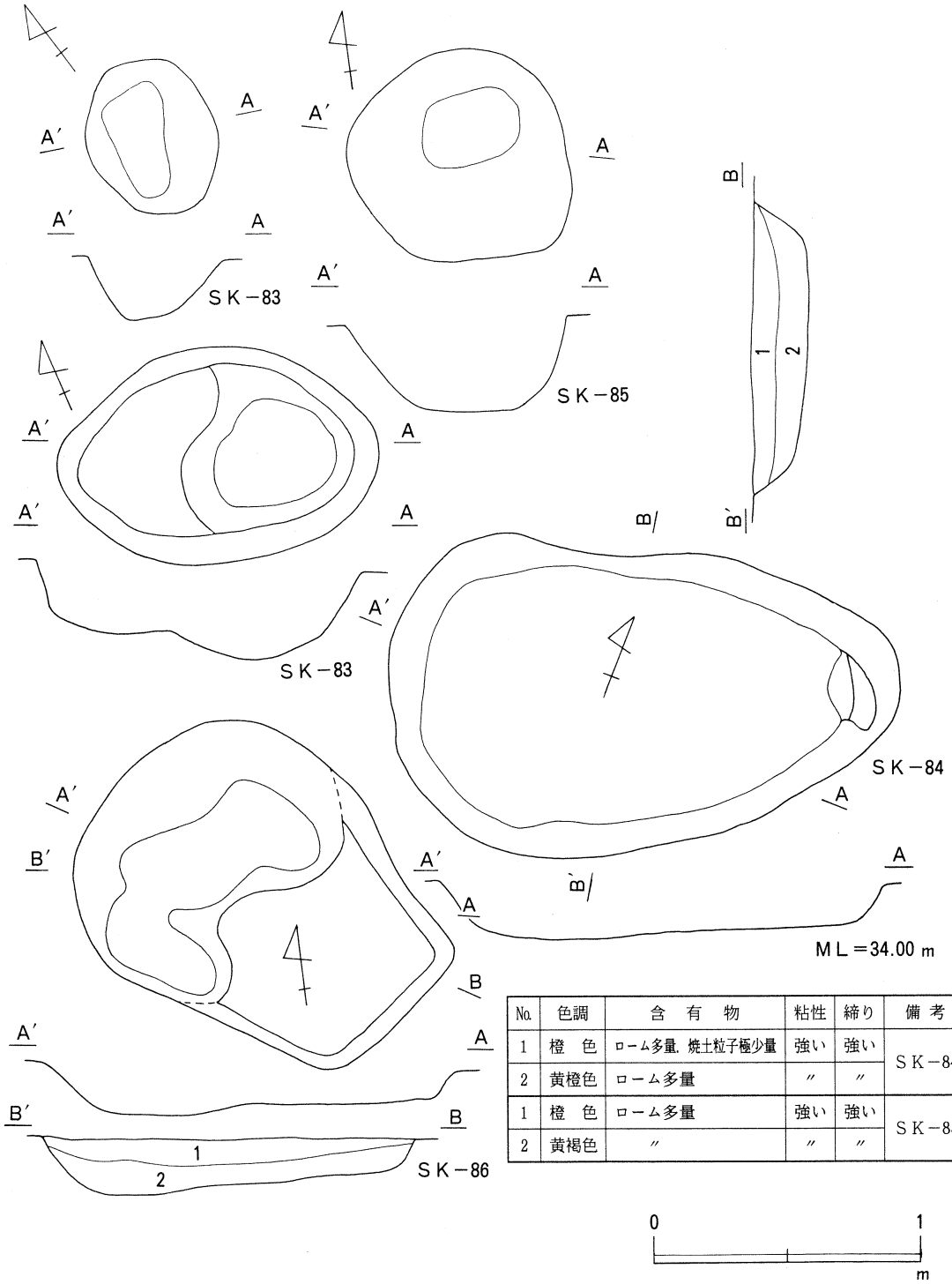
土層は２層に分けられ、１層は橙色、２層は黄橙色でロームを多量に含む。自然堆積でレンズ状の層序を示す。図示はしなかった。

遺物は、36図16、17、18が出土し16は沈線が施文され器肉は厚い。17はアナダラ属の背面による平行沈線を施文、器肉は厚い。18は粗製で赤褐色いずれも胎土に繊維を含む。本遺構は前述の遺物から早期の田戸上層式の範疇の遺構である。

第86号土坑（第35図）

本遺構は、調査区の中央部北側に位置し検出され長方形状遺構で長軸1.41m、短軸1.03mを測る。掘込みは20cmとやや深く、底部はやや締まりを持ち東側にやや低い部分が存在する。掘込みはやや鋭角的である。

土層は２層確認され１層は橙色、ローム多量、２層は、黄橙色でローム多量、粘性、締まりは



No.	色調	含有物	粘性	締り	備考
1	橙色	ローム多量，焼土粒子極少量	強い	強い	SK－84
2	黄橙色	ローム多量	〃	〃	
1	橙色	ローム多量	強い	強い	SK－85
2	黄褐色	〃	〃	〃	

第35図　SK－83・83′・84・85・86号実測図

強い。層序はレンズ状で自然堆積と理解される。

遺物は皆無で図示出来るものは無い。時期は土層、色調、層序から早期の田戸下層式前後が推定される。

第87号土坑（第37図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置して検出、円形状で南北57cm、東西54cmを計測する。掘り込みはU字状、底部は上端と同様な形状で深さは15cmを測る。締まりは強い。壁面はやや鋭角的な掘り方をもつ。

土層は２層確認され１層は橙色、ローム多量、２層は黄橙色でローム多量で粘性、締まりは強い。図示しないが層序はレンズ状の自然堆積を示す。

遺物は、図示出来るものはない。したがって時期を特定するものはない。色調、層序などから田戸下層式前後の遺構であろう。

第88号土坑（第37図）

本遺構は、調査区の中央西側に位置して検出された円形状の遺構で南北83cm、東西86cmを測る。底部も円形状で深さは39cmと深く、締まりはややある。掘り方は芋穴的形態。ほぼ円形である。

土層は３層に分けられ、１層は橙色、２層は黄橙色、３層も黄褐色でロームを多量に含む、土層はレンズ状の自然堆積を示す層序。

遺物は、皆無で図示出来るものはない。したがって時期を決定する遺物はない。

時期は土層色調、覆土等から早期田戸下層式前後の時期か？

第91号土坑（第37図、第36図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置し検出され長円形状遺構で長径1ｍ、短径78cmを測る。掘込みは二段になり中央に円形の掘込みがある。42cmと深い。底部は締まりは弱い。掘込みはやや鋭角的である。

土層は３層確認され１層は橙色、ローム多量、２層は、黄橙色でローム多量、３層は黄褐色、ローム多量、粘性、締まりは強い。土層層序はレンズ状で自然堆積と理解される。

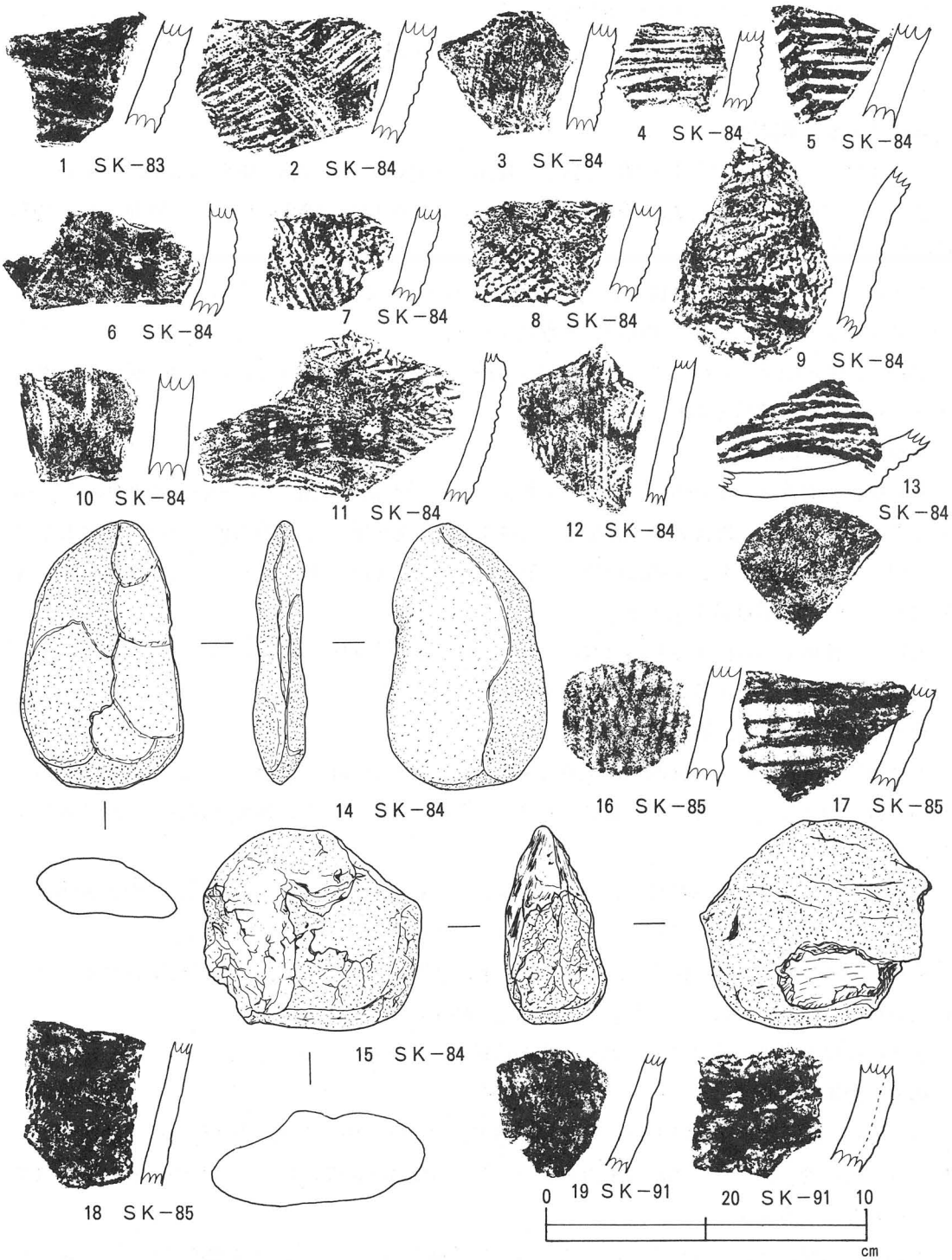
遺物は36図19、20で19は表裏に条痕をもち胎土に繊維を含む。所謂芽山式に比定される。20は植物繊維状の紐を転がして撚糸状に見せている。胎土に繊維を含む。

前述の遺物から本遺構は縄文前期芽山式の遺構として捉えられる。

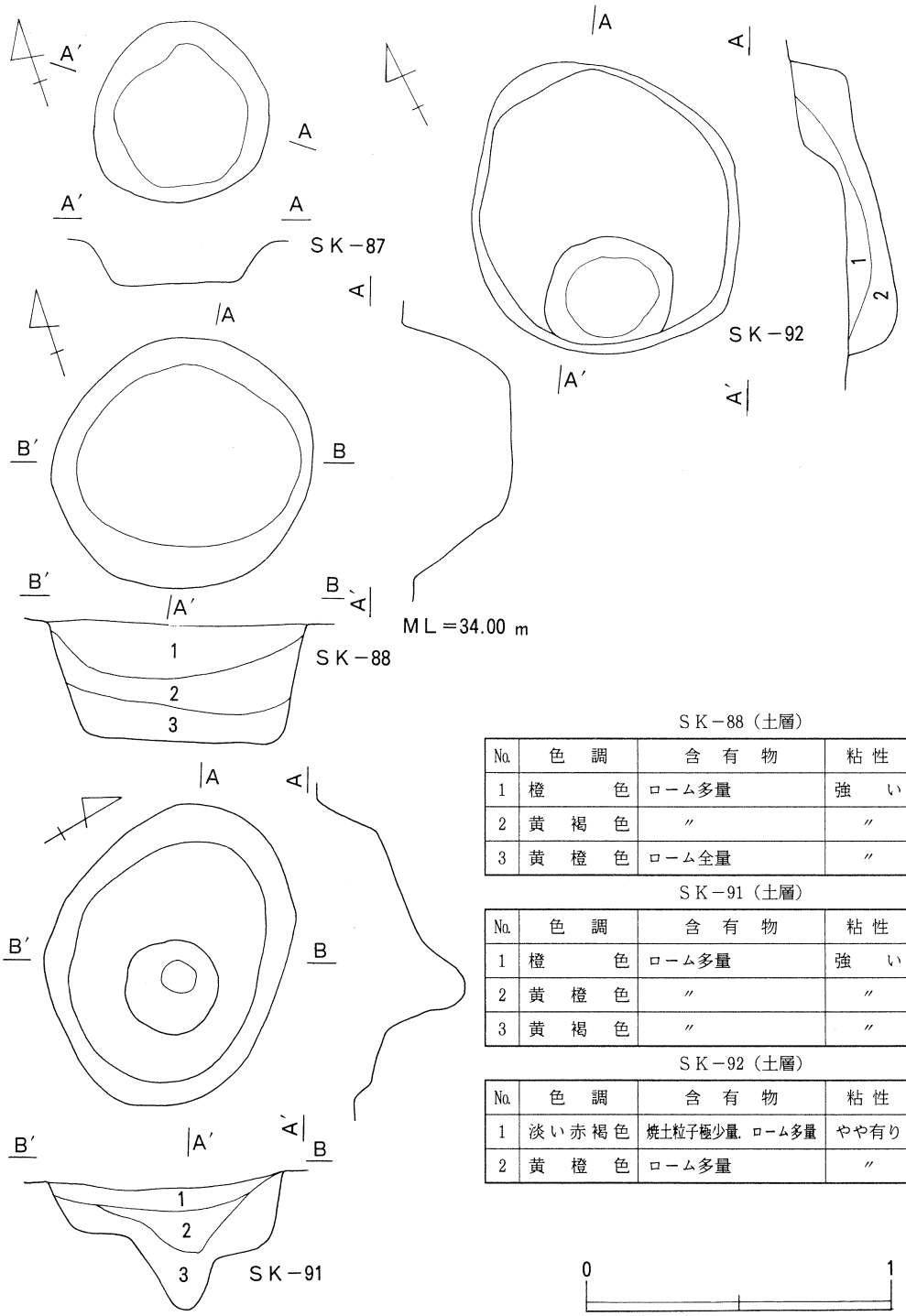
第92号土坑（第37図）

本遺構は、調査区の中央部西側に位置して検出、円形状で南北１ｍ、東西88cmの円形状形態。掘込みは鋭角的、底部は南側が若干落ち込む。深さは25cmを測る。締まりはややある。壁面はやや鋭角的な掘り方をもつ。

土層は２層確認され１層は淡い赤褐色で焼土粒子極少量含む。２層は黄橙色でローム多量で粘性、締まりは強い。土層層序はレンズ状の自然堆積を示す。



第36図　ＳＫ−83〜ＳＫ−91号出土遺物拓影・実測図



SK－88（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	橙　　色	ローム多量	強　い	強　い
2	黄　褐　色	〃	〃	〃
3	黄　橙　色	ローム全量	〃	〃

SK－91（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	橙　　色	ローム多量	強　い	強　い
2	黄　橙　色	〃	〃	〃
3	黄　褐　色	〃	〃	〃

SK－92（土層）

No.	色　調	含　有　物	粘 性	締 り
1	淡い赤褐色	焼土粒子極少量，ローム多量	やや有り	やや有り
2	黄　橙　色	ローム多量	〃	〃

第37図　SK－87・88・91・92号実測図

遺物は、図示出来るものはない。したがって時期を特定するものはない。色調、層序などから田戸下層式前後のファイヤーピットの可能性が強い。

本遺跡では4ヶ所、4基の遺構認められている。

4　その他の遺物（第38、39、40、41図）

本遺跡確認調査のトレンチ、遺構確認の表土除去時の遺構確認作業等に於いてかなりの遺物が出土した。以下本遺跡出土の遺物を時期別に図示し説明をくわえたい。よって本遺物は直接遺構とは関係ないことを断っておきたい。

第38図は縄文時代早期の井草式からで井草遺跡出土の土器と相似している。口唇部が肥厚し外に開きながら屈曲している。口縁部のみで器形の全容は不明であるがやや太めの撚糸を口唇部、口唇部下に施文している。3、4は三戸式の可能性がある尖底土器である。5、6は底部、9～11は口縁部で12から22、24は田戸下層式に比定される遺物で23は口縁部で細い沈線が施文され口唇部にも見られる。7、8はアナダラ属の貝刃部分の施文が見られる。12からは腹部に撚る太い沈線が見られる。22は外側からの穿孔が認められる。25、26も田戸下層式の範疇か細い平行沈線が施文されている。13、19、21、22、23は三戸式か

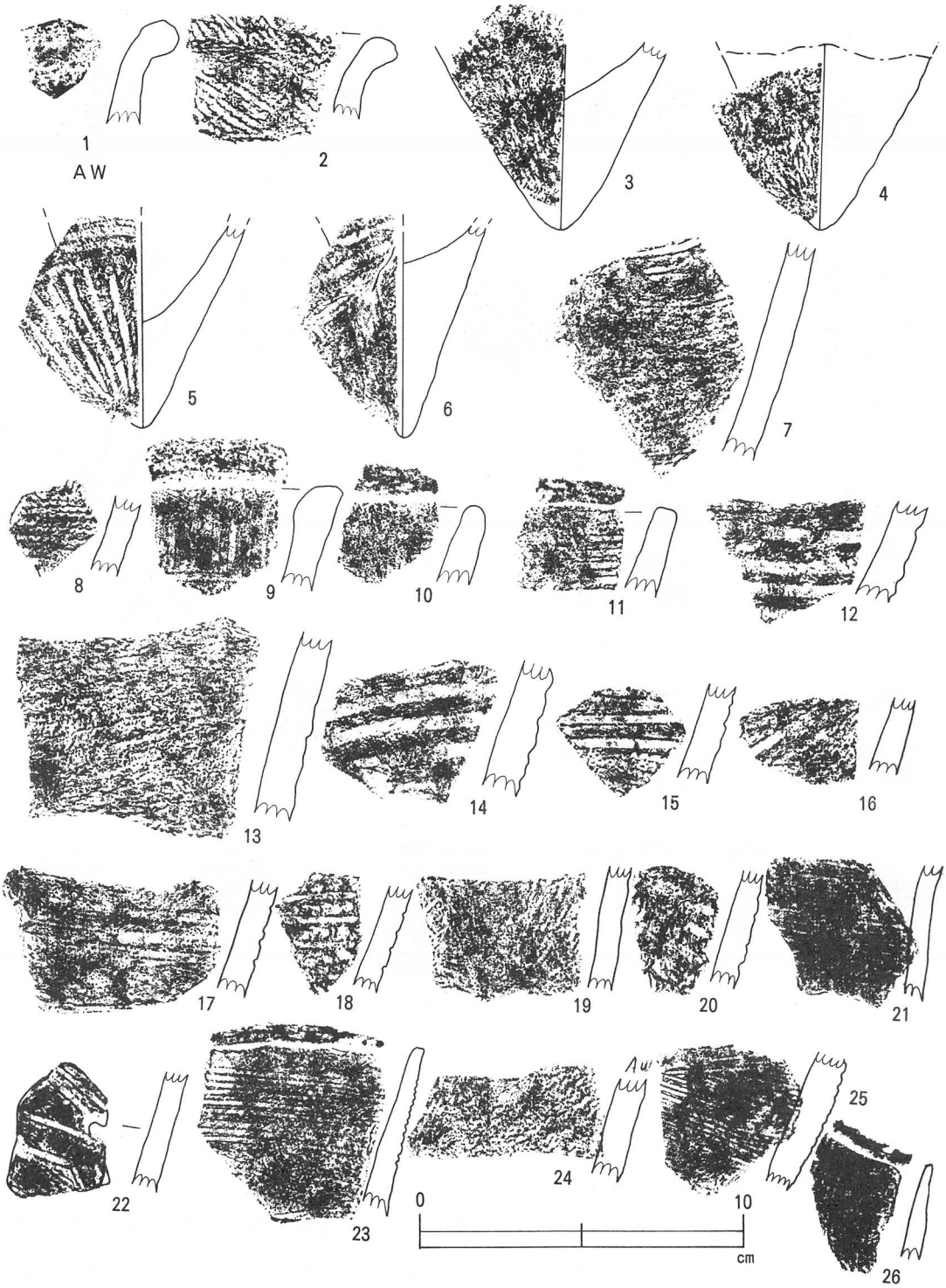
38図24は無紋で繊維を含む。25から29は芽山式に比定されるもので表裏に条痕が認められる。いずれも胎土に繊維を含む。31は関山式に比定される遺物で疣状突起が見られ隆帯部に半裁竹管による爪形紋がみられる。32は平行沈線をもつ土器で多量の繊維を含み胎土からは前期前半の土器であるが平行沈線の文様からは前期後半の浮島式土器が推定される。33からは関山式の粗製土器で地紋として縄文が施されている。胎土に多量の繊維を含む。39は黒浜式深鉢の胴部と考えられ胎土に多量の繊維を含む。1点のみ。40は後期後半の磨消された浅鉢の加曾利B式の精製土器で41は堀ノ内式の口縁部で2段になる。器表面は摩耗が激しく無紋。42は、加曾利B式の精製土器で磨消、沈線間に縄文を充鎮している。内側は、やや太めの沈線が施文されている。

以上が本遺跡の遺構を伴わない遺物、縄文土器の概要である。

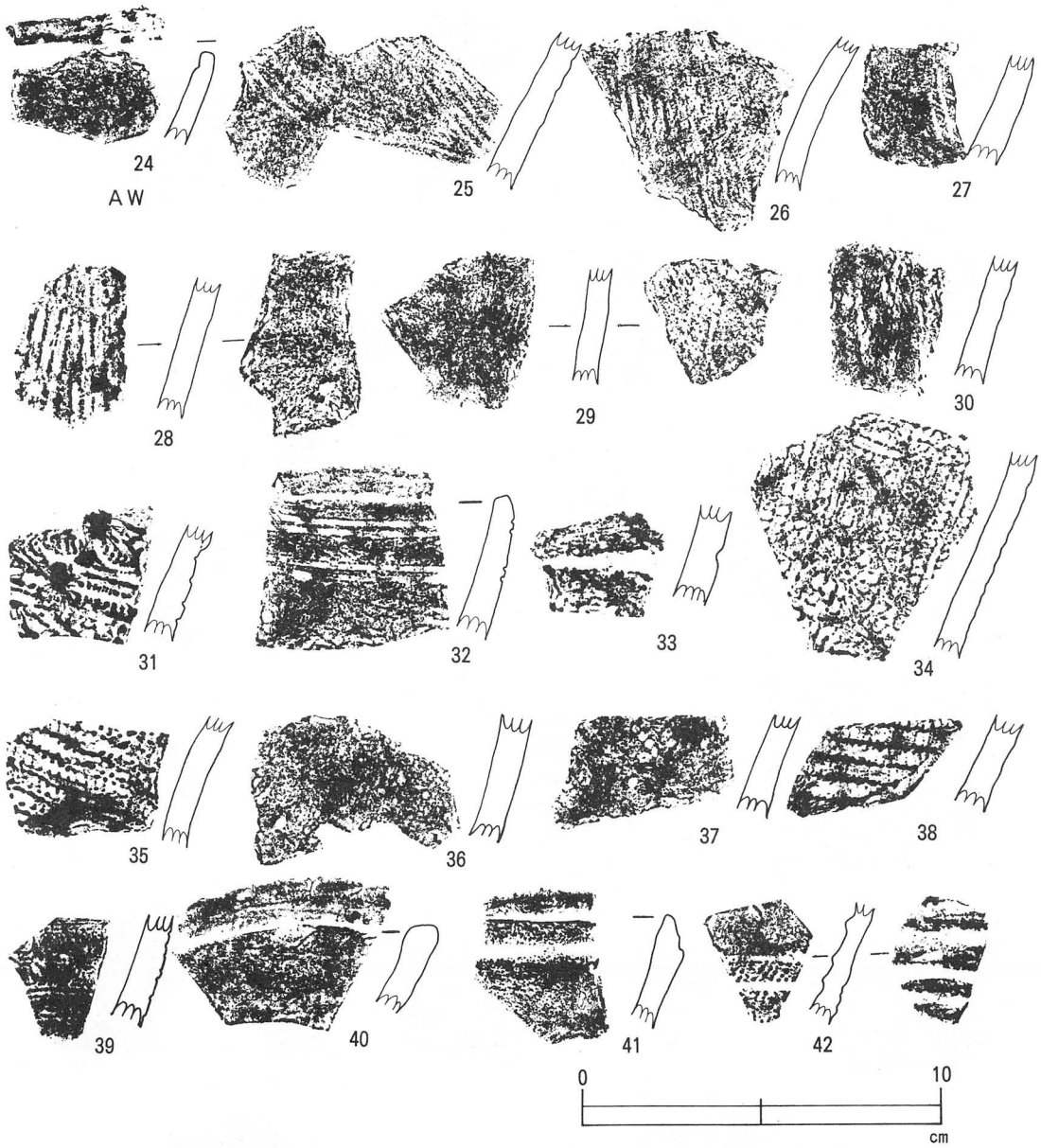
遺物は前述のとおり量は別として縄文早期から後期迄確認されている。

そのほか本遺構からは相当数53個の川原石が出土しこれらはすべて250ｇ以下で99％は加工、焼けた痕跡は存在せずわずかに数点小面積が火うけた痕跡をもつ。

石器としたものはすべて僅かでも加工、使用、摩耗痕持つものを図示した。以下本遺跡から遺構を伴なわ無いで採集された石器について述べる。第40図、41図で11点がある。1は片面をかなり丁重に剥離し薄い半磨製状の打製製品である。重さ20ｇ。2は円形状で上下に若干の使用痕、摩耗が見られるほかはすべて自然状。重さ30ｇ。3は上下に使用痕が見られ片面に剥離が存在、片面は自然状。重さ20ｇ。4はほぼ長円形の川原石状で僅かに上下に摩耗痕が見られる。重さ40ｇ。5は上部半分を欠失した石器で刃部のみである。重さ90ｇ。6は上部一部欠失、長円形状でわずかに使用痕をみとめる。重さ180ｇ。7は扁平な形態で刃部に僅かに摩耗痕が見られる。重

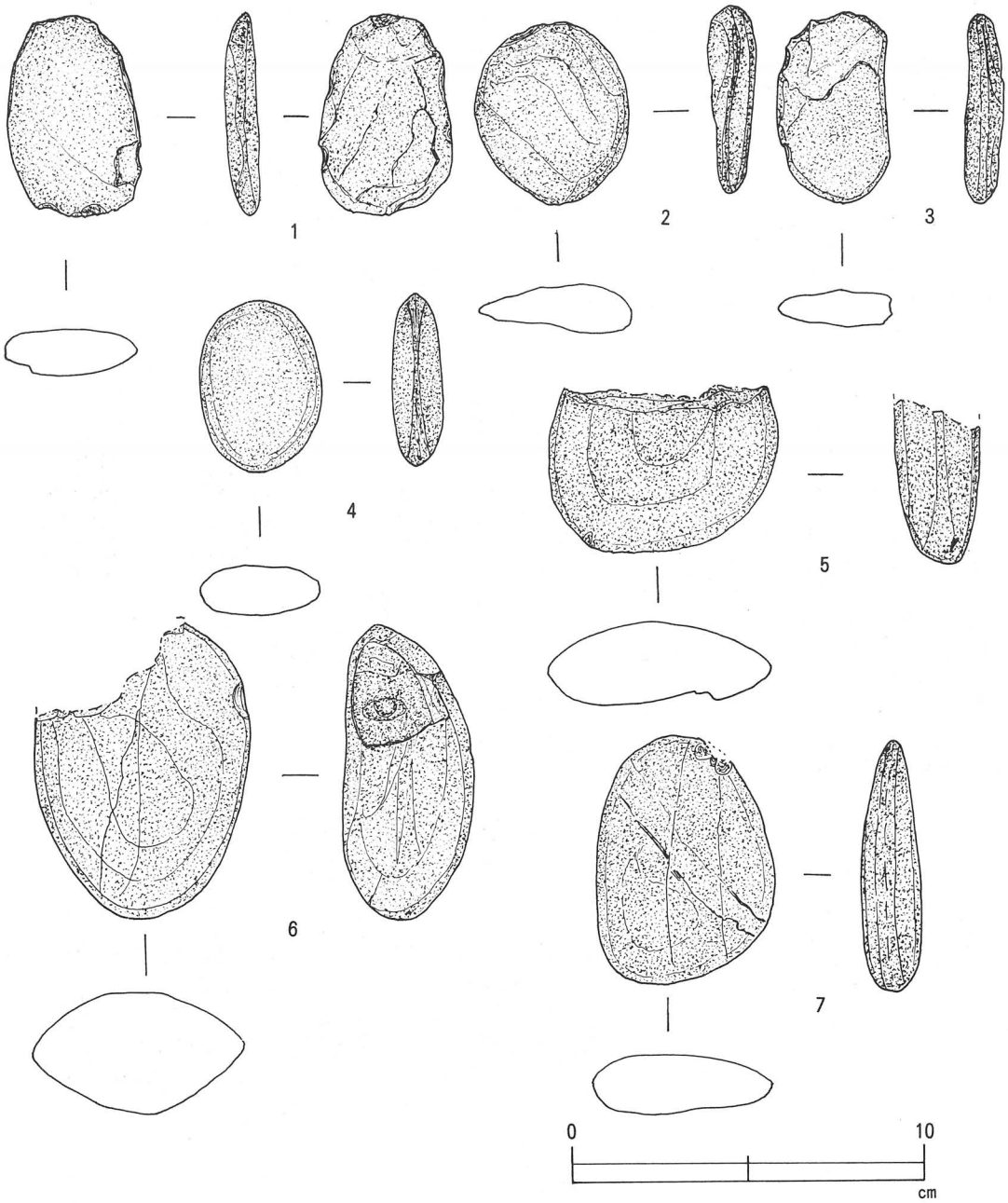


第38図　表採遺物拓影図

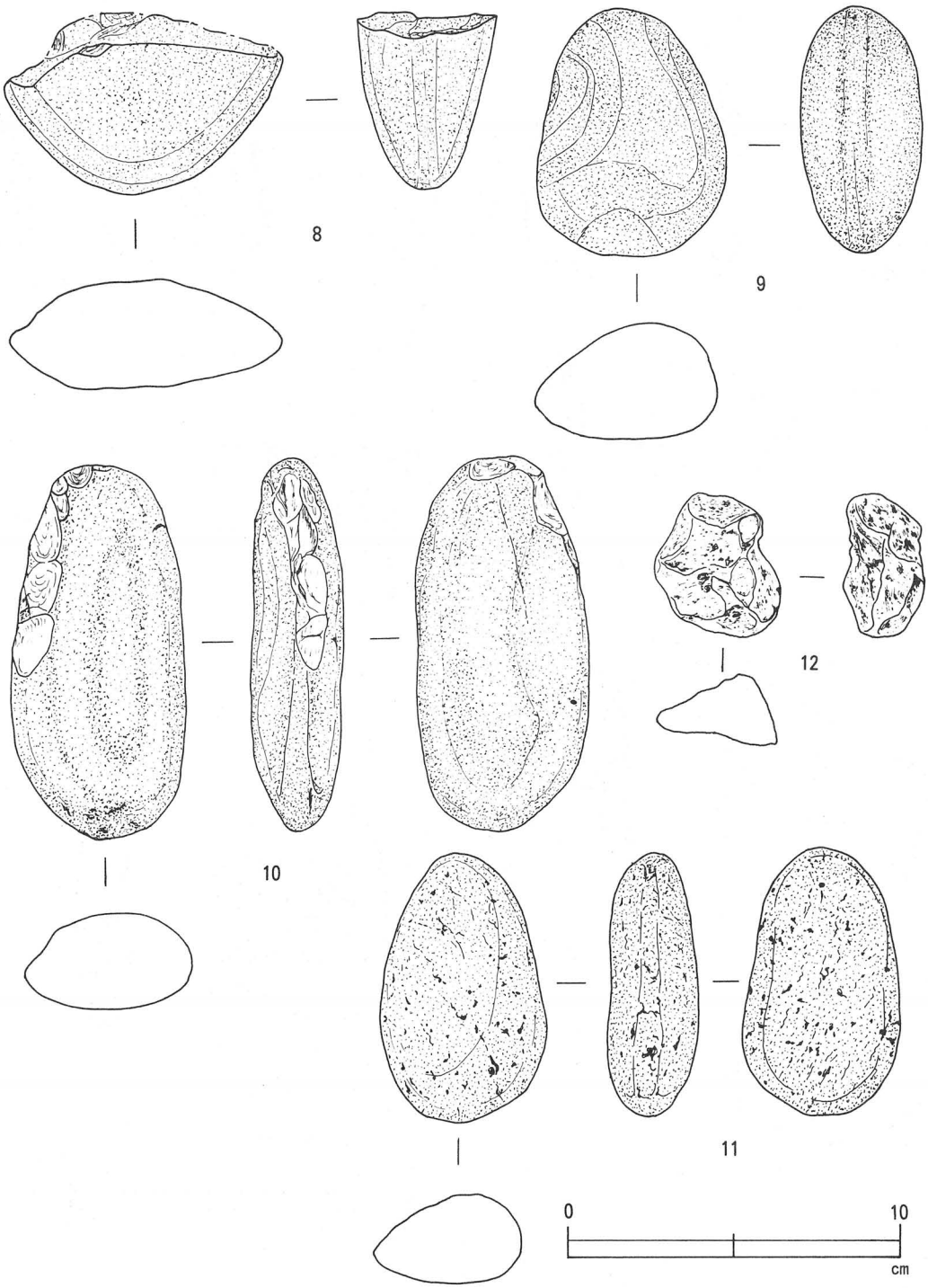


第39図　表採遺物拓影図

さ80ｇ。８は大半を欠失、重さ180ｇを計る。９は倒卵状の石器で加工痕はない。下部にわずかに使用磨耗痕が見られる。重さ190ｇ。10は長方形で片面に剥離痕を持つ石器らしい遺物、重さ190ｇ。11も同様で10を一回り小さくした形態、重さ150ｇ。12は軽石でかなり使用されている。重さは３ｇ。以上が本遺跡の石器である。



第40図　表採遺物実測図



第41図　表採遺跡出土遺物実測図

挿図	番号	写真番号	器種	縦(cm)	横(cm)	厚(cm)	重(g)	出土位置	石質	備考
4	26	PL－19	摩石	5.7	3.8	3.0	60	FP・X	安山岩	裏表凹あり、先端摩耗痕あり
33	7	〃	剥片	1.8	1.2	0.3	1	Y	メノウ	うすい
32	12	〃	打製石斧	5.5	3.5	1.5	3.5	X	安山岩	先端部に摩耗痕あり、川原石状
33	21	〃	打製石斧	6.4	3.6	1.2	3.2	X	安山岩	
33	22	〃	打製石斧	5.7	4.7	2.4	9.8	Y	流紋岩	使用痕は少ない
35	6	〃	粗製・打製	7.3	4.9	2.3	100	Y	砂岩	上端・左端を一部欠失しているが小型の粗製石斧である。刃部はハマグリ刃状。
39	25	〃	石片(石器?)	3.6	3.2	1.0	12	X	安山岩	三個で一個。
39	26	〃	〃	3.5	2.8	1.0	10	X	安山岩	
39	27	〃	〃	3.2	2.7	1.0	10	X	安山岩	
41	1	〃	粗製・打製石斧	6.2	6.7	1.8	115	X	砂岩	上部欠失。
41	2	〃		5.7	4.3	3.6	100	X	安山岩	ほぼ自然石・卵型。使用痕はわずか。
41	3	〃	打製石斧	5	5.2	4.7	172	X	安山岩	上部欠失、先端摩耗部あり。
41	4	〃	粗製・打製石斧	8.4	6.4	3.5	215		安山岩	ほぼ河原石で自然石に近く使用痕がわずかにあり。
41	5	〃	粗製・打製石斧	8.4	5.8	4.8	300	X	安山岩	わずかに使用痕あり、形熊は卵型。
42	14	〃	粗製・打製石斧	8.3	5.1	1.7	80	X	安山岩	片面加工・片面は自然石
42	15	〃	粗製・打製石斧か？	6.3	6.9	2.8	150	X	安山岩	使用中欠失か？ややもろい。
43	1	PL－20	〃	5.7	3.8	1.4	29	X	砂岩	片面加工。剥落し刃をつける。
43	2	〃	〃	5.2	4.4	1.4	37	X		河原石状。若干使用痕あり。
44	3	〃	〃	5.4	3.2	1.0	22		安山岩	上下に使用痕あり。
44	4	〃	〃	4.9	3.5	1.4	35	X		小判型。わずかに上下に使用痕あり。

挿図	番号	写真番号	器　種	縦 (cm)	横 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	出土位置	石　質	備　　考
44	5	ＰＬ－20		4.6	6.5	2.4	81	X		上部欠失。刃部は摩耗欠失あり。
44	6	〃	打製石斧	8.3	6.0	3.5	182	X	砂　岩	河原石状。1／5 欠失、使用痕若干残る。
	7	〃	〃	7.2	5.1	1.7	79			河原石状。一部欠失、わずかに使用痕あり。
44	8	〃	〃	5.4	8.1	3.2	180	X	安山岩	大半を欠失。本遺跡では大型の部類に入る。かなり使用痕している。
44	9	〃	〃	7.4	5.7	3.5	198		安山岩	
44	10	〃	〃	11.1	5.3	2.9	239	X	安山岩	河原石をやや加工された半摩製石斧。使用痕がよく残っている。
44	11	〃	〃	7.9	5.0	2.7	149	X	安山岩	ほぼ河原石状。両端に使用痕あり。
44	12	〃	軽　石	4.3	2.5	2.1			軽　石	円形状に加工あり。

V 総　　括

本遺構は、西浦から入り込むやや大きめな解析谷の最奥部に位置し谷津に突き出すように伸びる半島状台地の中程に占地している。以前は遺跡として登録されていなかったが平成７年の町教育委員会の遺跡分布調査で遺物の散布が認められ、遺跡として認定された。したがってこれまで遺跡として認められなかったとおり遺物の散布は極めて薄く踏査では遺跡の年代、時期について特定できなかった。よって遺跡全体に10m方眼でトレンチを設定し遺構、遺物時期の数、遺構の種別の確認をおこなった。この確認調査で遺構の数量、時期、種別、予算、日程が確定した。以下これらの前段階を踏まえて調査に入った。

遺構は全て土坑であり92基が確認された。しかし一部に倒木の痕跡、開墾の根掘りの痕と思われるものも存在した。ファイヤーピットと推定される遺構も４基程見られた。

以下これらについて遺跡の全体像に迫ってみたい。

遺構は、ほぼ円形状で径１ｍ以下が多数を占め１ｍ以上は全体の１割前後であった。覆土はほぼ２～４層で橙色が基本層で、堆積も自然のものが多く１層のみの遺構も見られた。深さは確認面から10～20cmが大半を占め30cm以上の遺構は１割前後である。層序からは縄文時代早期の遺跡として断定されるものである。

遺物は、全て縄文時代のもので早期前半の井草式の古手の口縁部が３点程出土している。これらから本遺跡の上限はこの時期に始まると推定される。さも多い遺物は川原石で総数150個程みられた。いずれも河川下流の角の取れた円形状、長円形形態のものが多数を占め焼けの認められる石は１割以下の10個程である。石器はこれら川原石に若干の加工を加えた粗雑、粗製の打製石斧が大部分であり２点程やや丁重な加工、剥離が認められるものもみられた。これらは若干時代が下がると推定される。

土器は前述の井草１式からはじまる。特徴である口唇部肥厚し外反、撚糸紋を施す。数量的には少なく口唇部３片である。さも新しいものは加曾利Ｂ式の精製土器が２片程みられたが本遺物は遺構とは直接関係ないと考えられる。さも多数を占めた遺物は田戸下層式で約２割を占める。アナダラ属の背面を利用した平行沈線が多数を占める。尖底部では田戸下層式の土器は３片程である。三戸式と推定される胴部、尖底部が見られ約３割程を占める。やや浅い格子、平行沈線が施されている。尖底部はやや丸みをもつ。田戸上層式も２割前後占める。その後は芽山式に移行しこの間若干の間が見られる。表裏条痕、胎土に多量の繊維を含む本類は２割程を占める。その他前期関山式、浮島式、後期堀ノ内式、加曾利Ｂ式等が僅かながら出土している。

以上の遺物、遺構から本遺跡は縄文時代早期後半に土坑を主体とした遺跡が営まれ、やや時間を於いて前期前半の遺跡が存在したと推定されいずれも住居跡を持たないキャンプ的性格の遺跡

である。

また本地域では早期のみの遺跡は本例以外あまりその存在が知られていない為、比較検討を加えるべき資料が無い。今後の調査の増加を待って検討を加えるべきと考える。

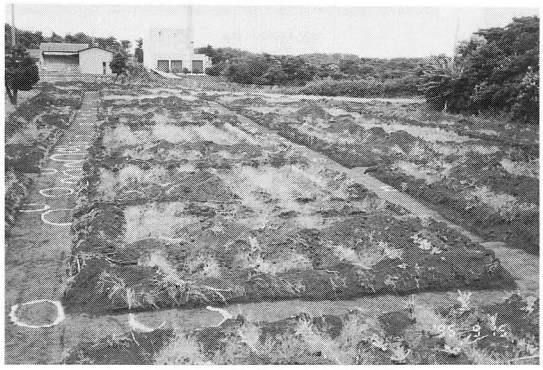
本地域で井草式土器を出土している遺跡は鹿嶋市以外筆者は知らない。麻生町では初めての遺物と思う。そういう意味で本遺跡が調査されたことは学術的に貴重な資料である。

参考文献

茨城県麻生町遺跡地名表　　麻生町教育委員会
東京都多摩ニュータウンNo.52遺跡
縄文土器の知識1　　麻生　優・白石浩之著

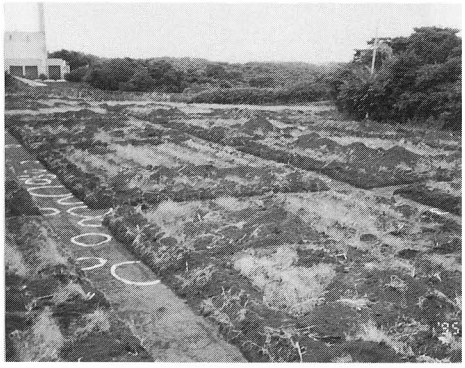
６号トレンチ　焼却場を望む

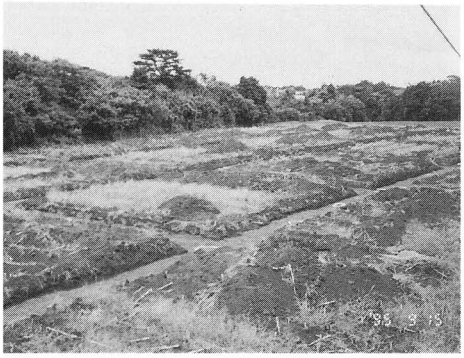
５号トレンチ　遺構確認状態



トレンチ全景

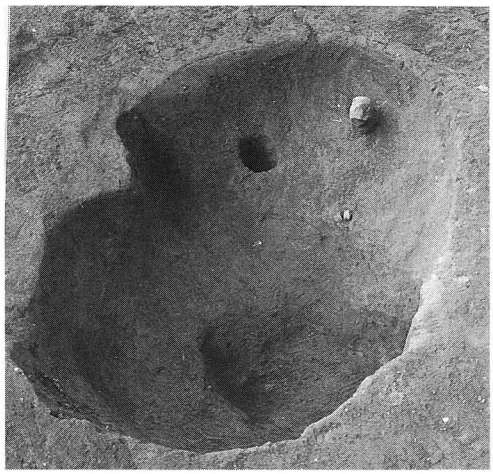
４号トレンチ





遺跡全景とトレンチ位置

ＰＬ－１



ＳＫ－２　完掘状態

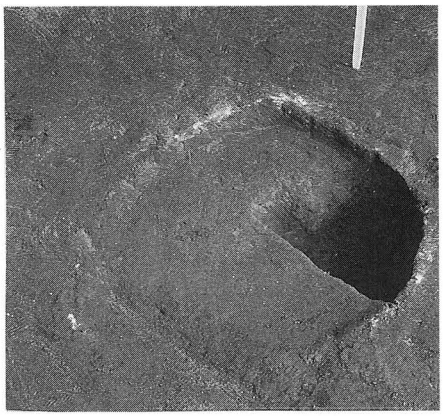
完掘状態　ＳＫ－３

ＳＫ－４　完掘状態

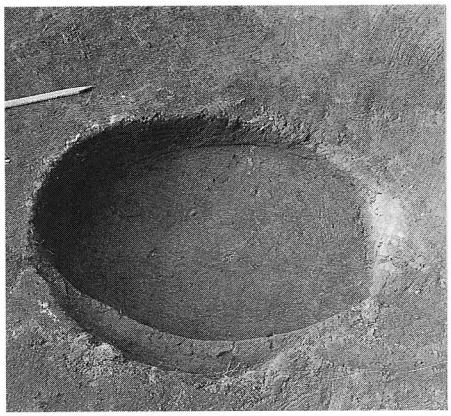
完掘状態　ＳＫ－５

ＳＫ－４遺物出土状態

ＰＬ－２



ＳＫ－６　完掘状態

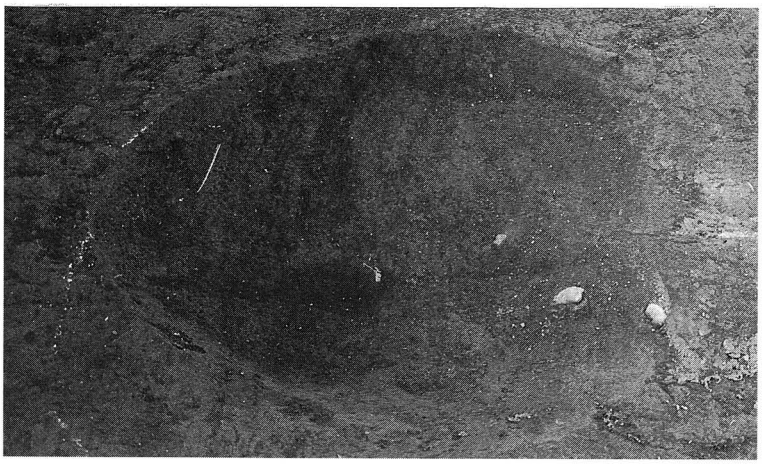


ＳＫ－７　完掘状態

ＳＫ－８　完掘状態

ＳＫ－９
完掘状態

ＰＬ－３



ＳＫ－10
遺物出土状態

ＳＫ－11
完掘状態

ＳＫ－12
完掘状態

ＰＬ－４

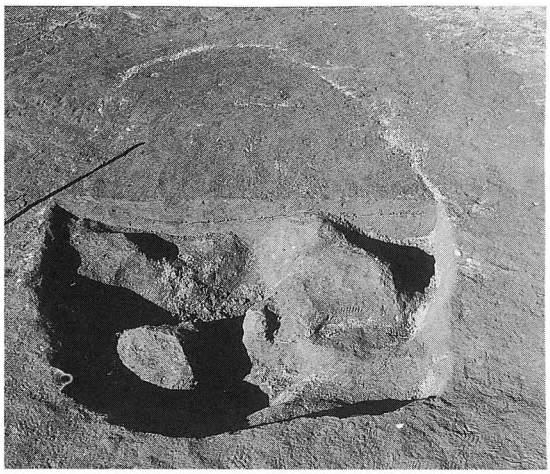
ＳＫ－13
完掘状態

ＳＫ－14㊤
ＳＫ－15㊦
遺物出土状態

ＳＫ－16
完掘状態

ＰＬ－５

ＳＫ－17
完掘状態



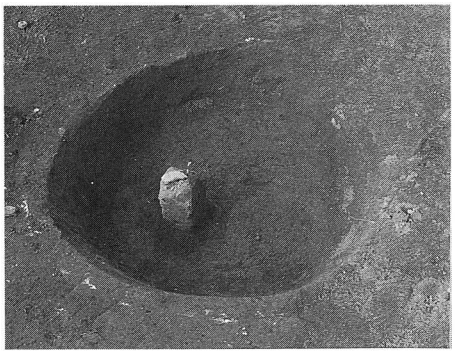
ＳＫ－18
土層と遺物

ＳＫ
－19
完掘
状態

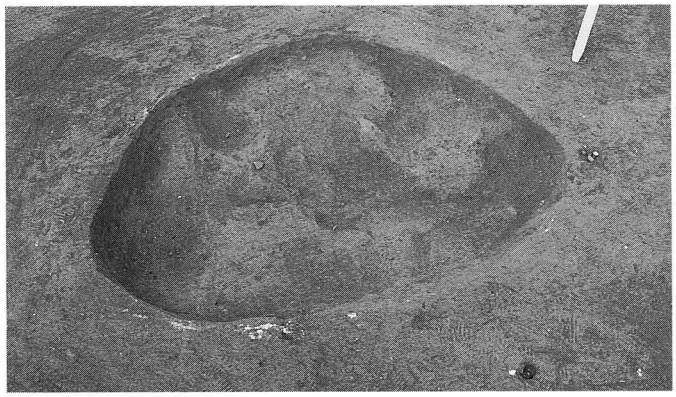
ＰＬ－６

ＳＫ－20　完掘状態

ＳＫ－21　完掘状態



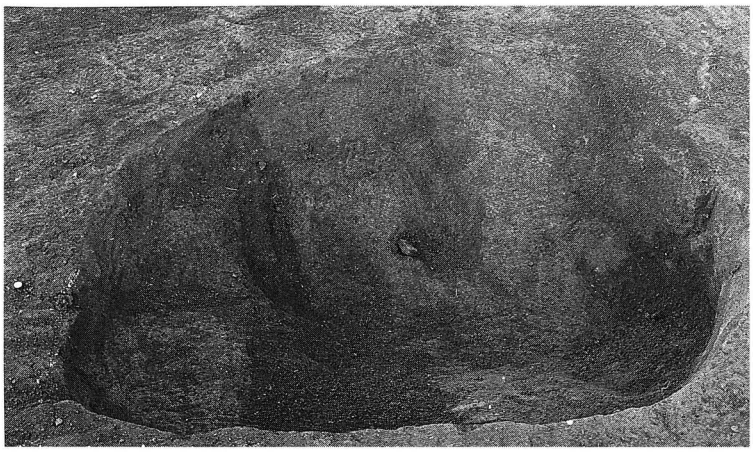
ＳＫ－22　遺物出土状態



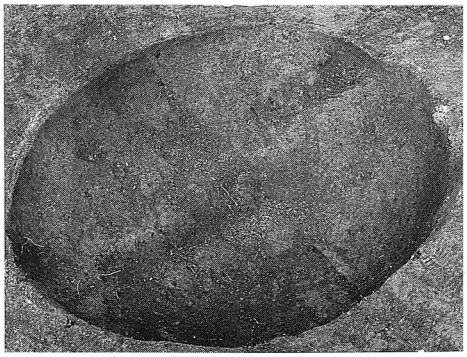
ＳＫ－23　完掘状態

ＰＬ－７

ＳＫ－24　完掘状態



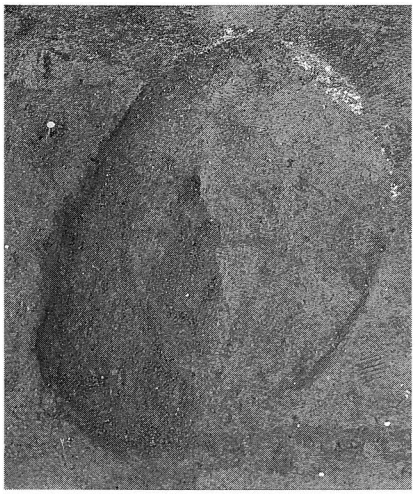
ＳＫ－25　完掘状態



ＳＫ－26　完掘状態

ＳＫ－27　完掘状態

P.L－8



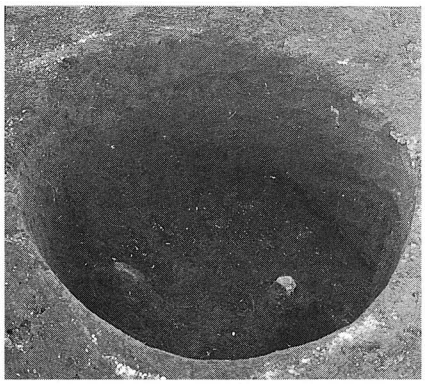
ＳＫ－28　完掘状態

ＳＫ－29　完掘状態

ＳＫ－30　完掘状態

ＳＫ－31　完掘状態

ＳＫ－32　完掘状態



ＳＫ－33　遺物出土状態

ＰＬ－９

ＳＫ－34　完掘状態

ＳＫ－35　完掘状態

ＳＫ－36　完掘状態

ＳＫ－37　完掘状態

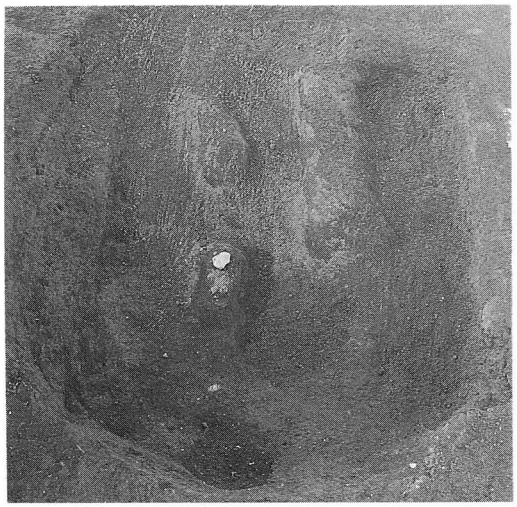
ＳＫ－38　完掘状態

ＳＫ－39　完掘状態

ＰＬ－10

ＳＫ－40　完掘状態

ＳＫ－43　完掘状態



ＳＫ－41　遺物出土状態

ＳＫ－44　完掘状態

ＳＫ－42　完掘状態

ＳＫ－46　完掘状態

ＰＬ－11

ＳＫ－47　完掘状態

ＳＫ－50　遺物出土状態

ＳＫ－48　完掘状態

ＳＫ－53　遺物出土状態

ＳＫ－49
完掘状態

ＰＬ－12

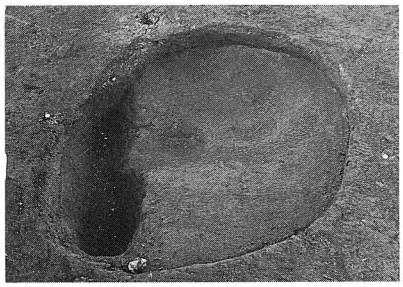
ＳＫ－54㊤ ＳＫ－55㊦　完掘状態

ＳＫ－59　完掘状態

ＳＫ－56　遺物出土状態

ＳＫ－60　遺物出土状態

ＳＫ－57　完掘状態

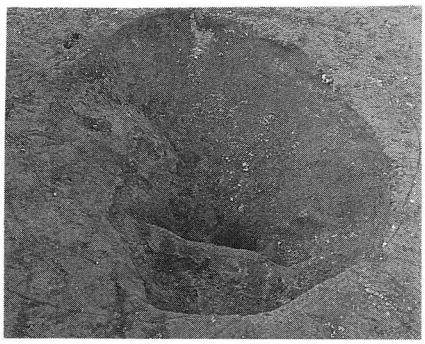


ＳＫ－62　完掘状態

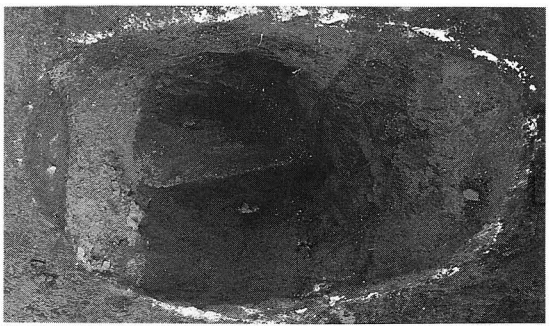
ＰＬ－13

ＳＫ－63
完掘状態

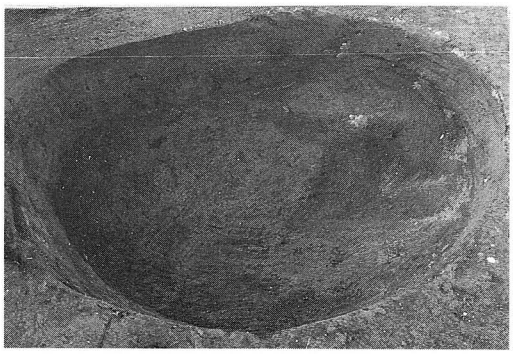
ＳＫ－65　遺物出土状態



ＳＫ－67　完掘状態

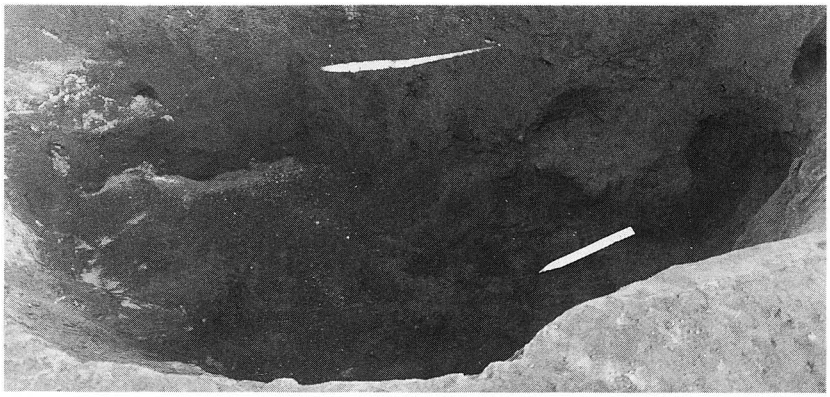


ＳＫ－66　完掘状態



ＳＫ－69　完掘状態

ＰＬ－14



ＳＫ－70　完掘状態

ＳＫ－71　遺物出土状態

ＳＫ－72　完掘状態

ＳＫ－73　完掘状態

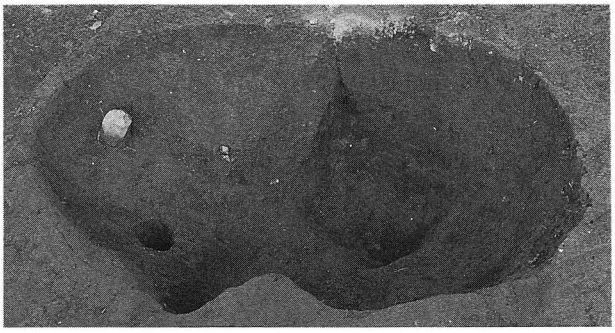
ＰＬ－15

ＳＫ－74　遺物出土状態

ＳＫ－77　完掘状態

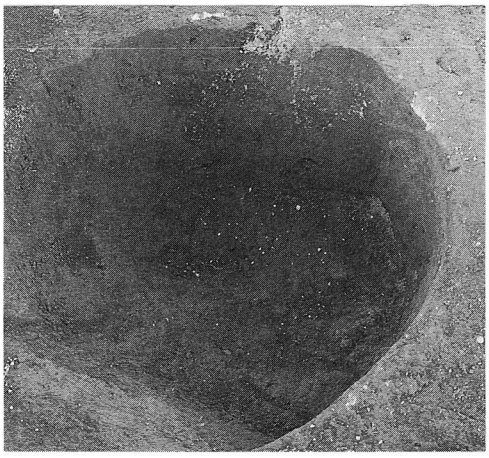
ＳＫ－82
完掘状態

ＰＬ－16



ＳＫ－83　遺物出土状態

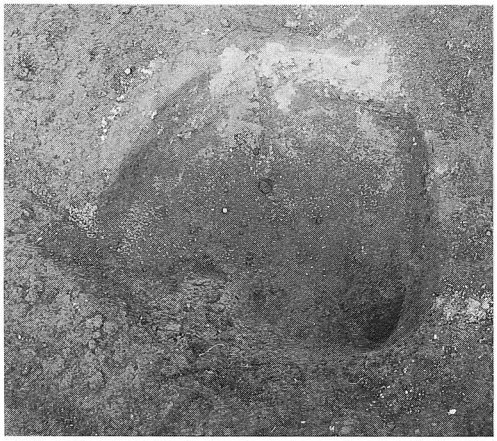
ＳＫ－84　完掘状態



ＳＫ－85　完掘状態

ＳＫ－87　完掘状態

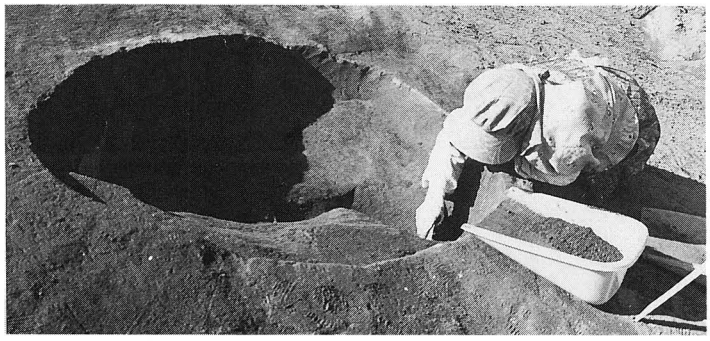
ＰＬ－17



ＳＫ－88　完掘状態

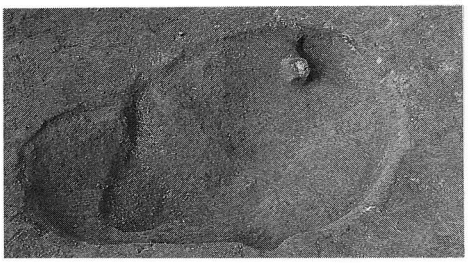
ＳＫ－91　遺物出土状態

ＳＫ－92　土層



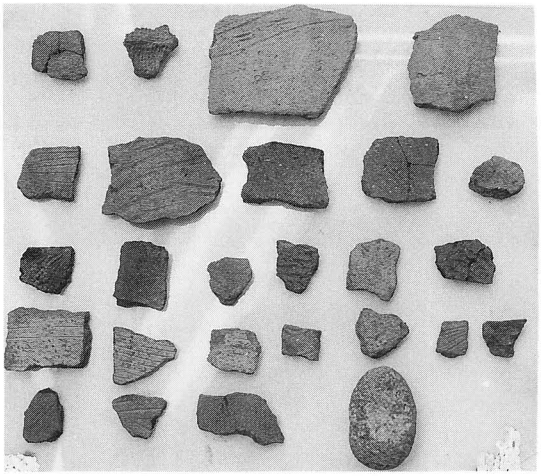
ＳＫ－１　調査状態

ＰＬ－18

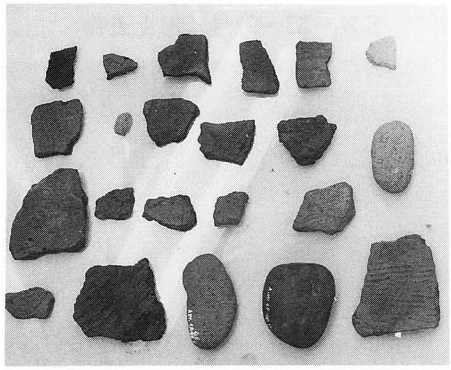


ＳＫ－52　完掘状態

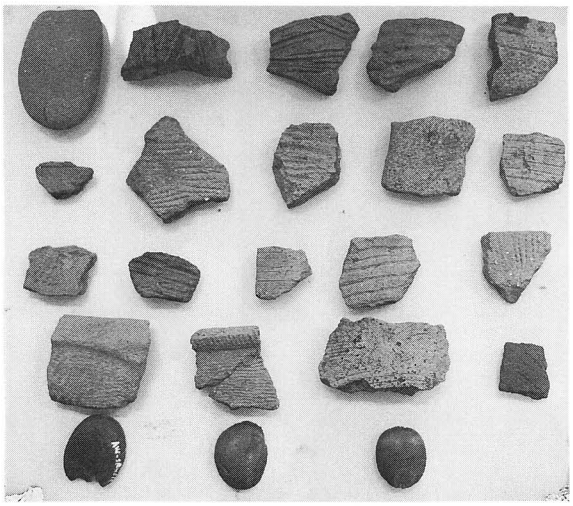
ＳＫ－58　完掘状態



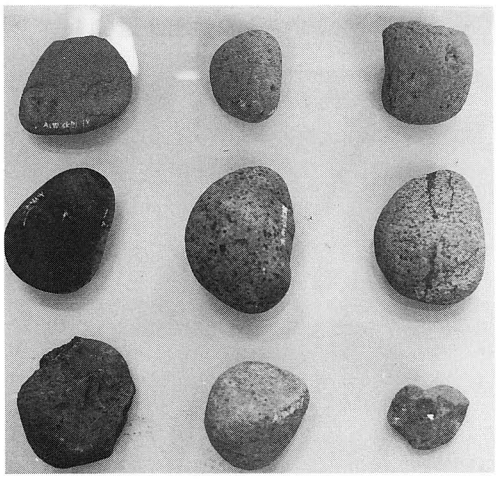
ＳＫ－２～25　出土遺物



ＳＫ－26～48　出土遺物



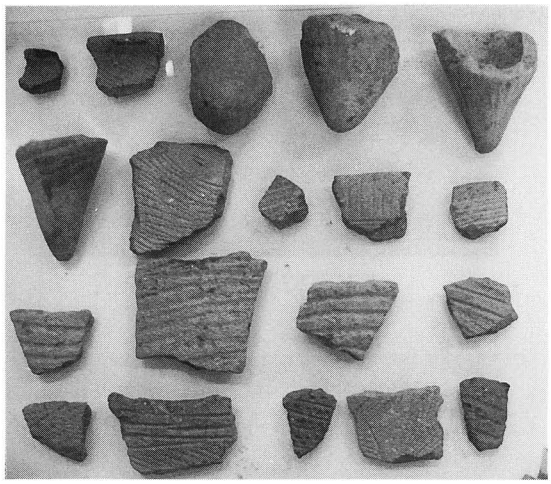
ＳＫ－70～81　出土遺物



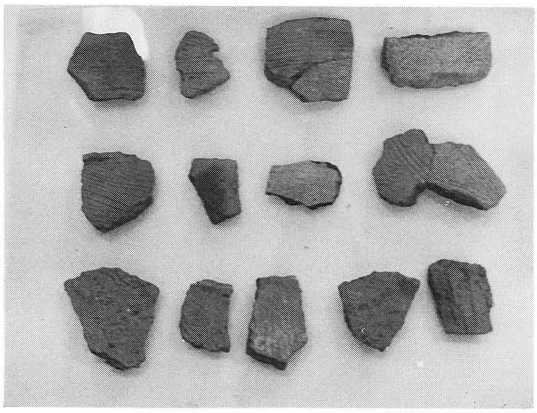
ＳＫ－71号　出土遺物

ＰＬ－19

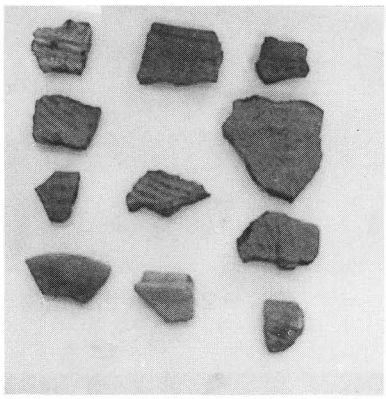
ＳＫ－83～91号　出土遺物



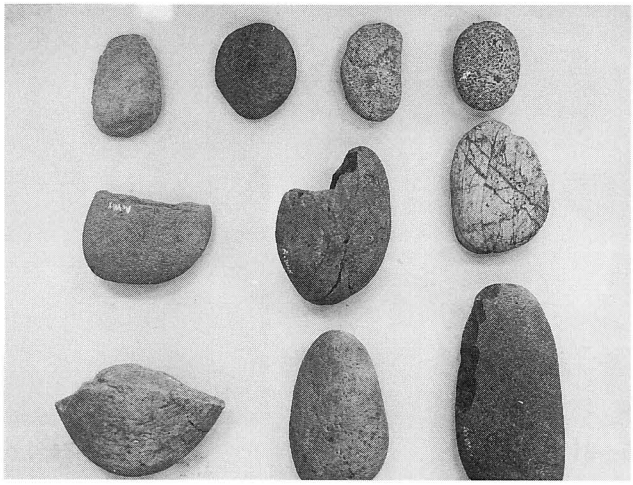
その他出土遺物



その他出土遺物



その他出土遺物



その他出土遺物

ＰＬ－20

遺構確認作業

調査終了後の全景

PL－21

ワラビ台遺跡調査報告書

1997年3月発行

発行　麻生町教育委員会
行方郡麻生町麻生1561－9
TEL　0299－72－0811

編集　鹿行文化研究所
鹿嶋市青塚690
TEL　0299－69－2740

印刷　やまと孔版社
行方郡麻生町白浜112
TEL　0299－73－3117